

2021 年度

---

# 教育課程・授業計画

(Syllabus)

---



SEITOKU

聖徳大学幼児教育専門学校

カリキュラムマップ 1部生

入学前学習		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	卒業後
・応答性 ・学習への意欲		基礎学力を整える時期	仲間と学び合い、 学びの基礎を固める時期	仲間と学び合い、 専門性を研く時期	実践力を高める時期	フォローアップ
保育現場で学ぶ			<b>実習指導 幼実Ⅰ</b> (11月) 実践を通じた幼稚園教育の基礎理解 <b>実習指導 保実Ⅰ</b> (2月) 実践を通じた保育所保育の基礎理解 <b>実習指導 施設</b> (3月) 施設支援を理解し実践力を高める <b>インターンシップ実習</b> 保育者として意識の高揚と現場の理解をはかる	<b>実習指導 保実Ⅱ</b> (5～6月) 保育所保育を理解し実践力を高める <b>実習指導 保実Ⅲ</b> (5～6月) 施設支援を理解し実践力を高める	<b>実習指導 幼実Ⅱ</b> (10月上旬) 幼稚園教育を理解し実践力を高める	本校の卒業生像… ①主体的に学び続ける保育者 ②自分の保育観を確立する
保育を構築する	基礎理論の理解	<b>保育者論</b> 保育者としての社会貢献のビジョン <b>保育原理</b> 保育とは・保育理論の基礎を学ぶ <b>保育内容総論</b> 保育内容の総合的理解と実践力	<b>教育原理</b> 豊かな教育観の習得	<b>教育・保育課程論</b> 教育課程・保育課程の理解 <b>教育方法論</b> 教育方法の多様性と影響力	<b>保育・教職実践演習</b> 自己課題の明確化と資質能力の向上 <b>教育史</b> 教育の歩みと過去からの学び	
	指導法の理解	<b>乳児保育Ⅰ</b> 3歳未満児の心と身体の発達と保育	<b>保育内容・健康</b> 健康のねらいと内容の理解 <b>保育内容・言葉</b> 言葉のねらいと内容の理解 <b>乳児保育Ⅱ</b> 3歳未満児の保育と援助の方法	<b>保育内容・環境</b> 環境のねらいと内容の理解 <b>保育内容・人間関係</b> 人間関係のねらいと内容の理解 <b>保育内容・造形表現</b> 発達に応じた造形活動を展開する力	<b>保育内容・音楽表現</b> 乳幼児を育む音楽表現活動	
	福祉の理解	<b>社会福祉</b> 社会福祉の基礎的知識を身につける	<b>社会的養護Ⅰ</b> 子どもを育てる社会の責任を考える	<b>社会的養護Ⅱ</b> 社会的養護観を身につける <b>障害児保育</b> 障害児を理解する保育者を目指す	<b>子ども家庭福祉</b> 子ども家庭福祉の理念や実施体系を知る <b>子ども家庭支援論</b> 子どもと家族のために考え支える姿勢 <b>特別支援の基礎</b> 特別なニーズのある子どもの理解と支援	
子どもを理解する	心の理解	<b>子どもの保健</b> 成長発達や病気などを通して子どもをよく知る	<b>発達心理学</b> 乳幼児の心身の発達及び学習の過程	<b>幼児理解・保育相談</b> 幼児一人ひとりに応じた援助 <b>子どもの理解と援助</b> 子どもの心身の発達と保育実践 <b>子ども家庭支援の心理学</b> 子どもの発達と子育て家庭の支援 <b>教育相談</b> 教育相談(カウンセリング)の基礎的理解	<b>保育相談支援</b> 教育相談と子育て支援カウンセリング	
	身体理解			<b>子どもの健康と安全</b> 子どもの健康と安全に関する知識と技術	<b>子どもの食と栄養</b> 子どもの発育に影響のある栄養と食物	
保育内容・方法を身につける	音楽	<b>音楽Ⅱ～1</b> 楽典の基礎・楽譜の読み書きの理解	<b>音楽Ⅰ</b> ピアノ演奏技術、音楽表現の基礎 <b>音楽Ⅱ～2</b> 楽典の理解、応用と実践			
	体育	<b>体育Ⅰ</b> 身体運動の基礎知識と動きづくり	<b>体育Ⅱ</b> 身体運動の基礎知識と動きづくり	<b>専門体育Ⅰ</b> 創造力豊かな表現力と身体運動の実践	<b>専門体育Ⅱ</b> 創造力豊かな表現力と身体運動の実践	
	児童文化	<b>図画工作Ⅰ</b> 図画工作の基礎 <b>児童文化Ⅱ～1</b> 人形劇の理論と実際 <b>児童文化Ⅲ～1</b> 創造性を育む折り紙あそびと活用法	<b>児童文化Ⅱ～2</b> さまざまな保育教材を学ぶ <b>児童文化Ⅲ～2</b> 折り紙の遊び方、現場での活用法を学ぶ	<b>児童文化Ⅰ～1</b> 表現遊び(ダンス)の創作と実演	<b>児童文化Ⅰ～2</b> 表現遊び(ダンス)の創作と指導 <b>図画工作Ⅱ</b> 図画工作の実践力を身につける	
相互理解力を養う	学びの基礎	<b>聖徳教育Ⅲ～1</b> 学生としてのマナーと基礎学習力 <b>国語</b> 保育者として必要な教養と文章表現力 <b>英語Ⅰ</b> 保育現場における英語の実践力を養う	<b>聖徳教育Ⅲ～2</b> 学生としてのマナーと基礎学習力 <b>情報基礎</b> 保育者としての情報活用能力を修得する <b>英語Ⅱ</b> 保育現場における英語の実践力を養う	<b>専門教育演習</b> 探究心と協調性を高める研究活動	<b>日本国憲法</b> 将来の主権者として憲法を考える	
	豊かな人間性	<b>聖徳教育Ⅰ</b> 行事体験を通じた実践と豊かな教養 <b>聖徳教育Ⅱ</b> 研修体験を通じた「和」の実践				

カリキュラムマップ 2部生

入学前学習		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	卒業後 フォローアップ
・応答性 ・学習への意欲		基礎学力を整える時期			仲間と学び合い、 学びの基礎を固め、専門性を研ぐ時期		一人一人が自律し、 実践力を高める時期	
保育現場で学ぶ		実習指導 幼実Ⅰ (2月) 実践を通した幼稚園教育の基礎理解		実習指導 幼実Ⅱ (10月末) 幼稚園教育を理解し実践力を高める 実習指導 保実Ⅰ (2月) 実践を通した保育所保育の基礎理解		実習指導 施設 (6月) 施設支援を理解し実践力を高める 実習指導 保実Ⅱ (10月) 保育所保育を理解し実践力を高める 実習指導 保実Ⅲ (10月) 施設支援を理解し実践力を高める		
保育を 構築する	基礎理論 の理解	保育者論 保育者としての社会貢献のビジョン 保育原理 保育とは・保育理論の基礎を学ぶ 保育内容総論 保育内容の総合的理解と実践力		教育原理 豊かな教育観の習得		教育・保育課程論 教育課程・保育課程の理解		保育・教職実践演習 自己課題の明確化と資質能力の向上 教育史 教育の歩みと過去からの学び
	指導法の 理解	保育内容・言葉 言葉のねらいと内容の理解		保育内容・環境 環境のねらいと内容の理解 乳児保育Ⅰ 3歳未満児の心と身体の発達と保育		保育内容・健康 健康のねらいと内容の理解 保育内容・造形表現 発達に応じた造形活動を展開する力 乳児保育Ⅱ 3歳未満児の保育と援助の方法		保育内容・人間関係 人間関係のねらいと内容の理解 保育内容・音楽表現 乳幼児を育む音楽表現活動
	福祉の 理解			社会福祉 社会福祉の基礎的知識を身につける		社会的養護Ⅰ 子どもを育てる社会の責任を考える こども家庭福祉 児童家庭福祉の理念や実施体系を知る		社会的養護Ⅱ 社会的養護親を身につける 障害児保育 障害児を理解する保育者を目指す
子どもを 理解する	心の理解	発達心理学 乳幼児の心身の発達及び学習の過程		子どもの理解と援助 子どもの心身の発達と保育実践 子どもの保健 成長発達や病気などを通して子どもをよく知る		教育相談 教育相談(カウンセリング)の基礎的理解 子ども家庭支援の心理学 子どもの発達と子育てで家庭の支援 幼児理解・保育相談 幼児一人ひとりに応じた援助		保育相談支援 教育相談(カウンセリング)の理論と実践
	身体の 理解					子どもの健康と安全 子どもの健康と安全に関する知識と技術		子どもの食と栄養 子どもの発育に影響のある栄養と食物
保育内容・ 方法を身につける	音楽	音楽Ⅱ～1 楽典の基礎・楽譜の読み書きの理解		音楽Ⅱ～2 楽典の理解、応用と実践		音楽Ⅰ ピアノ演奏技術、音楽表現の基礎		
	体育	体育Ⅰ 身体運動の基礎知識と動きづくり		体育Ⅱ 身体運動の基礎知識と動きづくり		専門体育Ⅰ 創造力豊かな表現力と身体運動の実践		専門体育Ⅱ 創造力豊かな表現力と身体運動の実践
	児童文化	図画工作Ⅰ 図画工作の基礎 児童文化Ⅱ 人形劇の理論と実際		児童文化Ⅲ 創造性を育む折り紙あそびと活用法		児童文化Ⅰ～1 表現遊び(ダンス)の創作と実演		児童文化Ⅰ～2 表現遊び(ダンス)の創作と指導
相互理解力 を養う	学びの 基礎	聖徳教育Ⅲ～1 学生としてのマナーと基礎学習力 英語Ⅰ 保育現場における英語の実践力を養う		聖徳教育Ⅲ～2 学生としてのマナーと基礎学習力 情報基礎 保育者としての情報活用能力を修得する 英語Ⅱ 保育現場における英語の実践力を養う		国語 保育者として必要な教養と文章表現力		日本国憲法 将来の主権者として憲法を考える 専門教育演習 探究心と協調性を高める研究活動
	豊かな 人間性					聖徳教育Ⅰ 行事体験を通した実践と豊かな教養 聖徳教育Ⅱ 研修体験を通した「和」の実践		

本校の卒業生像… ①主体的に学び続ける保育者 ②自分の保育観を確立する

## 聖徳大学幼児教育専門学校が求めるもの

### 建学の精神「和」

東京聖徳学園の歴史は、昭和8年(1933年)4月10日、川並香順・孝子先生が東京市大森区新井宿(現・東京都大田区)に設立した「聖徳家政学院」と「新井宿幼稚園」から始まります。当時、社会福祉や民生の仕事に取り組んでいた香順先生は、社会的に軽視され、その内容も形式的でしかなかった女子教育・幼児教育に改革の必要性を強く感じていました。このような時、香順・孝子先生の長女が2歳で夭折。悲しみの底にあって、香順・孝子先生の心に芽生えたのは「我が子に注ぐ愛情をすべての子に注ぐ。それが我が子を"生かす"たった一つの道ではないか」という強い誓いの念でした。以来、香順・孝子先生はその人生を女子教育・幼児教育に捧げ、その高潔な教育理念の実現にむけて努力を続けました。

香順・孝子先生の理想は、学園創設より、今もその輝きを失うことなく"聖徳教育"の中に確かな志となっているのです。香順先生は、聖徳太子が制定した十七条憲法の第一条「和を以て貴しと為す」から建学の精神を「和」に定め、教育の目標を次の3点にまとめました。

1. 人間が生まれながらに持っている個性を尊重し、しかも調和がとれる人間の育成。
2. 社会の変化に対応し、その発展に貢献できる専門能力・技術を備えた人材の育成。
3. 高い知性と豊かな情操を備えた女性。

こうした考え方は、現代社会において、一層その価値が高まっています。創立者川並香順・孝子先生はすでに故人となりましたが、その精神は時代を超えて学園の教育に生きているのです。

### 3つのポリシー

聖徳大学幼児教育専門学校では、学則に定める教育目的を果たすため、専門士授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つの方針を、次のとおり定めています。

#### (1) 専門士授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本校は、即戦力としての幼稚園教諭及び保育士の養成を目的としており、以下の知識・能力・態度を有するに至った者に専門士を授与する。

- ① 幼児教育に対する情熱や責任感を身につけている。
- ② 専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている。
- ③ 多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている。

#### (2) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

教育目的を達成するために、以下のような方針に基づく教育課程の編成・実施を行う。

- ① 幼児教育に対する情熱や責任感を培うために、幼稚園・保育所等の実習を重視する。
- ② 人間性を高める教養科目と子ども理解を深める専門教育科目の連携を図り、実践的及び専門的力を構築する。
- ③ 協働学習を通じて、コミュニケーション能力、表現力及び創造力を高める。

#### (3) 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育目的を達成するため、以下のような条件を有する者を入学させる。

- ① 「元気、笑顔、熱意、誠実」を持ち、将来、免許・資格を活かす意思がある。
- ② 入学後の修学に必要な基礎学力がある。
- ③ コミュニケーション能力を持ち、協調してものごとに取り組む姿勢がある。

## 2021 年度教育課程

教育課程は、本校での学び・履修の全体計画です。学生の皆さんが履修する際の諸注意、授業を受講する際に必要な説明が記載されています。必要箇所については熟読し、理解を深めていただき、授業に臨んでください。

### 1. 学期について

1年間の学期は、前期・後期の2学期に分かれ、それぞれの学期において授業期間や定期試験の日程をお知らせいたします。また、本校における授業科目は、一部科目を除き、前期・後期の学期ごとに開講されます。各科目の履修期は、「履修科目一覧表」をご覧ください。

### 2. 単位について

本校では、単位制を採用しています。単位制とは一定の学修量を単位として表わし、所定の期間で量的修得を卒業の判定基準とする方式です。

単位の計算基準は以下の通りとなります。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める授業時間をもって1単位とします。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とします。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本校が定める時間の授業をもって1単位とします。
- (3) 卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を授与することが適当と認められた場合には、これらに必要な学習等を考慮して、単位数を定めることがあります。
- (4) 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれか、又はこれらの併用により行い、多様なメディアを高度に利用して、授業教室等以外の場所での学修を行うことがあります。

### 3. 成績評価について

授業科目を履修し、試験を受けると成績の評価がなされます。成績評価は、次の基準に基づいて行われます。

100点を満点として、S(90点以上)、A(89点～80点)、B(79点～70点)、C(69点～60点)が合格、D(59点以下)は不合格となります。

### 4. 授業時間について

授業時間は、90分を1授業時間として行われます。

### 5. 再履修について

履修した科目のうち不合格になった科目を、次学期以降に再度履修することを「再履修」といい、その年度にあらためて履修することができます。

具体的な手続き方法については、各学期開始時にお知らせいたします。

### 6. 進級基準

各年次から上級年次へ進級するには、各年次終了時において、卒業要件単位数のうち、以下の単位数を修得しなければなりません。

学 科	修得単位数
保育科第1部	18
保育科第2部	1年次 8 2年次 14

### 7. 卒業要件

卒業には、次の要件を満たす必要があります。

- (1) 保育科第1部の学生は、2年以上在学していること。  
保育科第2部の学生は、3年以上在学していること。
- (2) 卒業に必要な授業科目を履修し単位を修得していること。
- (3) 本校で必須と定めた学校行事に参加する等の条件を満たしていること。
- (4) 授業料等校納金を完納していること。



実務経験のある教員による授業科目（2021年度）

担当教員	授 業 科 目	実務経験の概要	
中山 博子	保育内容総論 教職実践演習 保育・教職実践演習 幼児教育実習	幼稚園園長	文部科学省の指導書「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」他の作成協力者。また、全国国立幼稚園園長会副会長として、多くの指導資料を全国に発信してきた。長年にわたる勤務経験（園長等含）を活かし、子どもとの関わり方など、保育現場を想定した授業を展開する。
井上 由利子	保育内容・健康 保育内容・環境 保育内容・環境Ⅱ 幼児理解・保育相談 幼児教育実習	幼稚園園長	幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験等を活かした授業を展開し、実践的な保育方法等を学びます。
緒方 玲子	発達心理学 臨床心理学 教育相談 子ども家庭支援の心理学 保育相談支援 保育実習Ⅰ、Ⅱ 保育実習指導Ⅰ、Ⅱ	臨床心理士	臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの心身の発達や心理的特質等について、わかりやすく解説します。
小松 洋子	音楽Ⅰ	音楽講師	音楽教室講師としての長きにわたる勤務経験を活かし、実践的で分かりやすい授業を展開します。
堀井 美砂子	乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 保育原理 保育実習Ⅰ、Ⅱ 保育実習指導Ⅰ、Ⅱ	保育士	公立保育園の保育士としての勤務経験を活かし、保育の理論と方法が結びつくような授業を展開します。
三枝 千代子	児童文化Ⅲ～1 児童文化Ⅲ～2 幼児教育実習	幼稚園教諭	幼稚園での勤務経験を生かした授業を展開し、実践的な技能と表現力を養います。
飯野 伸子	保健Ⅲ	看護師 助産師	医療現場で看護師、助産師として長年病院で従事してきた経験を活かして授業を展開し、子どもの健康を守り、健康を維持増進するために必要な知識と技術を学びます。
飯塚 真徳	児童文化Ⅰ～1 児童文化Ⅰ～2	現代舞踊家 ダンス教室講師	長年にわたり現代舞踊を中心にダンサーとして活動し、作品創作や後進の育成を行ってきた経験を活かして、表現遊び（ダンス）の創作について指導します。
大村 龍太郎	保育者論	小学校教諭	小学校教諭、教育センター指導主事等の経験を活かした授業を実施し、保育士の専門性とは何か、連携や協働はどうあるべきかについて考えを深めます。

担当教員	授 業 科 目	実務経験の概要	
岡里 美幸	保育内容・音楽表現	音楽教室・幼児教室講師 ソプラノ歌手	合唱団の指導や幼児教室の音楽講師、ソプラノ歌手など、長年の音楽表現活動の経験を活かした授業を実施し、乳幼児の発達を促す音楽表現活動を実践的に学びます。
鹿島 房子	障害児保育	保育士	医療現場の保育士として長年病院で従事してきた経験を活かして授業を展開し、障害児保育における保育者の役割についての理解を深めます。
木村 早苗	保育内容・造形表現	小学校教諭	長年にわたる小学校教員としての経験と美術教育における活動を活かした授業を展開し、幼児の造形表現の特色と造形能力の発達を学び、造形表現の指導のあり方を様々な実践を通して習得していきます。
原田 正平	子どもの保健	小児科専門医 内分泌代謝科専門医 甲状腺診療専門医	臨床医（小児科、内分泌代謝科、甲状腺診療の専門医）としての実務経験から、子どもの保健の基礎知識について解説します。
古川 由紀子	保育内容・人間関係	幼稚園園長	幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かして授業を展開し、実践的な保育方法等を学びます。

# シ ラ バ ス 授 業 計 画

該当学年	開講される学年	担当教員	担当教員の氏名
授業科目名	授業科目の名称	サブタイトル	授業科目の副題
授業形態	※1	単位数	科目の単位数
開講時期	※2	出席要件	※3
到達目標	授業担当教員が、受講者に期待する授業科目の履修後の到達目標が書かれています。		
ディプロマ・ポリシー (専門士授与の方針) との関連	授業科目が、専門士授与の方針(ディプロマ・ポリシー)とどのように関連しているかが書かれています。		
授業の方法	授業科目の授業実施方法です。		
テキスト・教材・参考 図書	テキスト：授業で使用する教材です。 教 材：テキスト・参考図書以外に使用する教材です。 参考図書：教科書の他に使用する参考書です。		
評価の要点	授業科目の成績評価の方法や手順です。		
総合評価割合	評価の要点をどのような手段で、どのような基準で評価するのかが書かれています。		
履修上の注意事項や学 習上の助言など	授業受講上の注意事項が書かれています。 <u>実務経験のある授業担当教員については、実務経験と本科目の 関連について書かれています。</u>		

## 授業計画 (SYLLABUS シラバス) について

- ※1 授業形態：講義、演習、実習、実技などが標記されます。
- ※2 開講時期：科目が開講される時期(前期、後期、通年)などが標記されます。
- ※3 出席要件：学期末試験の受験資格要件(全授業回数の4/5以上出席)が標記されます。

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	毎回の授業タイトルと授業内容が書かれています。	授業回数ごとに授業において、身につくことが期待される知識・能力等が書かれています。
5		
15回		
試験	試験方法が書かれています。	



該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部全学年 2部全学年	聖徳教育Ⅰ	川並 順 他	
サブタイトル	行事体験を通じた実践と豊かな教養	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	
開講時期	1部2年間 2部3年間		
到 達 目 標			
<p>本科目の目的は、本校の建学の精神「和」の意義を知り、保育者としての豊かな人間性を高めることにある。そのために、以下の目標に沿って行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外で活躍している芸術家による「本物」の芸術の鑑賞をすることを通して、幅広く深い教養を身につけ、豊かな感性を養うこと。</li> <li>2. 幼稚園との合同活動を通して、「子どもの発達・成長」を体験的に学び、学業の素地となるようにすること。また、多様な共同活動をする中で互いに高め合う機会とすること。</li> </ol>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目はディプロマ・ポリシーにおいて「①幼児教育に対する情熱や責任感を身につけること」「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけること」及び「③多様な協同学習を通して、豊かな人間性を身につけること」を目標としている。</p>			
授 業 の 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シリーズコンサートに参加する。川並記念講堂にて国内外のアーティストによる音楽や演技を体験し、豊かな感性と表現力を養う。</li> <li>2. 幼稚園と合同開催の運動会に参加する。運動会の運営や子どもの指導に携わり、行事・運動会における保育者の役割等を体験的に学ぶ。</li> <li>3. 幼稚園の「にっこ祭り」と合同開催の文化祭・児童文化研究発表会に参加する。活動の企画・準備・運営等、活動体験を通して行事等の準備や子どもとの関わりを実践的に学ぶ。</li> <li>4. 聖徳フレンドシップデイ(SFD)に参加する。クラス交流や異学年交流を通して協同体験を学ぶ。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>シリーズコンサートの資料は当日、配付する。 運動会および文化祭については、必要に応じて資料を配付する。</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
卒業までに上記の全ての行事に参加し、レポートを提出する。		認定評価とする。	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>シリーズコンサートへの参加はフォーマルスーツを着用すること。 その他の行事の際の服装は、「学生便覧」の記載に則ること。</p>			

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1, 2年 2部1, 2年	聖徳教育Ⅱ	川並 順 他	
サブタイトル	研修体験を通じた「和」の実践	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	
開講時期	1年次及び2年次		
到 達 目 標			
<p>本科目の目的は、本校の建学の精神「和」の意義を深く理解し、保育者としての豊かな人間性を高めることにある。そのために、以下の目標に沿って行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学外研修Ⅰ、学外研修Ⅱに参加する中で、教養、感性、価値観を広げ、信頼関係を築く。</li> <li>2. 学外活動に参加する中で、場に応じた行動や判断力・自己責任能力を身につけ、新しい価値を創造するための学びを得る。</li> </ol>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目はディプロマ・ポリシーにおいて「①幼児教育に対する情熱や責任感を身につけること」及び「③多様な協同学習を通して、豊かな人間性を身につけること」を目標としている。</p>			
授 業 の 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学外研修Ⅰ（長野）に参加する。集団生活の中で、社会人としての規則正しい団体生活を理解し、自制心を養い、他人に対する思いやりの気持ちを涵養する。クラス、同学年、教職員との親睦を深め、信頼関係を作り上げる。</li> <li>2. 学外研修Ⅱ（北海道）に参加する。大自然と歴史・文化に直接触れることにより、豊かな教養、感性、価値観、視野を広げ、また様々な人たちとのふれあいを通して、信頼関係を築き、社会人としてのマナーを身につける。宿泊ホテルでは食事のマナーを実践的に学ぶ。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>学外研修のしおり、マナー読本 その他資料を配付する。</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
学外研修Ⅰおよび学外研修Ⅱに参加し、レポートを提出する。		認定評価とする。	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>学外研修中は教職員および生活委員の指示に従い、体調管理、安全面に気を配り、集合時間等の決まりを守るよう心がけること。</p>			

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	聖徳教育Ⅲ～1	担当教員	
サブタイトル	学生としてのマナーと基礎学習力	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
保育者を目指す学生として必要なマナーや社会規範、知識と技能の基礎を習得する。 今後履修するすべての授業を受ける際の基礎となる「スタディ・スキル（学修技能）」と、卒業後に社会人として求められる「ソーシャル・スキル（社会技能）」を身につけることを目指す。 協調性や自己管理能力も培う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
社会人や保育者としてのマナーや実習に臨む際の基礎となる知識や技術を学び、「幼児教育に対する情熱や責任感」を培い、「多様な協働学習を通して人間性」を養う。			
授業の方法			
本校の専任教員が各専門性を生かした内容を、学生が主体的に学べるように、ピアワーク、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション等の手法を用いて授業を行う。 またこの授業は、複数の教員が担当し対面授業を基本とする。			
テキスト・教材・参考図書			
教材：必要に応じて教材や資料プリント、課題を配付する。			
評価の要点		総合評価割合	
1. 協働学習：取り組む姿勢（主体性・積極性・協調性）		協働学習への取り組み	80%
2. レポート：内容、提出期日の遵守		ノート	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート（A4判）とUSBメモリストிக்க（外部記憶媒体）を用意する。</li> <li>・授業回ごとに特別に持参するものがある。その前の授業回で告知するので忘れないようにする。</li> <li>・事前にシラバスに記載された各回の授業内容を読み、当日の授業に備える。</li> </ul>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	初回ガイダンス ・授業の内容と方法、担当教員の紹介	授業内容と方法の理解
2回	自己管理の仕方 ・健康管理、スケジュールやタスク管理の仕方を学ぶ ・学習シートの活用を学ぶ	自己管理する力 タスクを管理する力
3回	キャリア① 保育の仕事あれこれ ・保育者の仕事内容を理解する ・自分の進路を考える	保育者の仕事内容の理解
4回	マナー① 表情・挨拶 ・保育者として子どものモデルとなる基本的なマナーについて学ぶ	マナー・社会規範の基礎理解
5回	マナー② 社会的マナー ・園だよりや学級だより・連絡帳等書く機会が多い保育現場。実習礼状や履歴書作成等、社会的な一般常識を踏まえた書き言葉について学ぶ	読解力、表現力 社会規範の基礎理解
6回	マナー③ 保育者として大切なものは何か ・目的に向かって積み重ねる努力や達成していく力、子どもを思いやる心とは等、グループワークを通して考える	表現力・自己管理能力
7回	マナー④ 話し言葉（ロールプレイ） ・話し言葉の基本や敬語表現の知識を学ぶ	他者への共感力 実践力
8回	マナー⑤ 電話応対（ロールプレイ） ・実習先への連絡や緊急対応の際の電話応対マナーを学ぶ	社会規範の基礎理解 実践力
9回	自己洞察（自分を知る） ・自己PRの技法（自己紹介ロールプレイ） ・実習関連の個人票にも用いることのできる「自己アピール文」を作成する	自己洞察力
10回	他者理解（他者を知る） ・人を理解するということはどういうことなのか。 その意味や方法を考える	他者理解力
11回	スタディ・スキル① 実習個人票、履歴書の書き方 ・実習や就職で用いる文章表現について学ぶ	実践力
12回	スタディ・スキル② 入学前課題を振り返る ・子どもに関連する施設を訪問したときの、取材レポートを元に、様々な発表に触れ、レポートを書くときのポイントを掴む	レポートを書く時のポイントの掴み方 発表の仕方
13回	スタディ・スキル③ 情報収集と図書室の活用 ・情報収集の方法を考える。 PCやスマホを用いた検索方法や文献資料の活用	情報収集力
14回	スタディ・スキル④ レポートの書き方・発表の仕方 ・授業でのレポート提出や発表、卒業年次のグループ研究、就職後にも保育研究大会での発表など、保育者には執筆力と発表力が求められる。基本的な姿勢やルールがなぜ必要かを考え、理解しながら身につける	レポート執筆の基礎力、 発表時の基本的姿勢
15回	振り返り ・学びを振り返る	学びの振り返り 自己評価力

該当学年	1部1年 2部1年	授業科目名	聖徳教育Ⅲ～2		担当教員	担当教員	
サブタイトル	学生としてのマナーと基礎学習力		単位数	1			
授業形態	演習		出席要件	4/5以上			
開講時期	後期						
到達目標							
<p>保育者を目指す学生として必要なマナーや社会規範、知識と技能の基礎を習得する。 履修するすべての授業の基礎となる「スタディ・スキル（学修技能）」と、卒業後に社会人として求められる「ソーシャル・スキル（社会技能）」を身につけることを目指す。協調性や自己管理能力も培う。 運動会や文化祭などの行事における企画・準備・参加・振り返りを行う。</p>							
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連							
<p>保育活動を実践する際の一連の取り組み、情報を収集しそれを資料にまとめ、口頭発表する等の社会人や保育者としての求められる基本的なスキルを学ぶ。「幼児教育に対する情熱や責任感」を培い、「多様な協働学習を通して人間性」を養う。</p>							
授業の方法							
<p>本校の専任教員が各専門性を生かした内容を、学生が主体的に学べるようにピアワーク、グループワーク、ロールプレイ、造形活動等の手法を用いて授業を行う。 またこの授業は、複数の教員が担当し対面授業を基本とする。</p>							
テキスト・教材・参考図書							
教材：必要に応じて教材や資料プリント、課題を配付する。							
評価の要点				総合評価割合			
1. 協働学習：取り組む姿勢（主体性・積極性・協調性）			協働学習への取り組み		80%		
2. レポート：内容、提出期日の遵守			ノート		20%		
履修上の注意事項や学習上の助言など							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート（A4判）とUSBメモリスティック（外部記憶媒体）を用意する。</li> <li>・授業回ごとに特別に持参するものがある。その前の授業回で告知するので忘れないようにする。</li> <li>・事前にシラバスに記載された各回の授業内容を読み、当日の授業に備える。</li> </ul>							

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	初回ガイダンス ・授業内容の確認と説明する ・行事の趣旨説明をする	自己課題を認識する力 行事のねらいを理解する力
2回	文化祭 ①行事のねらい ・実施要項や役割分担を確認する	行事のねらいを理解する力
3回	文化祭 ②企画と立案 ・役割分担の決定と実施計画を策定する	役割を把握する力 企画力、立案力
4回	附属幼稚園合同運動会 ・「運動会開催ポスター作成」の企画と実施	企画力 表現力 協力する力
5回	文化祭 ③協働学習 ・「遊びコーナー」や「壁面装飾」の実施に向けた取り組みをする	協力する力
6回	文化祭 ④協働学習 ・「遊びコーナー」や「壁面装飾」の実施に向けた取り組みをする	協力する力
7回	文化祭 ⑤協働学習 ・「遊びコーナー」や「壁面装飾」の実施に向けた取り組みをする	協力する力
8回	文化祭 ⑥調整と改良 ・「遊びコーナー」「人形劇」のシミュレーションをする	課題解決力
9回	学校行事の振り返り ・運動会や文化祭への参加を通しての振り返りを行なう	学びの振り返り 文章作成力
10回	危機管理（防災訓練） ・保育現場の危機管理についての基本を学ぶ	危機管理能力
11回	キャリア② 保育の仕事・自分の進路を考える ・1年間の学びや変化を振り返り、当初の希望進路と照らし合わせ、就職に向けて具体的な見通しを持つ	自己分析力、就職までの見通し
12回	スタディ・スキル⑤ 調査の仕方 ・先行研究などの必要な情報の検索および入手 ・方法を理解し、テーマに則した資料を収集する。また、集めた情報や資料を整理し、論理的な伝え方を考える	資料やデータの検索力、収集力
13回	スタディ・スキル⑥ 調査データの見方 ・情報処理の基礎・データの見方 ・情報を収集・処理・集約するうえで必要な情報処理の基本的な流れを学ぶ	情報検索力、コンピューター活用能力
14回	「グループ研究発表会」の参加に向けて ・「専門教育演習（グループ研究）」の趣旨、テーマ決定から調査分析、発表、論文作成までの流れを説明する	グループ研究趣旨の理解
15回	振り返り ・学びを振り返る	学びの振り返り、自己評価力

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部3年	日本国憲法	小田桐 忍	
サブタイトル	将来の主権者として憲法を考える	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のわが国のリーダーとして積極的に周囲をリードすることができる。</li> <li>・さまざまな形で問われる日本国憲法に関する基礎知識を活用することができる。</li> <li>・自分の意見を客観的に述べ、他人の意見をしっかり聞くことができる。</li> <li>・次世代に対して、責任をもってより良い社会を引き継ぐことができる。</li> <li>・わが国の基本路線としての国際協調性や多文化共存性を推進することができる。</li> <li>・聖徳大学幼児教育専門学校で日本国憲法を学ぶことの意味を理解することができる。</li> </ul>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
カリキュラムマップの中で「日本国憲法」は最終学年に配当されている。このことは「相互理解力を養う」と同時に、これまでに本学で学んできた幼児教育の知識を子どもの人権の観点から総括することをも意味する。本授業では、教育の視点、福祉の視点から将来の主権者として様々な問題を提起しながら考え、豊かな人間性を養うことを目指します。“共に”考えましょう！			
授業の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、資料（以下「教材」）を配布する。</li> <li>・教材について詳しく説明する。指名されたときは、しっかり答えること。分からないときは、どこがあるいはなぜ分からないのかを伝える。</li> <li>・毎時間テーマを決めて討論（ディスカッション）する。遠慮せず自分の意見を述べること。この討論には決められた答えはない。</li> <li>・一緒に考えながらあるいは悩みながら将来の社会のことを建設的に考えていく。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書			
テキストは使用しません。授業で使用する資料はその都度配布する。また参考図書は随時紹介する。関心のある方は、図書館で手に取って読むことを勧める。図書館になければ、貸し出すので申し出ること。			
評価の要点		総合評価割合	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを課す。必ず期日を守って提出すること。</li> <li>・学期末にテストを実施する。</li> </ul>		定期試験	80%
		レポート	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
聖徳ファミリーのモットーは「温かさ」と「優しさ」である。皆さんにもぜひ良き友・師・本に巡り会っていただき、有意義な学園生活を送っていただきたい。そして聖徳レディーの皆さんを待っている沢山の子どものためにより勉強してほしい。Festina lente!			

		科目名	日本国憲法
		授業回数別教育内容	身につく資質・能力
1回	はじめに：日本国憲法の基本原理 (1) (1) 大日本帝国憲法の崩壊と日本国憲法の成立について理解する (2) 憲法改正について考察する (3) 憲法変遷について認識する (4) 国家緊急権と抵抗権について考察する (5) 聖徳大学で憲法を学習する意義を省察する		憲法を学習する上で必須の予備的な知識や用語の理解。
2回	日本国憲法の基本原理 (2) (1) 前文の内容と効力について考察する (2) 国民主権について理解する (3) 象徴天皇制について把握する (4) 平和主義について詳細に考察する		日本国憲法前文の持つ法的意義の理解。
3回	基本的人権Ⅰ自由と平等 (1) 基本的人権の歴史と体系について検討する (2) 幸福追求権について考察する (3) 自己決定権について考察する (4) 家族について考察する		基本的人権を学習する上で必須の予備的な知識や用語の理解。
4回	基本的人権Ⅱ思想と宗教 (1) 思想・良心の自由について考察する (2) 信教の自由とその限界について理解する (3) 政教分離原則の意義・内容・限界について把握する		精神的自由権の大切さの理解。
5回	基本的人権Ⅲ表現の自由 (1) 表現の自由の重要性について検討する (2) 性表現について考察する (3) 少年犯罪と実名報道について考察する (4) 知る権利について理解する		表現の自由の大切さの理解。
6回	基本的人権Ⅳ集会と結社 (1) 集会の自由について考察する (2) 集団行動の自由を理解する (3) 結社の自由について考察する		人間社会における組織や集団の意義の理解。
7回	基本的人権Ⅴ学問と教育 (1) 学問の自由を理解する (2) 大学の自治について考察する (3) 教育権について検討する		大学における教育と研究の大切さの理解。
8回	基本的人権Ⅵ生存と財産 (1) 職業選択の自由について理解する (2) 生存権について考察する (3) 労働基本権について検討する		人間にとっての労働の意義の理解。
9回	基本的人権Ⅶ人身の自由 (1) 適正手続について理解する (2) 被疑者の権利について考察する (3) 死刑の合憲性について検討する (4) 行政手続について理解する		被疑者といえども人権が保障されていることの理解。
10回	基本的人権Ⅷ政治参加の権利 (1) 参政権の法的性格について考察する (2) 選挙に関する憲法上の原則を考察する (3) 選挙運動の自由について考察する		民主主義政治の意義の理解。
11回	基本的人権Ⅸ人権総論 (1) 人権の限界について考察する (2) 外国人の人権について検討する (3) 法人の法的性格について理解する (4) 未成年者の人権について考察する (5) 国際人権の意義について検討する		人権についてのさまざまな視点からの考察力。
12回	国会 (1) 国会の地位について考察する (2) 政党の役割について検討する (3) 法律の制定を理解する (4) 国会の権能について研究する		わが国の議会の長所と短所についての理解。
13回	内閣 (1) 内閣の組織と運営について考察する (2) 内閣総理大臣について検討する (3) 衆議院の解散を理解する (4) 議院内閣制について研究する		わが国の議院内閣制の長所と短所についての理解。
14回	裁判所 (1) 裁判を受ける権利について考察する (2) 司法権の独立について検討する (3) 司法への国民参加を理解する (4) 違憲審査制の性格について研究する (5) 統治行為について検討する		民事裁判と刑事裁判の違いについての理解。
15回	財政と地方自治（全体のまとめを含む） (1) 租税法主義について考察する (2) 地方自治の本旨について検討する (3) 条例制定権を理解する (4) 住民投票について研究する		地方自治を民主主義の基本として理解できる。
試験	定期試験		

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	情報基礎	渡部 洋史	
サブタイトル	保育者としての情報活用能力を修得する	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5
開講時期	後期		
到達目標			
<p>保育者に必要な情報機器の具体的な取り扱い方、操作方法を体験的に習得することが中心となる。併せて、現代の情報社会に必要な情報リテラシーを身につけることを目標として、次の各項目を基準とする。①本学のコンピュータシステムを活用し、レポート作成、情報検索、プレゼンテーション資料の作成等を行うことができる。②情報ネットワーク社会についての理解を深め、情報倫理の大切さを理解する。③日本語入力の基本機能を身につけ、ICT環境を効率よく利用することができる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>①ICT環境を活用できる実践力を育成する。                  ②本学のコンピュータシステムを理解し、保育者としてふさわしい基礎技術を身につける。                  ③本科目は、カリキュラムマップ（1年後期）「相互理解力を養う」「仲間と学び合い、学びの基礎を固める時期」（1部）、「基礎学力を整える時期」（2部）のそれぞれの部分に位置づけられている。</p>			
授業の方法			
<p>情報ネットワーク社会の発展により、日常的にコンピュータを利用する機会が大幅に増え、教育の現場にも徐々に情報機器が増えつつある。平成15年度より高等学校では、教科「情報」が必修とされており、情報リテラシーの基盤は出来ていることが期待される。本授業では、Microsoft Officeにおけるワープロ・表計算・プレゼンテーション等のソフトウェアの基本機能を習得し、それらを組み合わせることで、幼児教育や保育の現場に関連するような作品を制作することで、よりコンピュータに親しみを持ち、教育現場で実践できる即戦力を身につける。一部は遠隔授業で実施する（遠隔授業予定回：第4回、第7回）</p>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト	ガイダンス時に担当者より説明がある		
教材	ガイダンス時に担当者より説明がある		
参考図書	ガイダンス時に担当者より説明がある		
評価の要点		総合評価割合	
それぞれのソフトウェアの基本機能を使いこなせるようになったか、美しく見やすい作品を作ることができたか、独創的な発想の作品を作ることができたか、制限時間内に所定の作品を作ることができたか、の点についてのレポート、60分の課題作成試験と10分間で200文字以上の日本語入力を目安にした入力試験の2つで行う実技試験、および授業態度を総合的に評価する。		実技試験	50%
		レポート	40%
		授業中の発表	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>・タイピングなどの基礎的素養は授業時間内では十分に行えないので、授業時間外でも復習して欲しい。                  ・授業内の課題はすべて提出を求める。授業時間内に未達成の場合または欠席した場合は速やかに作品を提出すること。</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・「情報基礎」の学習と学生生活（情報倫理を含む） ・PC操作の概要と日本語入力の方法について	PCへのログインと各種ソフトウェアの起動ができる
2回	文書作成の基礎と情報検索 ・簡単な文書の作成 ・グループ研究や卒業研究等に必要の情報検索	簡単な文書作成と情報検索の方法が理解できる
3回	表を用いた文書 ・ビジネス文書の作成 ・ワープロソフトを用いた表の作成および修正	Wordを用いて簡単なビジネス文書が作成できる
4回	【遠隔】教育活動に必要な作品の作成 ・ポスターや賞状等の作成 ・図形やテキストボックスの作成	さまざまな活用事例を理解することができる
5回	定型文書の作成 ・表計算ソフトとワープロソフトを用いた定型文書の作成 ・保育現場における情報管理の手法	ExcelのデータをWordに利用することができる
6回	表やグラフの作成 ・表計算ソフトの基礎 ・身近な資料を用いた表やグラフの作成	表や色々な種類のグラフの作成ができる
7回	【遠隔】デジタル画像の基礎 ・各種描画ソフト（アプリ）を用いた作図 ・園児と一緒に演習できるソフトウェアの紹介	各種の描画ソフト（アプリ）を用いて作画することができる
8回	カレンダーの作成（総合演習） ・既習ソフトを用いたカレンダーの作成 ・園児と一緒に演習できるソフトウェアの紹介	必要な情報を入力してカレンダーを作成することができる
9回	プレゼンテーションの基礎① ・プレゼンテーションの意義と表現方法の基礎 ・Microsoftの汎用ソフトを用いた発表資料の作成	Power pointを用いてプレゼンテーション資料を作成することができる
10回	プレゼンテーションの基礎② ・Microsoftの汎用ソフトの用いた発表資料の作成 ・図や写真、グラフ等を利用したスライドの作成	Power pointの基本機能を使いこなすことができる
11回	デジタル絵本（デジタル紙芝居）の作成① ・園児との活動に使える絵本の作成計画立案 ・図や写真、グラフ等を利用したスライドの作成	プレゼンテーションの計画を立てることができる
12回	デジタル絵本（デジタル紙芝居）の作成② ・アニメーション、画面切り替えの活用 ・スライドショーの作成	簡単なプレゼンテーションファイルを作成することができる
13回	デジタル絵本の発表会 ・作成した絵本や紙芝居を発表し合う	各自の作品から、互いに学びあうことができる
14回	ビジネス文書作成の復習 ・文書や表、グラフ等作成の混合演習	PCを利用して、複雑な資料を作成することができる
15回	まとめ ・文書や表、グラフ等作成の総合演習 ・作成した作品を正しい場所や名前で保存する	複雑な課題をひとりで作成することができる
試験	日本語入力技能に関する試験を行う。 ・幼稚園や保育所など現場で作成する文書作成および入力試験を行う。	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	英語 I	津田 満璃	
サブタイトル	保育現場における英語の実践力を養う	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到達目標			
英語のリズムを意識した歌と“チャンツ”を用いた授業を通して、実践的な英語力を獲得できる。保育所の現場で役立つ教材の作成と英語力向上の2点を旨とする。そのため、英語の授業では他の実技科目と同様に、実際に発音したり歌ったりする取り組みも行う。グループやクラスで助け合い、アイデアを出し合いながら共に楽しく学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
英語においても、「幼児教育に対する情熱や責任感を身につける」。保育現場の遊びの中で役に立つ幼児英語の即戦力を磨き、「専門職に関する知識・技能及び表現力」を身につけた学生となる。授業において、手作りの英語カードを準備し、英語の歌の練習をする過程でも「多様な協働学習を通し、豊かな人間性」を身につける。グループ・ワークを主体にしたアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。			
授業の方法			
グループワークや発表などを中心とした参加型の授業である。幼稚園や保育所で子どもたちと遊ぶときに、すぐに使える英語教材の準備をし、英語力を身につける。ABC Song の歌のカード（大文字・小文字）や ABC Phonics Song カードを作りながら基本の発音を練習することで、ABC Song 等を正しい発音で歌うことができるようになる。日常的な場面での話し言葉をリズムに乗せて表現する Mother Goose の歌や“チャンツ”を学ぶ。保育現場において、子どもたちと授業時に英語で一緒に楽しく遊べるように練習する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『I like coffee, I like tea』 松香洋子 株式会社 mpi 松香フォニックス 2016年 参考図書：『はじめてのジョリーフォニックス — ティーチャーズブック —』、『はじめてのジョリーフォニックス — スチューデントブック —』 ジョリーラーニング社／編著 山下桂世子／監訳 2017年			
評価の要点		総合評価割合	
英語カードは、子どもたちが見て分かりやすく正確で楽しく仕上げるのが大事である。 実技も同様に、子どもたちが親しみをもって一緒に覚えたいと思ってもらえるかどうかが大変である。		定期試験	40%
		実技試験	20%
		作品	20%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
保育の現場で実際に使える英語教材（カード）を、英語の音やリズムの習得をしながら、創意工夫して仕上げていく。毎回の授業で学び、創作し、練習することが大切である。 A4判の画用紙、発色の良いクレヨンまたは色鉛筆を用意すること。ノートも必要である。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイドダンス】 ・教師紹介 ・授業内容ビデオ鑑賞 ・チャンツ <i>Early to Bed</i> 「早寝、早起き」	授業内容の理解 協力の大切さの理解
2回	・A・Bのカード作成と歌 ・歌 <i>Twinkle, Twinkle, Little Star</i> ・チャンツ <i>I Like Coffee</i> 「コーヒー大好き、男の子も大好き」	A・Bの基本的で正しい発音 教材開発力 想像力
3回	・C・D・Eのカード作成と歌 ・ <i>Twinkle, Twinkle, Little Star</i> ・ <i>Early to Bed I Like Coffee</i>	C・D・Eの基本的で正しい発音 教材開発力 想像力
4回	・F・G・Hのカードを作成と歌 ・ <i>Twinkle, Twinkle, Little Star</i> 復習 ・ <i>Early to Bed I Like Coffee</i> チャンツ <i>Ten Fat Sausages</i> 「大きいソーセージと小さいソーセージ」	F・G・Hの基本的で正しい発音 教材開発力 想像力
5回	・I・J・Kのカード作成と歌 ・ <i>Twinkle, Twinkle, Little Star</i> 暗唱 ・ <i>Ten Fat Sausages</i>	I・J・Kの基本的で正しい発音 教材開発力 暗唱力
6回	・L・M・Nのカード作成と歌 ・ <i>Early to Bed I Like Coffee</i> <i>Ten Fat Sausages</i> ・歌 <i>Rain, Rain, Go Away</i> 「雨、雨、やめ、やめ」	L・M・Nの基本的で正しい発音 教材開発力 想像力
7回	・O・P・Qのカード作成と歌 ・チャンツ総復習	O・P・Qの基本的で正しい発音 教材開発力 発表力
8回	・R・S・Tのカード作成と歌 ・チャンツ <i>See You Later, Alligator</i> 「いつてきます！」 <i>Oliver, Jump!</i> 「オリバー、ジャンプ」	R・S・T 基本的で正しい発音 教材開発力 想像力
9回	・U・V・Wのカード作成と歌 ・チャンツ <i>Cinderella</i> 「シンデレラでびよんびよん」	U・V・Wの基本的で正しい発音 教材開発力 発表力
10回	・X・Y・Zのカード作成と歌 ・ <i>Five little Monkeys</i> 「5匹のおサルさんでびよんびよん」	X・Y・Zの基本的で正しい発音 教材開発力 発表力
11回	・歌 <i>ABC song</i> 大文字・小文字カードの作成と歌、発表練習	英語の基本的で正しい発音 英語教材開発力 発表力
12回	・単語カードと <i>ABC song</i> 大文字・小文字カードと歌の総復習（1）	英語の基本的で正しい発音 振り返り力
13回	・単語カードと <i>ABC song</i> 大文字・小文字カードと歌の総復習（2） 発表練習	英語の基本的で正しい発音 振り返り力 発表力
14回	【まとめ】 ・最終発表に向けたグループ単位でのリハーサル	協調性 発表力
15回	実技試験 グループ発表	現場力 発表力
試験	定期試験	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	英語Ⅱ	津田 満璃	
サブタイトル	保育現場における英語の実践力を養う	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
英語のリズムを意識した歌と“チャンツ”を用いた授業を通して、実践的な英語力を獲得できる。保育の現場で役立つ教材の作成と英語力向上の2点を旨とする。そのため、英語の授業では他の実技科目と同様に、実際に発音したり歌ったりする取り組みを行う。グループやクラスで助け合い、アイデアを出し合いながら共に楽しく学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
英語においても、「幼児教育に対する情熱や責任感を身につける。保育現場の遊びの中で役に立つ幼児英語の即戦力を磨き、「専門職に関する知識・技能及び表現力」を身につけた学生となる。授業において、手作りの英語カードを準備し英語の歌の練習をする過程でも「多様な協働学習を通し、豊かな人間性」を身につける。グループ・ワークを主体にしたアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。			
授業の方法			
グループワークや発表などを中心とした参加型の授業である。幼稚園や保育所で子どもたちと遊ぶときに、すぐに使える英語教材の準備をし、英語力を身につける。日常的な場面での話し言葉をリズムに乗せて表現する Mother Goose の歌や“チャンツ”を学ぶ。保育現場において、子どもたちと英語で一緒に楽しく遊べるように、練習する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『I like coffee, I like tea』 松香洋子 株式会社 mpi 松香フォニックス 2016年 参考図書：『はじめてのジョリーフォニックス — ティーチャーズブック —』、『はじめてのジョリーフォニックス — ステューデントブック —』ジョリーラーニング社／編著 山下桂世子／監訳 2017年			
評価の要点		総合評価割合	
英語カードは、子どもたちが見て分かりやすく正確で楽しく仕上げることが大事である。 実技も同様に、子どもたちが親しみをもって一緒に覚えたいと思ってもらえるかどうかが大変である。		定期試験	40%
		実技試験	20%
		作品	20%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
保育の現場で実際に使える英語教材（カード）を、英語の音やリズムの習得をしながら、みんなが創意工夫して仕上げていく。毎回の授業で学び、創作し、練習することが大切である。 A4判の画用紙、発色の良いクレヨンまたは色鉛筆を用意すること。ノートも必要である。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 ・前期の実技試験ビデオ鑑賞・振り返り ・今期の授業ビデオ鑑賞	授業内容の理解 前期学習内容の理解 今期学習内容の理解
2回	・チャンツ <i>Ring-a-Ring-a-rosie</i> 「みんなで転ぼう」 ・チャンツ <i>Acca Bacca Soda Cracker</i> 「誰の番か神さまのいう通り」	英語教材開発力 想像力
3回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・チャンツ <i>You Are Out!</i> 「あんたがアウト」 ・歌 <i>The Ency Weency Spider</i> 「クモさんの手遊び」	人前で英語の歌を歌うことができる力 正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力
4回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・チャンツ <i>Peter Piper</i> 「ピーターさんの早口言葉」 ・チャンツ <i>Little Pig, Little Pig</i> 「入れて、入れて、こぶたちちゃん」	正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力
5回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・歌 <i>Humpty Dumpty</i> 「もともどもどらないハンプティ」 ・チャンツ <i>Teacher, Teacher, I Declare</i> 「先生にいつてやるー」	英語教材開発力 振り返り力 発表力 協調性
6回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・チャンツ <i>Liar, Liar</i> 「うそつき、うそつき」 ・チャンツ <i>Sticks and Stones</i> 「悪口なんかにまけないぞ」	正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力
7回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・歌 <i>Mary Had a Little Lamb</i> 1から2番 ・チャンツ <i>Ice Cream</i> 「アイスクリームが食べたい」	正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力 振り返り力 発表力 協調性
8回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・ <i>Mary Had a Little Lamb</i> 1～4番 ・チャンツ <i>Candy, Candy</i> 「キャンディーにガム」 ・チャンツ <i>Vegetable goop</i> 「野菜スープ」	正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力
9回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・ <i>Mary Had a Little Lamb</i> 1～6番 ・チャンツ <i>Tomatoes, Lettuce</i> 「トマトにレタス」 ・チャンツ <i>One for Johnny</i> 「スパゲッティを茹でる時には」	正しい発音とリズム 振り返り力 発表力 協調性
10回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・ <i>Mary Had a Little Lamb</i> 1～8番 ・チャンツ <i>This Little Piggy</i> 「お風呂の中で」 ・歌 <i>Teddy Bear, Teddy Bear</i> 「くまさん、おやすみ」	正しい発音とリズム 英語教材開発力 想像力
11回	・前回までに出来上がったカードを見せながら、発表 ・チャンツ <i>Just like Something</i> 「まるで～みたい！」	正しい発音とリズム 振り返り力 発表力 協調性
12回	・総復習	正しい発音とリズム 振り返り力 発表力 協調性
13回	・歌とチャンツの総復習・発表練習 ・出来上がったカードを見せながら、発表練習 ・子供たちと英語で遊ぶことを考えながら、にこやかに楽しそうに出るように練習	正しい発音とリズム 振り返り力 想像力 発表力 協調性
14回	【まとめ】 ・最終発表に向けたグループ単位でのリハーサル	協調性 発表力
15回	実技試験 グループ発表	現場力 発表力
試験	定期試験	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部2・3年	英語Ⅲ	津田 満璃	
サブタイトル	保育者の役に立つ英語	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
幼稚園や保育園で子供達との遊びにすぐに使える英語の歌の準備をする。 英語ⅠとⅡで習った歌を楽に暗唱できるように練習すると共に、新しい英語の歌を覚え、子ども達と歌えるようになる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
英語においても、「幼児教育に対する情熱や責任感を身につける」。保育現場の遊びの中で役に立つ幼児英語の即戦力を磨き、「専門職に関する知識・技能及び表現力」を身につけた学生となる。授業において、手作りの英語カードを準備し英語の歌の練習をする過程でも「多様な協働学習を通し、豊かな人間性」を身につける。グループ・ワークを主体にしたアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。			
授業の方法			
実践的な保育者のための英語授業である。 保育現場で子どもたちと楽しめる英語の力を高める方法を学ぶ。 折紙や工作や歌の授業と同じように、英語の授業も現場ですぐ役に立つ実技を重視する。 英語の歌の内容を表すカードを作りながら、子どもたちに現場で教えられるように少しずつ英語の音に慣れ、子どもたちと歌えるように習得する。参加型の授業である。 クラスで助け合い、グループで発表練習をし、表現力を高める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『子どもとうたおう！マザーグース』、株式会社アルク、2011 参考図書：『はじめてのジョリーフォニックス — ティーチャーズブック —』、『はじめてのジョリーフォニックス — スチューデントブック —』ジョリーラーニング社／編著 山下桂世子／監訳 2017年			
評価の要点		総合評価割合	
英語カードは、子どもたちが見て分かりやすく正確で楽しく仕上げる事が大事である。 実技も同様に、子どもたちに一緒に覚えたいと思ってもらえるかどうかが大変である。		定期試験	40%
		実技試験	20%
		作品	20%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
保育の現場で実際に使える英語教材（カード）を、英語の音やリズムや歌の習得をしながら、みんなが創意工夫して仕上げていく。毎回の授業で、理解し、創作し、練習することが大切である。 A4判の画用紙、発色の良いクレヨンまたは色鉛筆を用意すること。ノートも必要である。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	オリエンテーション 復習・定着 英語Ⅰの総復習	授業内容の理解 作成教材による発表力
2回	復習・定着 英語Ⅰの総復習・暗唱発表	既習内容の確認力 定着力
3回	復習・定着 英語Ⅱの総復習	既習内容の確認力 定着力
4回	復習・定着 英語Ⅱの総復習・暗唱発表	既習内容の確認力 定着力
5回	<i>Old MacDonald Had a Farm</i> (1)	想像力・表現力 協調性
6回	<i>Old MacDonald Had a Farm</i> (2) <i>Head, Shoulders, Knees and Toes</i> (1)	想像力・表現力 協調性
7回	<i>Head, Shoulders, Knees and Toes</i> (2) 教科書からもう1曲を選び、発表の準備に追加	想像力・表現力 協調性
8回	<i>Old MacDonald Had a Farm Head</i> (3) 暗唱発表 <i>Shoulders, Knees and Toes</i> (3) 暗唱発表 教科書から選んだ1曲も暗唱発表	想像力・表現力 協調性
9回	<i>London Bridge Is Falling Down</i> (1)	想像力・表現力 協調性
10回	<i>London Bridge is Falling Down</i> (2) <i>Under the Spreading Chestnut Tree</i> (1) 教科書からもう1曲を選び、発表の準備に追加	想像力・表現力 協調性
11回	<i>London Bridge is Falling Down</i> (3) 暗唱発表 <i>Under the Spreading Chestnut Tree</i> (2) 発表準備	想像力・表現力 協調性
12回	出来上がったカードを見せながら、発表練習。 子供たちと英語で遊ぶことを考えながら、 にこやかに楽しそうに出来るようにグループ練習。	想像力・表現力 協調性
13回	最終発表のリハーサル準備。 発表のスキルを上げる。 グループで助け合う。 暗唱で歌えるように協力する。	想像力・表現力 協調性・発表力
14回	将来教える子供たちのことを考えながら、グループで仕上げる。 最終発表のリハーサル。	協調性・表現力
15回	出来上がったカードを見せながら、最終グループ発表	協調性・表現力
試験	定期試験	



該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部2・3年	英語Ⅳ	津田 満璃	
サブタイトル	保育者の役に立つ英語	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
<p>保育者の英語Ⅰ～Ⅳの仕上げである。 習ったことは自信を持って現場で使えるようにする。 英語Ⅰ～Ⅲのブラッシュアップをし、更に英語の歌の数を増やし仕上げをする。 練習する歌は、教えられるようになる。 現場で更に新しい歌を自分たちで覚え、教えられる応用力を養う。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>英語においても、「幼児教育に対する情熱や責任感を身につける」。保育現場の遊びの中で役に立つ幼児英語の即戦力を磨き、「専門職に関する知識・技能及び表現力」を身につけた学生となる。授業において、手作りの英語カードを準備し英語の歌の練習をする過程でも「多様な協働学習を通し、豊かな人間性」を身につける。グループ・ワークを主体にしたアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。</p>			
授業の方法			
<p>実践的な保育者のための英語授業である。 保育現場で子どもたちと楽しめる英語の力を高める方法を学ぶ。 折紙や工作や歌の授業と同じように、英語の授業も現場ですぐ役に立つ実技を重視する。 英語の歌の内容を表すカードを作りながら、子どもたちに現場で教えられるように少しずつ英語の音に慣れ、子どもたちと歌えるように習得する。参加型の授業である。 クラスで助け合い、グループで発表練習をし、表現力を高める。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『子どもとうたおう！マザーグース』、株式会社アルク、2011 参考図書：『はじめてのジョリーフォニックス — ティーチャーズブック —』、『はじめてのジョリーフォニックス — スチューデントブック —』ジョリーラーニング社／編著 山下桂世子／監訳 2017年</p>			
評価の要点		総合評価割合	
英語カードは、子どもたちが見て分かりやすく正確で楽しく仕上げることが大事である。 実技も同様に、子どもたちに一緒に覚えたいと思ってもらえるかどうかが大変である。		定期試験	40%
		実技試験	20%
		作品	20%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>保育の現場で実際に使える英語教材（カード）を、英語の音やリズムの習得をしながら、みんなが創意工夫して仕上げていく。毎回の授業で、理解し、創作し、練習することが大切である。 A4判の画用紙、発色の良いクレヨンまたは色鉛筆を用意すること。ノートも必要である。</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	オリエンテーション 英語Ⅰ～Ⅲの総復習	授業内容の理解 復習から発展・定着力
2回	復習・定着 英語Ⅰの総復習・グループ発表	既習内容の確認力 定着力
3回	総復習発表続き 英語Ⅱの総復習・グループ発表	既習内容の確認力 定着力
4回	総復習発表続き 英語Ⅲの総復習・グループ発表	既習内容の確認力 定着力
5回	<i>The Wheels on the Bus</i> (1) <i>Pat-a-Cake, Pat-a-Cake, Baker's Man</i> (1)	想像力・表現力 協調性
6回	<i>The Wheels on the Bus</i> (2) <i>Pat-a-Cake, Pat-a-Cake, Baker's Man</i> (2) 教科書からもう1曲を選び、発表の準備に追加	想像力・表現力 協調性
7回	<i>The Wheels on the Bus</i> (3) <i>Pat-a-Cake, Pat-a-Cake, Baker's Man</i> (3)	想像力・表現力 協調性
8回	<i>The Maffin Man</i> (1) <i>Hush-a-Bye, Baby</i> (1) 教科書からもう1曲を選び、発表の準備に追加	想像力・表現力 協調性
9回	<i>The Maffin Man</i> (2) <i>Hush-a-Bye, Baby</i> (2)	想像力・表現力 協調性
10回	<i>The Maffin Man</i> (3) <i>Hush-a-Bye, Baby</i> (3)	想像力・表現力 協調性
11回	暗唱練習 総復習	想像力・表現力 協調性
12回	出来上がったカードを見せながら、発表練習。 子供たちと英語で遊ぶことを考えながら、 にこやかに楽しそうに出来るようにグループ練習。	想像力・表現力 協調性
13回	最終発表のリハーサル準備。 発表のスキルを上げる。 グループで助け合う。 暗唱で歌えるように協力する。	想像力・表現力 協調性・発表力
14回	将来教える子供たちのことを考えながら、グループで仕上げる。 最終発表のリハーサル。	協調性・表現力
15回	出来上がったカードを見せながら、最終グループ発表	協調性・表現力
試験	定期試験	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	体育 I	高橋 人美	
サブタイトル	身体運動の基礎知識と動きづくり	単位数	1
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到達目標			
1. 保育者としての健康維持や体力の必要性を理解することができる。 2. 身体運動の基礎的な理解と指導・援助方法を修得することができる。 3. 幼児体操の基礎的な知識と指導法を修得することができる。 4. 身体表現活動の多様性と豊かな感性を磨くことができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
特に「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。 これまで経験してきた体育との違いを認識し、保育者としての視点で科目を捉え、授業内容の修得を目指す。			
授業の方法			
1. 自己の身体を知り、保育者としての視点で科目を捉える。 2. 幼児の発達、運動機能を理解することで、より具体的な指導・援助法を学習する。 3. 振り返りシートを活用する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『身体表現・創作シリーズ』桐生敬子編著 音楽之友社 2014年 (2) たのしい体操作品集			
評価の要点		総合評価割合	
1. 保育者になって活用できるノート 2. 課題レポート 3. 授業内試験（個人評価） 4. 積極的な授業への取り組み 以上のことを総合的に評価する。		小テスト	40%
		レポート	40%
		授業への貢献度	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 教科専用のノート（A4ファイル）を用意し、毎時間の授業内容を記録する。 2. 課題レポート（ファイルノートを含む）は提出期限を厳守する。 3. 体育に関する注意事項を必ず守り受講する。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・授業内容の説明と受講上の注意事項について	授業内容の理解 安全管理の姿勢
2回	運動と体力 ・体力、運動能力の低下傾向を学び、万歩計を活用しての自己管理を考える	健康管理の姿勢 日常生活での意識改善
3回	保育者の健康維持・増進 ・保育者に必要な体力を考え、体力維持、向上の実践方法を学ぶ	保育現場での必要性への理解
4回	運動の可動範囲 ・身体の各部分動作を理解する ・身体のパーソナルスペースとフロアパターンを理解する	身体運動の理解 身体の可動範囲の理解
5回	運動の要素 ・運動の三要素（時間・空間・力）から身体運動を理解する ・エフォートアクションを学ぶ	運動の三要素の理解 身体運動の意識
6回	幼児の体操のねらい① ・生活に即した模倣の動きを学ぶ	体操の基礎的な知識 指導法の理解
7回	幼児の体操のねらい② ・発達に合った動きを理解する	体操の基礎的な知識 指導法の理解
8回	幼児の体操のねらい③ ・正しい運動とフォームを理解する	体操の基礎的な知識 指導法の理解
9回	幼児の身体表現運動 ・自発性や創造性の発達と各年齢の運動機能を知る ・ふさわしい教材と個々の発達段階を踏まえた的確な指導と援助を理解する	幼児の発達の理解 身体表現運動の意義
10回	身体表現活動のねらい① ・身近な素材を五感で感じて、イメージが膨らむ言葉掛けの重要性を理解する	運動機能の理解 身体表現の多様性
11回	身体表現活動のねらい② ・模倣表現からモチーフの確立と表現活動過程を理解する	豊かな感性 身体表現の多様性
12回	身体表現活動のねらい③ ・個々の発達段階を踏まえた的確な指導と援助方法を理解する	豊かな感性 指導法の理解
13回	幼児のフォークダンスのねらい ・世界の民族舞踊を知り、社会性の芽生えを培う集団活動であることを学ぶ	フォークダンス用語の理解
14回	保育表現研究発表会の鑑賞と観点 ・モチーフ、舞台構成、群舞について学ぶ	鑑賞マナー 舞台用語の理解
15回	まとめ ・保育者としての視点で授業を振り返る	自己評価 課題の明確化

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	体育Ⅱ	高橋 人美	
サブタイトル	身体運動の基礎知識と動きづくり	単 位 数	1
授業形態	実技	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
1. 体育Ⅰの学習を基に、身体運動の基礎技能を習得することができる。 2. 幼稚園合同運動会の体験により実践力を培うことができる。 3. 子どもの前で模範となる運動を習得することができる。 4. 身体活動を通して、豊かな感性を養うことができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」、「多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている」ことを目指す科目である。保育者としての実践的指導力の修得を目指す。			
授 業 の 方 法			
1. 体育Ⅰでの学習をふまえ、自己の運動能力を高め、身体運動の基礎技能向上を目指す。 2. 運動会の企画、運営を学び、運動会体験を通して実践力を身につける。 3. 振り返りシートを活用する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『身体表現・創作シリーズ』桐生敬子編著 音楽之友社 2014年 (2) たのしい体操作品集			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 保育者になって活用できるノート 2. 課題レポート 3. 授業内実技試験（個人評価） 4. 積極的な授業への取り組み 以上のことを総合的に評価する。		小テスト 40% レポート 40% 授業への貢献度 20%	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 教科専用のノート（A4ファイル）を用意し、毎時間の授業内容を記録する。 2. 課題レポート（ファイルノートを含む）は提出期限を厳守する。 3. 体育に関する注意事項を必ず守り受講する。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・授業内容の説明と受講上の注意事項について	授業内容の理解 安全管理の姿勢
2回	身体の可動範囲 ・ラジオ体操を行い、身体の意識やパーソナルスペースを知る	身体の部分意識の理解 正しい姿勢の理解
3回	基礎技能① ・基本ステップ （ウォーキング、スキップ、ツー・ステップ、ホップ）を習得する	ダンスステップの理解 運動技能の習得
4回	基礎技能② ・基本ステップ （ボルカ、ギャロップ、バランス2・3拍子、ワルツ）を習得する	ダンスステップの理解 運動技能の習得
5回	幼児の体操「はとぼっば体操・スカット体操」 ・幼児の体操のねらいを理解する ・正しいフォームで動きを学ぶ	幼児の体操の理解 体操の習得
6回	身体表現活動「動物の行進」 ・模倣からモチーフ変化(リズム・高低・方向・移動)発展を学ぶ	模倣からの身体表現力
7回	聖徳学園三田幼稚園合同運動会① ・企画、日程、会場設営について学ぶ	運動会の意義 担当係の役割理解
8回	聖徳学園三田幼稚園合同運動会② ・運営、内容、方法について学ぶ	運動会内容の理解 担当係の役割理解
9回	聖徳学園三田幼稚園合同運動会③ ・たけのこ体操を習得する	模範となる運動 指導力、実践力
10回	聖徳学園三田幼稚園合同運動会④ ・開会式、閉会式、競技等、運動会の展開を学ぶ	行事に取り組む姿勢 状況判断力
11回	舞踊創作活動① ・保育表現研究発表会創作舞踊作品の創作過程を学ぶ 幼児の体操「ハンドカスタの体操・カスタカチカチ」	創作過程の理解 手具の扱い方
12回	舞踊創作活動② ・舞踊作品のテーマ、役割分担を決める 幼児の体操「なかよし体操」	探究心、責任感 身体表現力
13回	舞踊創作活動③ ・作品の中核となるモチーフを出し合う 幼児のフォークダンス作品「ジングルベル・赤鼻のトナカイ」	発言力、表現力 ステップの理解
14回	舞踊創作活動④ ・モチーフを確立する ・モチーフ試験	協力性、身体表現力 模範となる運動
15回	まとめ ・保育者としての視点で授業を振り返る	自己評価 課題の明確化
試験	評価の要点に基づき実施する。	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1・2年	音楽I	小松 洋子 他	
サブタイトル	ピアノ演奏技術、音楽表現の基礎	単 位 数	4※
授業形態	演習	※1年次・2年次 合計で4単位	
開講時期	2年通年	出席要件	4/5以上
到達目標			
①保育者に求められるピアノの演奏技術、音楽表現の基礎を習得する。 ②読譜に必要な音楽理論を学習し、子どもの音楽表現活動に関わる教材等を適切に活用できる。 ③伴奏の基本となる「主要3和音」を理解し、子どもの歌を通して実践できる。 ④音楽的感性を養い、創造性を伸ばし、豊かな人間性を培う。 ⑤自分の能力に応じた練習計画を立てることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている。」ことを目指す科目である。基礎的なピアノ演奏技術を習得し、保育現場における子どもたちの音楽表現活動を支援することができる実践的な技能や音楽的感性を高めることを目指す。 また、授業の中で共に歌い、弾き、聴き、教え合う学習を通して「③豊かな人間性を身につけている。」ことも目指す。			
授 業 の 方 法			
①1クラスを8名前後の小グループに分け、それぞれ個人レッスンしながらグループで学習する。 ②事前に練習してきた課題曲や子どもの歌、伴奏付けのレッスンを受ける。 ③他の学生のレッスンを聴講して参考になる事をレッスン・ノートに書き留める。 ④授業でアドバイスされたことを、楽譜もしくはレッスン・ノートに必ず書きとめ、次の授業に活かす。また、次週の練習計画もレッスン・ノートに立てる。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『バイエル』 音楽I研究室編 聖徳大学出版会 2017年 『子どもと歌おう！〈新版〉幼児とともに』 音楽I研究室編 聖徳大学出版部 2011年 『子どもと遊ぼう！ピアノ・レパートリー』 音楽I研究室編 聖徳大学出版部 2011年 教 材：「伴奏付け」課題 「初見視奏」課題			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 曲に必要とされる演奏表現ができているか否か。 2. ピアノ・レパートリー、幼児とともに、伴奏付け等の必修副課題を終了しているか否か。 3. 日々の練習にレッスン・ノートを活用しているか否か。 4. 2年次後期に単位認定試験を実施する。		実技試験 100% 各学期の演奏発表を含む 全ての実技で評価する。	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に十分な練習をしてレッスンに臨むこと。</li> <li>・試験時はフォーマルスーツまたはそれに準ずる服装（白襟付き上衣、黒か紺の下衣）を着用。</li> <li>・シラバスの進度を常に認識し、必要な練習計画を立てること。</li> <li>・授業回数（2年通年）の5分の4以上出席しないと失格となり、1年間の再履修となる。</li> <li>・音楽教室講師としての長きにわたる勤務経験を活かし、実践的で分かりやすい授業を展開します</li> </ul>			

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2部 1・2・3年	音楽I	小松 洋子 他	
サブタイトル	ピアノ演奏技術、音楽表現の基礎	単 位 数	6※
授業形態	演習	※1年次～3年次 合計で6単位	
開講時期	3年通年	出席要件	4/5以上
到達目標			
①保育者に求められるピアノの演奏技術、音楽表現の基礎を習得する。 ②読譜に必要な音楽理論を学習し、子どもの音楽表現活動に関わる教材等を適切に活用できる。 ③伴奏の基本となる「主要3和音」を理解し、子どもの歌を通して実践できる。 ④音楽的感性を養い、創造性を伸ばし、豊かな人間性を培う。 ⑤自分の能力に応じた練習計画を立てることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている。」ことを目指す科目である。基礎的なピアノ演奏技術を習得し、保育現場における子どもたちの音楽表現活動を支援することができる実践的な技能や音楽的感性を高めることを目指す。 また、授業の中で共に歌い、弾き、聴き、教え合う学習を通して「③豊かな人間性を身につけている。」ことも目指す。			
授 業 の 方 法			
①1クラスを8名前後の小グループに分け、それぞれ個人レッスンしながらグループで学習する。 ②事前に練習してきた課題曲や子どもの歌、伴奏付けのレッスンを受ける。 ③他の学生のレッスンを聴講して参考になる事をレッスン・ノートに書き留める。 ④授業でアドバイスされたことを、楽譜もしくはレッスン・ノートに必ず書きとめ、次の授業に活かす。また、次週の練習計画もレッスン・ノートに立てる。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『バイエル』 音楽I研究室編 聖徳大学出版会 2017年 『子どもと歌おう！〈新版〉幼児とともに』 音楽I研究室編 聖徳大学出版部 2011年 『子どもと遊ぼう！ピアノ・レパートリー』 音楽I研究室編 聖徳大学出版部 2011年 教 材：「伴奏付け」課題 「初見視奏」課題			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 曲に必要とされる演奏表現ができているか否か。 2. ピアノ・レパートリー、幼児とともに、伴奏付け等の必修副課題を終了しているか否か。 3. 日々の練習にレッスン・ノートを活用しているか否か。 4. 3年次後期に単位認定試験を実施する。		実技試験 100% 各学期の演奏発表を含む 全ての実技で評価する。	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に十分な練習をしてレッスンに臨むこと。</li> <li>・試験時はフォーマルスーツまたはそれに準ずる服装（白襟付き上衣、黒か紺の下衣）を着用。</li> <li>・シラバスの進度を常に認識し、必要な練習計画を立てること。</li> <li>・授業回数（3年通年）の5分の4以上出席しないと失格となり、1年間の再履修となる。</li> <li>・音楽教室講師としての長きにわたる勤務経験を活かし、実践的で分かりやすい授業を展開します</li> </ul>			

科目名 音楽Ⅰ（1部1年前期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 授業の目的、内容、予習復習、試験等について理解する。	授業概要の把握 練習計画
2回	姿勢、手指の形、打鍵、読譜（拍子、音の長さ、ト音記号、ヘ音記号の音等） バイエルNo.1～4	フォーム 打鍵法 拍子と拍節 音価の理解
3回	〈ポジション1〉 5指内の音階練習 No.5～8 写譜「おはようのうた」	フォーム 打鍵法 拍子と拍節 ポジションの理解
4回	右手旋律左手伴奏（和音奏）フレーズ No.9～11 写譜「おべんとう」幼児とともに（1曲目）	フレーズ感 レガート奏
5回	並進行と反進行 左手伴奏（分散奏） No.12～14 写譜「さよならのうた」幼児とともに	並進行と反進行の理解 音の響きを聴く
6回	対位法的動き アルベルティ・バス No.15～17 幼児とともに	2つのメロディーを聴き 分ける力
7回	〈ポジション2〉 ユニゾン タイ No.18～20 併用曲（1曲目） 幼児とともに（2曲目）	新しいポジションの理解 タイとスラーの違い
8回	左右のメロディー No.21～23 併用曲 幼児とともに	2つのメロディーを聴き 分ける力
9回	短調 オクターブ記号 全音符～8分音符 No.24～26 併用曲（2曲目） 幼児とともに	短調の響きを感じる 8分音符の理解
10回	〈伴奏付け・主要3和音の理解〉付点音符 No.27～29 併用曲 幼児とともに（3曲目） 伴奏付課題 ハ長調	主要3和音 付点の理解
11回	6/8拍子、3/8拍子 強弱記号 メロディーと伴奏のバランス No.30～32 併用曲（3曲目） 幼児とともに	ポジション移動 強弱 左右の音量バランス 6/8、3/8拍子の理解
12回	対位法的楽曲 転調 音域の拡大 No.33～34 併用曲	2つのメロディーを聴き 分ける力 転調
13回	フレーズ感 同音のレガート No.35～36 幼児とともにの仕上げ	同音のレガート奏 広い音域への対応 フレーズ感
14回	〈幼児とともにの演習〉【前期のまとめ①】 前期の学習を技術面・音楽面から総合的に復習する。	緊張感 演奏時の集中力
15回	【前期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題曲 夏休み中の練習計画	緊張感 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 2年間の通年科目のため、単位認定試験は2年次後期に実施する。	

科目名 音楽Ⅰ（1部1年後期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【後期ガイダンス】 前期の復習 今後の計画 初見視奏 ハ長調音階	前期で学んだことの確 認、練習計画 ハ長調音階奏
2回	ト長調音階 調性 No.37 ト長調の音階 幼児とともに（1曲目）	ト長調音階奏 調性の意識
3回	3度の重音奏 No.38～40 併用曲（1曲目） 伴奏付け課題 ト長調	3度の重音奏 レガート重音奏 指の独立
4回	ニ長調音階 右手重音奏 左手保持音 ニ長調の音階～No.42 幼児とともに 併用曲	ニ長調音階奏 右手重音奏 保持音 曲想の違い
5回	イ長調音階 イ長調の音階～No.43 幼児とともに（2曲目）	イ長調音階奏 左右の掛け合い メロディーを歌わせる
6回	3拍子 装飾音符 腕の交差 同音指替え No.44～45 幼児とともに 併用曲（2曲目）	装飾音 同音の指替え 左手伴奏 レジーエーロ奏
7回	臨時記号 半音階 左右の掛け合い音階 No.46～47 幼児とともに（3曲目） 併用曲	臨時記号 半音階奏 レガート奏
8回	ホ長調音階 右手旋律を歌わせる練習 ホ長調の音階～No.48 幼児とともに	ホ長調音階奏 転調による曲想の変化
9回	全音符～16分音符 No.49～50 幼児とともに（4曲目） 併用曲（3曲目）	各種音価の理解 16分音符の速い動き
10回	〈マーチの演習〉付点のリズム 付点8分音符 マーチ 併用曲	マーチらしさの理解 付点リズムの表現
11回	3連符 同音指替え 付点8分音符 保持音 No.51～52 幼児とともに マーチの暗譜仕上げ	3連符の理解 付点リズムの表現
12回	〈マーチの演習〉 重音のメロディー イ短調音階 No.53～イ短調の音階 幼児とともに	重音のメロディー表現 同音の指替え 暗譜力 3種類の短音階奏
13回	〈マーチ・幼児とともにの演習〉 イ短調旋律短音階 転調 6/8拍子 抑揚感 No.54～55	左右の速い動き 転調による曲想の違い 抑揚感 暗唱力
14回	【後期のまとめ①】 技術面、音楽面から総合的に復習する。	緊張感 演奏時の集中力
15回	【後期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題曲 春休み中の練習計画	緊張感 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 2年間の通年科目のため、単位認定試験は2年次後期に実施する。	

科 目 名 音楽Ⅰ（1部2年前期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】2年次授業の概要 1年次で学んだ基礎を再確認し、今後の計画を立てる。 毎日練習することの重要性を再認識する。へ長調音階	授業概要の把握 練習計画へ長調音階奏
2回	シンコペーション No.56～57 幼児とともに(1曲目) マーチ 伴奏付け課題へ長調	へ長調音階 シンコペーションのリズムの理解
3回	左右のメロディー掛け合い 6度重音奏 No.58～59 幼児とともに マーチ 併用曲(1曲目)	6度重音奏 左右の掛け合い
4回	3度重音奏 軽快なテンポ 付点音符 No.60～61 幼児とともに(2曲目) マーチ 併用曲	スタッカートの軽快さ
5回	複前打音 変ロ長調音階 短前打音 腕の交差 ポジション移動 No.62 幼児とともに マーチ 併用曲(2曲目)	装飾音符の奏法 変ロ長調音階奏 左右の交差とポジション移動
6回	〈マーチの演習〉 付点のリズムの理解 子どもの動きに即したテンポで弾く。 マーチの暗譜仕上げ、人前で止まらずに弾けるようにする。	付点のリズムの理解 マーチらしいテンポ 暗譜力
7回	左右の速い音階 複付点音符 保持音 No.63～64 幼児とともに(3曲目) 併用曲	拍節感 曲想の多様な変化 表現力
8回	フレーズと付点音符 2種類の指使いによる半音階 No.65～半音階 幼児とともに 併用曲(3曲目)	2オクターブの音階奏
9回	狭い幅の順次進行 No.66 幼児とともに 併用曲 伴奏付け課題 移調	指の独立 半音階奏
10回	グループ1の1曲目① 幼児とともに(4曲目) マーチ	曲に求められる表現力
11回	グループ1の1曲目② 幼児とともに マーチ	曲に求められる表現力
12回	グループ1の1曲目③ 幼児とともに マーチ	曲に求められる表現力
13回	〈幼児とともにの演習〉 伴奏付け課題 移調	演奏時の集中力 移調する力 いろいろな伴奏形
14回	【前期のまとめ①】 前期の学習を技術面、音楽面から復習する。 曲の完成度を上げる。	音楽表現力 演奏時の集中力
15回	【前期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題 夏休み中の練習計画。	音楽表現力 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 2年間の通年科目のため、単位認定試験は2年次後期に実施する。	

科 目 名 音楽Ⅰ（1部2年後期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【後期ガイダンス】 前期の復習 今後の計画 グループ1の2曲目①	前期までに学習した内容理解 後期の練習計画
2回	グループ1の2曲目② 幼児とともに(1曲目) マーチ	拍節感 フレーズ感
3回	グループ1の2曲目③ 幼児とともに マーチ	音楽表現力 構成力
4回	グループ1の2曲目④ 幼児とともに(2曲目) マーチ仕上げ	読譜力 指使いへの注意 暗譜力
5回	〈マーチの演習〉 グループ1の3曲目① 幼児とともに	からだの移動 左右のバランス
6回	グループ1の3曲目② 幼児とともに(3曲目) マーチ	音楽表現力 演奏に必要な集中力
7回	グループ1の3曲目③ 幼児とともに マーチ	読譜力 初見力 拍節感
8回	グループ1の3曲目④ 幼児とともに(4曲目) マーチ	これまでに学習したポイント 暗譜力
9回	グループ1の3曲目⑤ 幼児とともに マーチ仕上げ	これまでに学習したポイント 長い曲の演奏に必要な集中力
10回	〈マーチの演習〉 修了課題曲演習① 前半譜読み 様々な音階奏や和音奏 幼児とともに	読譜力 初見力 指使いの確認
11回	修了課題曲演習② 後半譜読み アーティキュレーション マーチ	アーティキュレーション 表現力
12回	修了課題曲演習③ 全体を完成させる マーチ	基礎技術 音楽感覚
13回	修了課題曲演習④ 完成度を高める マーチ仕上げ	技術面、感覚面の総復習
14回	修了課題曲演習⑤ これまで学習した知識・技術を総合して音楽感覚を深める	音楽表現力 演奏時の集中力
15回	修了課題曲演習⑥ 修了試験に向けての総仕上げ	現場での演奏力 演奏時の集中力
試験	単位認定試験を評価の要点に基づき実施する。	

科 目 名 音楽Ⅰ（2部1年前期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 授業の目的、内容、予習復習、試験等について理解する。	授業概要の把握 練習計画
2回	姿勢、手指の形、打鍵、読譜（拍子、音の長さ、ト音記号、ヘ音記号の音等） バイエルNo.1～4	フォーム 打鍵法 拍子と拍節 音価の理解
3回	〈ポジション1〉5指内の音階練習 No.5～7 写譜「おはようのうた」	フォーム 打鍵法 拍子と拍節 ポジションの理解
4回	右手旋律（左手伴奏） フレーズ No.8～10 写譜「おべんとう」	フレーズ感 レガート奏
5回	左手伴奏（和音奏） 並進行と反進行 No.11～13 写譜「さよならのうた」	フレーズ感 並進行と反進行の理解
6回	左手伴奏（分散奏） No.14～16 幼児とともに(1曲目)	対位法的動き 2つのメロディーを聴き 分ける力
7回	〈ポジション2〉新しいポジション ユニゾン No.17～19 幼児とともに	新しいポジションの理解 タイとスラーの違い
8回	左右のメロディー No.20～22 併用曲(1曲目)	ユニゾン奏 左右のメロディーを聴く 力
9回	短調 ユニゾン No.23～25 併用曲	短調の響きを感じる
10回	オクターブ記号 全音符～8分音符 No.26～27 併用曲(2曲目) 幼児とともに(2曲目)	オクターブ記号 8分音符の理解
11回	〈伴奏付け・主要3和音の理解〉 伴奏付け課題ハ長調 併用曲 幼児とともに	主要3和音の理解
12回	付点音符 No.28～29	付点音符の理解
13回	6/8拍子 強弱記号 メロディーと伴奏のバランス No.30～31 幼児とともに の仕上げ	6/8拍子の理解 強弱 左右の音量バランス フレーズ感
14回	〈幼児とともに 演習〉【前期のまとめ①】 前期の学習を技術面・音楽面から総合的に復習する。	緊張感 演奏時の集中力
15回	【前期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題曲 夏休み中の練習計画	緊張感 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 3年間の通年科目のため、単位認定試験は3年次後期に実施する。	

科 目 名 音楽Ⅰ（2部1年後期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【後期ガイダンス】 前期の復習 今後の計画	前期で学んだことの確 認 練習計画
2回	3/8拍子 強弱記号 対位法的楽曲 No.32～33 幼児とともに(1曲目)	多様な表現 転調 左右の音量バランス 3/8拍子の理解
3回	音域の拡大 フレーズ感 No.34～35 併用曲(1曲目)	広い音域への対応 ユニゾン奏 フレーズ感
4回	同音のレガート No.36～ ハ長調の音階 併用曲	同音のレガート奏 ハ長調音階奏 調性の意識
5回	旋律を歌わせる練習 No.37～ト長調の音階 幼児とともに	フレーズ感 レガート奏 ト長調音階奏
6回	3度の重音奏 No.38～39 伴奏付け課題ト長調	3度の重音奏 レガート重音奏 指の独立
7回	右手重音奏 二長調の音階～No.40 併用曲(2曲目)	右手重音奏 指の独立
8回	左右の掛け合い No.41 幼児とともに(2曲目)	レガート奏 左右の掛け合い
9回	保持音 曲想の違い No.42 幼児とともに 併用曲	保持音 曲想の違いを感じ取る力
10回	音階をなめらかに弾く イ長調の音階 幼児とともに(3曲目)	イ長調音階奏 なめらかな指くぐり
11回	左右の掛け合い No.43 幼児とともに	左右の掛け合い 抑揚感 メロディーを歌わせる
12回	3拍子 装飾音符 腕の交差 同音指替え No.44 幼児とともに	装飾音 同音の指替え 左手伴奏 レッジャーロ奏
13回	〈幼児とともに 演習〉 レッジャーロの表現 No.44	表現力
14回	【後期のまとめ①】 技術面、音楽面から総合的に復習する。	緊張感 演奏時の集中力
15回	【後期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題曲 春休み中の練習計画	緊張感 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 3年間の通年科目のため、単位認定試験は3年次後期に実施する。	

科目名 音楽Ⅰ（2部2年前期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 2年次授業の概要 1年次で学んだ基礎を再確認し、今後の計画を立てる。 毎日練習することの重要性を再確認する。	授業概要の把握 練習計画
2回	同音指替え 弱起 左手伴奏レグジェーロ No.45 幼児とともに(1曲目)	同音の指替え 弱起 左手伴奏レグジェーロ奏
3回	臨時記号 半音階 No.46 幼児とともに 併用曲(1曲目)	臨時記号 半音階奏
4回	左右の掛け合い No.47 幼児とともに 併用曲	左右の掛け合い レガート奏
5回	右手旋律を歌わせる練習 ホ長調の音階～No.48 幼児とともに(2曲目)	ホ長調音階奏 転調による曲想の変化 を感じる力
6回	全音符～16分音符 No.49 幼児とともに 併用曲(2曲目)	各種音価の理解
7回	16分音符 No.50 幼児とともに 併用曲	16分音符の早い動き
8回	3連符 同音の指替え No.51 幼児とともに	3連符の理解
9回	付点8分音符 保持音 No.52 幼児とともに(3曲目) 併用曲(3曲目)	付点リズムの表現
10回	〈マーチの演習〉付点のリズム 付点8分音符 マーチ 幼児とともに 併用曲	マーチらしさの理解 付点リズムの表現
11回	重音のメロディー 同音の指替え No.53 幼児とともに	重音のメロディー表現 同音の指替え
12回	イ短調旋律短音階 転調 イ短調の音階～No.54 幼児とともに	3種類の短音階奏
13回	〈幼児とともに 演習〉6/8拍子 抑揚感 No.55	抑揚感 音楽表現力
14回	【前期のまとめ①】 前期の学習を技術面、音楽面から総合的に復習する。 課題曲の総仕上げ	音楽表現力 演奏時の集中力
15回	【前期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。 次の課題曲 夏休み中の練習計画	現場での演奏 演奏時の集中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 3年間の通年科目のため、単位認定試験は3年次後期に実施する。	

科目名 音楽Ⅰ（2部2年後期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【後期ガイダンス】 前期の復習 後期の練習計画 マーチテストの概要 実習課題曲	授業概要の把握 練習計画 実習課題曲の準備
2回	へ長調音階 シンコーション No.56へへ長調の音階 マーチ 実習課題曲	へ長調音階奏 シンコーションのリ ズムの理解
3回	左右のメロディー掛け合い No.57 マーチ 併用曲(1曲目) 伴奏付け課題へ長調 実習課題曲	左右の掛け合い
4回	6度重音奏 No.58 マーチ 併用曲 実習課題曲	6度重音奏
5回	3度重音奏 保持音 レガートとスタッカート No.59 マーチ 実習課題曲	指の独立 軽快なテンポ感
6回	付点音符 弱起 軽快なテンポ No.60 併用曲(2曲目) 幼児とともに マーチの演習	付点リズムの理解 スタッカートの軽快さ
7回	複前打音 変ロ長調音階 No.61 併用曲 幼児とともに マーチ	緩やかな装飾音符 変ロ長調音階奏
8回	短前打音 腕の交差 ポジション移動 No.62 幼児とともに マーチ	短前打音 左右の交差 ポジション移動
9回	左右の速い音符 No.63 併用曲(3曲目) 幼児とともに マーチ	左右の速い音階
10回	複付点音符 保持音 No.64 併用曲 幼児とともに マーチ	左右の速い音階 複付点音符の理解
11回	フレーズ 付点音符 No.65 幼児とともに	メロディーの抑揚 転調 2オクターブの音階奏
12回	2種類の指使いによる半音階 幼児とともに (マーチの暗譜仕上げ)	暗譜力 半音階奏
13回	〈マーチの演習〉〈幼児とともにの演習〉 狭い幅の順次進行 No.66	指の独立 半音階奏
14回	【後期のまとめ①】 後期の学習を技術面・音楽面から総合的に復習する。 課題曲の総仕上げをする。	音楽表現力 演奏時の集 中力
15回	【後期のまとめ②】 クラス全員の前で演奏発表する。	音楽表現力 演奏時の集 中力
試験	評価の要点に基づき実施する。 演奏実技により学習成果を確認する。 3年間の通年科目のため、単位認定試験は3年次後期に実施する。	



科 目 名 音楽Ⅰ（2部3年前期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 3年次授業の概要 今後の計画を立てる。 毎日練習することの重要性を再確認する。	授業概要の把握 練習計画
2回	グループ1の1曲目①譜読み 幼児とともに(1曲目)伴奏付け課題 移調	読譜力 初見力 拍子感 拍節感
3回	グループ1の1曲目② 幼児とともに	曲に求められる表現力
4回	グループ1の1曲目③通奏 幼児とともに(2曲目)マーチ	曲に求められる表現力
5回	グループ1の1曲目④人前で止まらず弾けるようにする。 幼児とともに マーチ	曲に求められる表現力
6回	<マーチの演習> 付点のリズムの理解 子どもの動きに即したテンポで弾く。 マーチ	構成力 暗譜力 マーチらしさ 付点のリズムの理解
7回	グループ1の1曲目⑤仕上げ 幼児とともに(3曲目)	構成力 表現力 なめらかな演奏
8回	グループ1の2曲目①譜読み 幼児とともに	読譜力 拍節感
9回	グループ1の2曲目② 幼児とともに(4曲目)	曲の表情 フレーズ感
10回	グループ1の2曲目③通奏 マーチ	曲に求められる表現力
11回	<伴奏付けの演習> 子どもの発達に合わせ、歌の伴奏を移調したり、様々な伴奏形で弾けるようにする。	現場での実践力 移調する力 いろいろな伴奏形
12回	グループ1の2曲目④ 幼児とともに	音楽表現力 演奏時の集中度
13回	(幼児とともにの演習) 【前期のまとめ①】 前期の学習を技術面・音楽面から総合的に復習する。	基本的な技術の確認 音楽感覚
14回	【前期のまとめ②】 グループ1の2曲目⑤仕上げ 完成度を上げる。	音楽表現力 演奏時の集中度
15回	【前期のまとめ③】 クラス全員の前で演奏発表する。後期課題について	緊張感 音楽表現力 演奏時の集中度
試験	評価の要点に基づき実施する。演奏実技により学習成果を確認する。 3年間の通年科目のため、単位認定試験は3年次後期に実施する。	

科 目 名 音楽Ⅰ（2部3年後期）

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】 前期の復習 今後の計画	前期までに学習した内容理解 後期の練習計画
2回	グループ1の3曲目①譜読み 幼児とともに マーチ	読譜力 拍節感
3回	グループ1の3曲目②曲の構成をつかむ。 幼児とともに マーチ	曲構成の理解 マーチの暗譜
4回	グループ1の3曲目③曲の流れを感じる。 幼児とともに マーチの仕上げ	フレーズ感 ハーモニー感 マーチ暗譜
5回	<マーチの演習> グループ1の3曲目④ 幼児とともに マーチ	表情の付け方 音を聴く
6回	グループ1の3曲目⑤ 幼児とともに マーチ	表情の付け方
7回	グループ1の3曲目⑥ 幼児とともに マーチ	表現力 構成力 演奏に必要な集中度
8回	グループ1の3曲目⑦ マーチの仕上げ	曲に求められる表現力 長い曲の演奏に必要な集中度
9回	<マーチの演習> 修了課題曲演習①前半譜読み	読譜力 初見力 拍節感 暗譜力
10回	修了課題曲演習②後半譜読み マーチ	集中度 指使いの確認 拍子感
11回	修了課題曲演習③全体を通して弾く。 マーチ	音楽表現力 構成力
12回	修了課題曲演習④全体を完成させる。 マーチ	基礎技術 音楽感覚
13回	修了課題曲演習⑤完成度を高める。 マーチの仕上げ	技術面、感覚面の総復習
14回	修了課題曲演習⑥ これまで学習した知識・技術を総合して音楽感覚を深める。	音楽表現力 演奏時の集中度
15回	修了課題曲演習⑦ 修了試験に向けての総仕上げ	現場での演奏力 演奏時の集中度
試験	単位認定試験を評価の要点に基づき実施する。	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	音楽Ⅱ～1	北川 葉子	
サブタイトル	楽典の基礎、楽譜の読み書きの理解	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
<p>楽典の基礎を理解し、楽譜を正確に読み取る力を養う。ソルフェージュ課題を通して、楽譜通りに正しく歌え、リズムが打てるようにする。また「幼児とともに」の曲を歌い、子どもの曲を数多く知る。</p> <p>①音符や休符、拍子とリズム、変化記号や音程を理解し、読譜力を身につける。                  ②音符、リズム、音程を正しく歌うことができる。                  ③譜面と音符の書き方を理解し、正しく楽譜を書くことができる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身に付けている」ことを目指す科目である。音楽に関する専門知識（楽典、音楽理論）を理解し、実践的なソルフェージュを学習することは、ピアノ演奏、歌唱、楽器演奏などを行なうための基礎となる。保育者として、子どもの音楽表現活動を支える不可欠な学修である。楽譜の読み書き、音感、リズム感を体得し、音楽を楽しみ奏でることで「③豊かな人間性を身に付けている」ことも目指す。</p>			
授業の方法			
<p>楽典は講義形式で学習する。練習問題の実践や課題練習を行う。                  楽典は単元ごとに小テストを行う。                  実技では、ソルフェージュ課題を学習し、読譜力、初見能力、ソルフェージュ能力の向上を目指す。                  『幼児とともに』を用い、保育者として必要な音楽表現を歌唱力に意識しながら表情豊かに歌えるようにする。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『子どもと歌おう！＜新版＞幼児とともに』 音楽Ⅰ研究室編 聖徳大学出版部 2011年                  『バイエル』 聖徳大学・聖徳大学短期大学部音楽Ⅰ研究室 聖徳大学出版会 2017年                  『ジュニアクラスの楽典問題集』 森本琢郎・池田恭子共著 ドレミ楽譜出版社 2008年</p>			
評価の要点		総合評価割合	
<p>1. 楽典は定期試験（筆記試験）で行う。持ち込み不可。単元ごとの小テストも評価対象とする。                  2. ソルフェージュ課題試験（視唱）を授業内に実施する。                  3. 忘れ物、提出物の遵守は評価に反映する。                  4. 授業に取り組む姿勢、授業への貢献度も総合的に評価する。</p>		<p>定期試験 50%                  実技、作品、提出物等 30%                  小テスト 20%</p>	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>・テキスト（ジュニアクラスの楽典問題集、バイエル、幼児とともに）、5線ノート（音楽ノート）、配布されたプリントを持参すること。                  ・クリアファイルを2種類用意し、配布されたプリントを整理すること（初回授業で説明する）</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：本授業の目的を理解する ・ト音記号、ヘ音記号、音符の種類を理解する ・「音符表」の作成、ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	楽典、読譜力の必要性を理解する
2回	楽譜の基本（1） ・5線と音の関係、音符、休符、音名を理解する ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	記譜法の基礎知識
3回	楽譜の基本（2） ・小節と小節線、終止線、複縦線の書き方を理解する ・大譜表、ハ音記号とオクターヴ記号を理解する ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	記譜法、読譜法の理解
4回	音符と拍子記号（1） ・音符と休符を理解する ・変化音を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	拍子記号、リズム、変化音の理解
5回	音符と拍子記号（2） ・拍子とリズムの関係を理解する ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	リズムの理解
6回	記譜法（1） ・楽譜の書き方を学ぶ ・音部記号の書き換え、拍子の書き換え	拍子とリズムの関係の理解
7回	記譜法（2） ・楽譜の書き方を学ぶ ・音部記号の書き換え、拍子の書き換え ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	音域と楽譜の関係の理解
8回	記譜法（3） ・音部記号の書き換え、拍子の書き換え ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	音域と楽譜の関係の理解
9回	音程（1） ・音程、複音程を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	音程の理解
10回	音程（2） ・3度音程、長3度、短3度を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	音程の理解
11回	音階（1）長音階と調号 ・長音階を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	長音階の理解
12回	音階（2）長音階と調号 ・長音階の調号を学ぶ ・長音階の音程関係を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	音階、調号の理解
13回	音階（3）長音階と調号 ・調号の書き方、調号と調性関係を学ぶ ・ソルフェージュ課題、リズム課題の演習	調号の理解
14回	まとめ（1）ソルフェージュ試験 ・ソルフェージュ課題（視唱）の実技テスト ・楽典の整理（1～3回までの授業の総括）	音符、リズムの正確な把握、楽典の確認
15回	まとめ（2） ・楽典の確認と復習	学習した内容を総合的に振り返る
試験	評価の要点に基づいて実施する	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	音楽Ⅱ～2	北川 葉子	
サブタイトル	楽典の理解、応用と実践	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到達目標			
音楽理論を理解し、保育者として相応しい歌唱、音楽表現を結びつけることができる。 ①音楽Ⅱ～1で学んだ知識を、実践的に使う方法を学ぶ。 ②音楽に合わせた振り付けを考え、発表の仕方を学ぶ。 ③歌詞や音楽の情感を感じ取り、子どもに合った演奏や振り付けを考えることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身に付けている」ことを目指す科目である。音楽理論とソルフエージュ能力を習得し、保育者に相応しい技術と表現力を身につけ、保育者として相応しい音楽表現を実践的に学ぶ。更に、音楽を楽しみながら表現することを通し「③豊かな人間性を身に付けている」ことを目指す。			
授業の方法			
楽典は講義形式で学習する。練習問題の実践や課題練習を行う。 楽典は単元ごとに小テストを行う。 ソルフエージュ課題を学習し、読譜力、歌唱力を身に付ける。 『幼児とともに』の音楽と言葉の情感を捉え、振り付けを考え、発表する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『子どもと歌おう！＜新版＞幼児とともに』 音楽Ⅰ研究室編 聖徳大学出版部 2011年 『バイエル』 聖徳大学・聖徳大学短期大学部音楽Ⅰ研究室 聖徳大学出版部 2017年 『ジュニアクラスの楽典問題集』 森本琢郎・池田恭子共著 ドレミ楽譜出版社 2008年			
評価の要点		総合評価割合	
1. 楽典を正しく理解出来ること(定期試験、持ち込み不可)。 2. 歌詞や音楽の意味を考え、保育者として相応しい振り付けを考え、発表できること(発表、作品提出)。 3. ソルフエージュ課題試験(視唱)を授業内に実施する。 4. 忘れ物、提出物の遵守は評価に反映する。 5. 授業に取り組む姿勢、貢献度も総合的に評価する。		定期試験 50% 実技、作品、提出物等 30% 小テスト 20%	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
・テキスト(ジュニアクラスの楽典問題集、バイエル、幼児とともに)、5線ノート(音楽ノート)、配布されたプリントを持参すること。 ・配布されたプリントは「楽典用」と「ソルフエージュ用」の2種類のファイルに整理すること。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 本授業の目的を理解する ・音楽Ⅱ～1の復習 ・リピート記号 ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	目的の理解、読譜の理解
2回	和音(1) ・3度音程の復習 ・和音の種類を学ぶ ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	和音とコードネームの理解
3回	和音(2) ・コードネームの種類を理解する ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	和音とコードネームの理解
4回	和音(3) ・コードネームの種類を理解する ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	和音とコードネームの理解
5回	和音(4) ・コードネームの種類を理解する ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	和音とコードネームの理解
6回	「幼児とともに」振り付けをする(1) ・「幼児とともに」から1曲選び、グループで振り付けを考える	振り付け法、振り付けの記譜法の理解
7回	「幼児とともに」振り付けをする(2) ・「幼児とともに」から1曲選び、グループで振り付けを考える	振り付け法、振り付けの記譜法の理解
8回	「幼児とともに」振り付けをする(3) ・「幼児とともに」の振り付けを発表する	振り付け法、発表方法の理解
9回	短音階(1) ・短音階(自然的短音階、和声的短音階、旋律的短音階)の理解 ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	短音階の理解
10回	短音階(2) ・短音階の復習 ・長調の調号の復習し、短調の調号を学ぶ ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	短調の調号の理解
11回	短音階(3) ・短調の調号を学ぶ ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	短調の調号の理解
12回	短音階(4) ・短調の調号を学ぶ ・ソルフエージュ課題、リズム課題の演習	短音階、短調の調号の理解
13回	まとめ(1) ・楽典の復習、まとめ ・ソルフエージュ課題	学習した内容を総合的に把握する
14回	まとめ(2) ソルフエージュ試験 ・ソルフエージュ課題(視唱)の実技テスト ・楽典の復習、まとめ	音符、リズムの正確な把握、楽典の確認
15回	まとめ(3) ・楽典の確認と復習	学習した内容を総合的に把握する
試験	評価の要点に基づいて実施する	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	図画工作 I	三枝 千代子 仲瀬 律久	
サブタイトル	図画工作の基礎	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
(1) 表現や鑑賞の喜びを味わい、教材開発を行う。 (2) 造形的な創造活動の基礎的な能力(知識・技能・表現力)を培う。 (3) 造形活動に対する興味・関心・意欲を喚起する。			
ディプロマ・ポリシー(専門士授与の方針)との関連			
(1) 作ったり観たりする喜びを子どもたちと分かち合いたいという情熱を持つことができる。 (2) 造形活動の大切さを理解することにより、保育者としての責任感を身につけることができる。 (3) 造形美術の専門的知識や技能を身につけることにより、自信をもって指導できるようになる。 (4) 創造活動の協働学習を通して「和」の精神を身をもって理解し、豊かな人間性を養える。			
授 業 の 方 法			
(1) 理論の実践化、実践の理論化を通して将来自信をもって子どもを指導できるようにする。 (2) グループワークを取り入れて、学修者がディスカッションやディベートを通して相互に刺激し合い、学修を深められるようにする。 (3) 主体的に造形の創造活動を行い、自ら課題を発見し問題解決を行えるような学修を進める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』北沢昌代他著・開成出版 参考図書：『保育所保育指針解説』厚生労働省著 2018年 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省著 2018年 フレーベル館 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
(1) ポートフォリオ(スケッチブックなど)に作品を始めとする授業記録を主体的に収納・整理し、学修過程でどのような能力を育めたかを評価する。 (2) 授業に興味・関心・意欲をもって、積極的に参加したか評価する。		ポートフォリオなど	50%
		興味・関心・意欲など	50%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
*シラバスは、社会情勢や教材等の変化によって授業内容が変更あるいは前後することがあります。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	<ガイダンス> *教師紹介 *出席者確認 *授業目標の説明 *授業の進め方 *授業内容の紹介 *材料・用具について *評価方法など *造形美術教育の意義 *スケッチブック作成の楽しさ・他	理解力 興味・関心 意欲の喚起
2回	<変身カード> (1) 開くと絵が変わるカードを作ります。 (2) 造形的な発想力のトレーニング。 (3) アイデア・制作過程・成果について発表する。	教材の理解力 発想力の伸長 表現の転換力
3回	<自己紹介紙芝居制作> ①構想を練る (1) 紹介内容について検討する。 (2) 内容に従って表現方法を考える。 (3) アイデアを練って下絵を描く。	創造力 創造力
4回	<自己紹介紙芝居制作>②下絵に基づいて制作を開始する。 (1) 各場面に適応した表現方法を考える。 (2) 表現方法に即した表現材料・用具についての検討。 (3) 下絵に基づいて制作を始める。	表現力 発想の転換力 素材適応力
5回	<自己紹介紙芝居制作> ③本制作 (1) 各自スケッチブックの用紙4~5枚程度の内容にする。 (2) 内容に適した表現の工夫を試みる。 (3) 用具を駆使して本制作に励む。	表現力 適応力 応用力
6回	<自己紹介紙芝居制作> ④作品発表と鑑賞会 (1) 作品発表。 (2) 互いの成果(作品)を発表する。 (3) 作品を評価し合う。(鑑賞の方法理解)	鑑賞方法の理解 発表力 鑑賞力
7回	<わっか飛行機>① (1) わっか飛行機の製作と指導法の研究 (2) 遊び方研究(飛ばし方、大小・材料・構造を変えてみる) (3) 成果を記録する。	指導能力 興味・関心 意欲 教材開発力
8回	<わっか飛行機>② (1) わっか飛行機を応用した製作 (2) 飛ぶ機能⇒新しい機能の発見と実現 (3) 見立てる喜びと製作	教材の応用力 想像力 創造力 創作力
9回	<目に見えないものの可視化>① (1) 目に見えないものとは何かについて話し合う。 (2) 可視化の方法について話し合い表現する。	集団の中での個の生かし方 協働力 教材の活用力
10回	<見えないものの可視化>② (1) 目に見えないものの表し方を検討する。 (2) 目に見えないものを見えるように表す。 (3) 成果の発表と鑑賞	想像力 創造力
11回	<いろいろな描画技法>① (1) いろいろな描画技法について学ぶ。 (2) いろいろな描画技法を実体験する。 (3) いろいろな描画用具や材料に慣れる。	美意識の喚起 教材/用具の活用 応用力
12回	<いろいろな描画技法>② (1) 従来の技法を体験したのちに、独自の技法を開発する。 (2) いろいろな技法を用いて絵を創る。	多様な技法の理解 新技法の開発
13回	<小麦粉粘土>① (1) 粘土表現の相違を理解する。 (2) 小麦粉粘土を用いた作品をつくる。	粘土の理解 技法の開発
14回	<小麦粉粘土>② (1) 紙粘土の試作。 (2) 各粘土の生かし方研究。	着想力 創作力 応用力
15回	<まとめ> (1) 学修過程の振り返り、ポートフォリオの整理 (2) 表紙の制作。	造形表現の意義理解 明日への意欲の喚起

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	図画工作Ⅱ	仲瀬 律久	
サブタイトル	図画工作の実践力を身につける	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
(1) 表現することや鑑賞することの楽しさを知り教材開発をする。 (2) 造形活動の応用能力(知識・技能・表現力)・指導力を身につける。 (3) 造形活動に興味・関心・意欲をもち保育に生かす実践力を養う。			
ディプロマ・ポリシー(専門士授与の方針)との関連			
(1) 作ったり観たりする喜びを子どもたちと分かち合える。 (2) 造形活動の大切さを理解し保育の場で活用できる。 (3) 造形美術の専門的知識や技能を身につけ、自信をもって指導できる。 (4) 造形活動の協働学習を通して「和」の精神を理解し、保育の場で実践できる。			
授 業 の 方 法			
(1) 教材・教具の結びつきを理解し、多様な技法を能動的に開発し活用する。 (2) グループワークを取り入れて、学修者がディスカッションやディベートを通して相互に刺激し合い、学修を深めるようにする。 (3) 振り返りシートなどを活用して毎時の学修を確実なものにする。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』北沢昌代他著 開成出版 参考図書：『保育所保育指針解説』厚生労働省著 2018年 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省著 2018年 フレーベル館 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
(1) ポートフォリオ(スケッチブックなど)に作品を始めとする、授業記録を主体的に収納・整理し、学修過程でどのような能力を育むことが出来たかを評価する。 (3) 美術館見学等のレポート作成。 (4) 授業に興味・関心・意欲をもって積極的に参加したか。		ポートフォリオなど 興味・関心・意欲など	50% 50%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
*シラバスは、社会情勢や教材等の事情によって授業内容が変更あるいは前後することがある。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	<ガイダンス> *教師紹介 *出席者確認 *授業目標の説明 *授業の進め方 *授業内容の紹介 *材料・用具について *評価方法など *造形美術教育の意義 *スケッチブックの活用について	理解力 興味・関心 意欲の喚起
2回	<マスクで変身>① (1) 「マスクで変身」の意味を理解する。 (2) 独創的なマスクを作る(アイデアを考えてくる:予習)	構想力 独創力
3回	<マスクで変身>② (1) 独創性についての理解。 (2) マスクの鑑賞。理論と実践の検討。	実践力 応用力 理解力
4回	<凸版画を楽しむ>① (1) 凸版について理解を深める。 (2) 身近な凸版について理解し体験する。	理解力 応用力 実践力
5回	<凸版画を楽しむ>② (1) 凸版の作品を作り、指導できるようにする。 (2) 材料用具について検討し作品を作ってみる。	指導力 保育力 応用力
6回	<紙コップ工作>① (1) 紙コップで何が出来るか話し合う。 (2) アイデアを具現化する。	発想の転換 討議力 実践力
7回	<紙コップ工作>② (1) 保育力との関連を考えディスカッションする。 (2) 友達の結果を鑑賞する。	保育力 鑑賞力
8回	<壁面造り>① グループ活動 (1) 壁面造りの実践力を身につける。 (2) 友達との意見交換。テーマの設定。	協調性 決断力 判断力
9回	<壁面造り>② グループ活動 (1) 目的に合致した壁面構成の試み。 (2) グループ活動の結果の発表。	実践力 発表力 達成力
10回	<紙粘土研究>①お弁当作り (1) 幼児童の観察表現について理解する。 (2) 幼児童の作品を鑑賞する。	理解力 保育力 鑑賞力
11回	<紙粘土研究>②お弁当作り (1) 幼児童の構想表現について理解する (2) 幼児童の作品を鑑賞する。	理解力 保育力 実践力
12回	<紙粘土研究>③お弁当作り (1) お弁当作りに必要なものは何か。 (2) お弁当の作品発表。	理解力 創作力 実践力
13回	<表紙の制作> (1) 1年時の課題の発展応用課題です。 (2) 経験を生かして表紙をデザインする。	発展力 応用力
14回	<裏表紙の制作> (1) 表紙と一体化したデザインを考える。 (2) 個性的な表現を楽しむ。	表現力 実践力
15回	<まとめ> *後期の授業のまとめ。作品の整理・授業の自己評価など。	評価力 総合力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	専門体育 I	高橋 人美	
サブタイトル	創造力豊かな表現力と身体運動の実践	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到達目標			
1. 学生自身が心身の健康について学び、健康な保育者を目指していく。 2. 体育 I ・ II で学習した基礎をもとに、舞踊の構成理論を学び、動きづくりから作品完成、発表会までのプロセスを理解する。 3. 創作活動を通して、動きづくりの技術と身体表現方法を学び、豊かな表現力と身体運動を身につける。 4. 創作活動において、個々の役割を認識し、たがいに協力し合う関係を構築して豊かな人間性を培う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 個々の課題について積極的に取り組む姿勢と、個々の役割を責任もって成し遂げる力を育てる。 2. 自己の表現力、伝達力を向上させ、自信につなげる。 3. グループ活動を通して、保育者に必要な人間関係調整能力（傾聴力、状況把握力）を培い、グループ活動において貢献する力を身につける。			
授 業 の 方 法			
1. 表現力豊かな、健康な保育者を目指して、様々な身体運動を考え実践する。 2. グループ・ワークの活用で、自己表現と他者からの学びをする。 3. 振り返りシートを活用する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『幼児の動きづくり』 桐生良夫編著 杏林書院 2015年 『身体表現・創作シリーズ』 桐生敬子編著 音楽之友社 2014年 (2) たのしい体操作品集 教材CD：『身体表現・創作シリーズ1 幼児作品とマスゲーム』 桐生敬子他 ビクター2004年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 保育者になって活用できるノート 2. 課題レポート 3. 実技試験（個人とグループ） 4. 積極的な授業への取り組み		実技試験	60%
		レポート	20%
		授業への貢献度	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 心身の健康管理をする。 2. 教科専用のノート（A4ファイル）を用意し、毎時間の授業内容を記録する。 3. 課題レポート（ファイルノートを含む）は提出期限を厳守する。 4. 体育に関する注意事項を必ず守り受講する。			

科 目 名 専門体育 I

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・授業の目的・内容の説明と受講上の注意事項について ・創作舞踊作品の進捗状況の確認	活動への意欲 責任協力する姿勢
2回	舞踊構成と構想 ・テーマに合った構想と構成の確認、衣装図案の提出、音の決定 ・モチーフの確認（運動の三要素）と舞踊構成2分	運動三要素の確認 個々の役割の責任感
3回	舞台空間構成と進路確認 ・空間構成は、テーマにあった群構成と展開 ・第1回テスト（舞踊構成3分間作舞）	舞台空間の認識 個々の表現能力の習得
4回	舞踊形式と進捗状況 ・舞台上の群構成、人数変化を見直し完成をめざす	舞台の活用方法
5回	創作舞踊構成の完成 ・作品に音楽をつけ発表（動きにアクセントをつける） ・衣装の完成	音楽編集の知識 衣装選択の知識
6回	作品構成再確認 ・身体を大きく使って表現し、舞台空間を意識して踊りこむ ・グループ内で互いに指導しあい、完成度を高める	身体表現法 協働学習能力の習得
7回	創作舞踊作品の完成 ・第2回テスト（完成作品、衣裳、音をつけて） ・個人の記録ノートとグループの記録ノート提出	洗練された表現力 活動記録の記入方法
8回	創作舞踊の踊り込み ・完成度を高め、質の高い作品に作り上げる ・実習前課題「保育所で行われている運動あそびについて」	舞踊技術の習得 実習体験での活用
9回	保育表現研究発表会に向けて再度確認 ・作品完成の踊り込み、舞台照明の説明と照明調書の記入 ・実習課題の提出	舞台照明の理解 保育現場での活用
10回	保育表現研究発表会に向けて踊り込み ・練習を繰り返し、鍛錬された身体で表現する ・リハーサルの諸注意	実行力・行動力・集団 美の理解
11回	保育表現研究発表会のリハーサル ・安全に気をつけて、発表会同様に踊る ・総合調書・照明調書の再度確認	舞台構造の習得 舞台マナー
12回	保育表現研究発表会本番前の最終見直し ・発表会当日の諸注意、学生として責任ある行動で臨む	協力する態度と責任感
13回	保育表現研究発表会 ・授業の成果を舞台上で最善を尽くして表現する ・他の作品を鑑賞し、互いに評価する	感謝の気持ち 満足感 達成感、自信
14回	保育表現研究発表会を終えてのまとめ ・創作過程の取り組みについて、グループで話し合いまとめる ・「発表会を終えて」をテーマに感想文を書く	協働学習記録の記入方法
15回	まとめ ・創作ファイル提出（各係のまとめ）個人ノートの提出 ・授業を終えて、自己評価と授業評価	自己分析 課題の明確化
試験	実技試験	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部2年	専門体育Ⅱ	高橋 人美	
サブタイトル	創造力豊かな表現力と身体運動の実践	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到達目標			
1. 学生自身が心身の健康について学び、健康な保育者を目指す。 2. 保育者としてあそびを通して、目的を達成する方法を楽しく学び、実践力を身につける。 3. 子どもの遊びから、身体表現あそびの楽しさを伝える技能を身につける。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 協働学習において、自己の役割・責任感をもって取り組むことを学ぶ。 2. 保育現場に立つ専門職として、本授業を積極的に受講することで知識・技能および豊かな表現力を学ぶ。			
授業の方法			
1. 保育者として、子どもの発育発達と遊びの大切さを学ぶ実技科目である。 2. 主体的に、多種多様な子どもの体育あそび・運動あそびの教材研究と指導法をグループワークで学びあう。 3. 振り返りシートを活用する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『幼児の動きづくり』 桐生良夫編著 杏林書院 2015年 『身体表現・創作シリーズ』 桐生敬子編著 音楽之友社 2014年 （2）たのしい体操作品集 教材CD：『身体表現・創作シリーズ1 幼児作品とマスゲーム』 桐生敬子他 ビクター 2004年			
評価の要点		総合評価割合	
1. 保育者になって活用できるノート		実技試験	60%
2. 課題レポート		レポート	30%
3. 実技試験（個人とグループ）		授業への貢献度	10%
4. 積極的な授業への取り組み			
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 心身の健康管理をする。 2. 教科専用のノート（A4ファイル）を用意し、毎時間の授業内容を記録する。 3. 課題レポート（ファイルノートを含む）は提出期限を厳守する。 4. 体育に関する注意事項を必ず守り受講する。			

		科目名	専門体育Ⅱ
		授業回数	教育内容
		身につく資質・能力	
1回	ガイダンス ・授業の目的・内容の説明と受講上の注意事項について ・自己の体力、健康状態について知る	授業内容の理解 健康管理の理解	
2回	幼児体操と集団行動 ・体操の復習と動きの師範 ・集団のまとめ方（列の作り方、号令のかけ方、誘導の方法）	状況判断能力と指導力 コミュニケーション力	
3回	集団あそびの指導と実践① ・グループで年齢別ルールのあるあそびをまとめる ・あそびの目的を捉えて指導計画を作成する	運動あそびの理解 協働学習能力	
4回	集団あそびの指導と実践② ・グループで指導計画をもとに指導を実践する ・指導後振り返りをする	運動あそびの指導力と 対応能力 協働学習での役割と責任	
5回	手作り遊具の作成とあそびの展開 ・身近な材料で遊具をつくり、創意工夫してあそびを展開する	教材研究 運動技能の習得	
6回	身体表現運動① ・絵本を通して模倣表現からリズムミカルな表現創作 ・絵本の選択=保育者の視点で年齢に応じた作品選びと内容の決定	課題探究能力 協働学習での役割と責任 積極的な発言力	
7回	身体表現運動② ・絵本の内容から登場物の特徴をことばで表す ・場面を捉えて、登場物になりきって模倣表現する	豊かな表現力 観察力、洞察力	
8回	身体表現運動③ ・特徴ある動きを使って空間構成し完成する ・イメージに合う音選びと編集、作品完成	身体運動と表現力 協力する力	
9回	身体表現運動④ ・作品発表と評価	協働学習の成果 豊かな表現力 評価判断力	
10回	体育あそび①（マット・跳び箱・平均台） ・子どもの発育・発達をふまえて、多様な運動あそびを考案し実践する	用具の使用法 安全面への配慮 指導法の理解	
11回	体育あそび②（ボール・なわ・フープ） ・用具の特性や運動のねらいを理解する ・多様な運動あそびを考案し実践する	用具の使用法 安全面への配慮 運動技能の習得	
12回	体育あそび③（バラバールン・ボンボン・フープ） ・手具の特性や運動のねらいを理解する ・リズムに合わせて動きを考案する	手具の使用法 表現力の習得	
13回	季節のあそび体験① ・多様な遊び方や援助の仕方を学び、楽しさを知る ・こま回し、凧揚げを経験する	伝承遊びの運動効果の 理解 反復練習の必要性と効果	
14回	季節のあそび体験② ・多様な遊び方や援助の仕方を学び、楽しさを知る ・竹馬、お正月あそびを経験する	伝承遊びの運動効果の 理解 反復練習の必要性と効果	
15回	まとめ ・2年次の体育で学んだ内容について保育者の視点で振り返る ・保育現場でこの学びをどのように活用するかをまとめる	自己分析 保育者の力量	
試験	実技試験		

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部2年	社会福祉	阿部 仁	
サブタイトル	社会福祉の基礎的知識を身につける	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到達目標			
<p>本科目の到達目標は次の2点である。</p> <p>1. 保育学生として身につけなければならない社会福祉全般に関わる基礎的知識の獲得。          保育学生にとって中核となる「子ども家庭福祉」の領域と「貧困と福祉」、「高齢者福祉」、「障害児・者福祉」、「地域福祉」等の領域がどのように関わっているかを学ぶ。</p> <p>2. 「社会福祉とは何か」という問いに答えられる自分なりの社会福祉観の形成。          社会福祉の定義、対象、歴史、組織、動向等から基本的用語の使い方やデータの読み取りを学ぶ。          社会福祉と自分との関わりを理解する。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、とくに保育士資格取得に関する基本的教科のひとつとして「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」を目指す。          保育士資格に関連する法的体系、保育士資格取得後に勤務可能な保育所、各種児童福祉施設の実態を学ぶ。</p>			
授業の方法			
<p>講義形式の授業形態を基本とする。          遠隔授業も導入する。          基本的な用語を獲得するために、授業シートを用いて振り返りを行う。          授業に主体的な参加を行うために、アクティブ・ラーニングの手法をおり込んだ授業方法を取り入れる。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『社会福祉と私たちの生活—保育を学ぶ人のために』小林育子、一瀬早百合 萌文書林 2016年          教材：新聞記事やデータ等の配布資料、ビデオ等視聴覚教材を活用する。          参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』          チャイルド本社 2017年          授業内で、適宜参考文献を紹介する。</p>			
評価の要点		総合評価割合	
1. 授業内で数回課題を設定し、レポート提出を求める		定期試験	60%
2. 受講記録としてのノートを提出		レポート	20%
3. 授業への取り組み姿勢・貢献度		ノート	10%
4. 定期試験		授業への取り組み	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>日常的に、社会福祉関連の情報に留意すること。          定期試験は持ち込み不可で論述式の問題とする          メール <a href="mailto:abehit@wa.seitoku.ac.jp">abehit@wa.seitoku.ac.jp</a></p>			

		科目名	社会福祉
		授業回数別教育内容	身につく資質・能力
1回	<ガイダンス> 授業方針の確認および社会福祉関連分野と保育士資格との関連について理解する		保育士資格についての理解
2回	<人間生活と福祉> (1) 社会福祉とは 「社会福祉」という言葉から何をイメージするか 社会福祉の内容を学ぶ前段階での各自の認識を整理する		社会福祉についての認識確認
3回	① 意義 社会福祉の必要な理由を考え、 ② 定義 社会福祉の基本的な定義にふれる		社会福祉の必要な理由と定義の理解
4回	(2) 社会福祉の対象 ① 貧困 福祉の原点である貧困について、 生活保護制度の概要・動向を知る		福祉の原点・貧困の本質についての理解
5回	② 家庭 家族福祉の概要、動向を知る ③ 地域 地域福祉の概要、動向を知る		家族福祉・地域福祉の動向、問題点の理解
6回	④ 子ども 子ども家庭支援の概要、動向を知る		子ども家庭支援の動向、問題点の理解
7回	⑤ 老人 高齢者福祉の概要、動向を知る		高齢者福祉の動向、問題点の理解
8回	⑥ 障害 障害児・者福祉の概要、動向を知る 共生社会の実現と障害者施策		障害児・者福祉の動向、問題点の理解
9回	<社会福祉における相談援助> ソーシャルワークについて知る 相談援助の理論、意義と機能、対象と過程、方法と技術		相談援助の理解
10回	<社会福祉の歴史> (1) イギリス (2) アメリカ イギリスの社会福祉史、アメリカの社会福祉史を知る		イギリス、アメリカの社会福祉史の基礎的理解
11回	(3) 日本 日本の社会福祉史を知る		日本の社会福祉史の基礎的理解
12回	<社会福祉の組織> (1) 法制 社会福祉の法制を知る		法的体系の理解
13回	(2) 機構 社会福祉の機構、経費を知る (3) 経費		機構、経費の現状理解
14回	(4) 施設 (5) 従事者 各種社会福祉施設、福祉サービスに従事する人々や利用者保護について知る		施設、従事者、利用者保護の現状理解
15回	<まとめ> 授業内容の総括を行う		社会福祉観の確認
試験	定期試験		



該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	子ども家庭福祉	竹中 直	
サブタイトル	子ども家庭福祉の理念や実施体系を知る	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する 2. 子どもの人権擁護について理解する 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する 5. 国際社会と子ども家庭福祉について理解する			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目では「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につける」ことを目指し、グループワーク等を通じて「多様な協働学習を通じて豊かな人間性を身につける」ことを目標としている。			
授 業 の 方 法			
1. テキスト「子ども家庭福祉」を利用して授業を展開する 2. 必要に応じてプリント教材や視聴覚教材を利用して授業を行う 3. グループワーク等を通じてディスカッションを行う 4. 課題を設定して授業内でレポートをまとめる 5. 振り返りシートに記入し、その回の授業内容を整理する			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『子ども家庭福祉』植木信一編著 北大路書房 2019年 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年 『保育福祉小六法』保育福祉小六法委員会編 2019年度			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
1. 授業内に実施した課題レポート 2. 授業への取り組み・貢献度 3. 定期試験		定期試験	70%
		レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
子ども家庭福祉に関する制度やサービスについて受動的に理解するだけでなく、利用者の視点に立ち問題意識をもって考えていく習慣を身につけてほしい。			

科 目 名      子ども家庭福祉

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	子ども家庭福祉の視点	この授業の基本的視点を理解する
2回	子ども家庭福祉による援助の考え方	子どもの人権・権利を理解する
3回	子どもの人権擁護の歴史的展開	子どもの権利の確立過程を理解する
4回	児童の権利に関する条約と国内法の整備	子どもの権利に関する条約を理解する
5回	児童福祉法の展開	児童福祉法を理解する
6回	児童福祉法以外の関連法令と社会福祉法	児童福祉法に関連する法令や法律を理解する
7回	児童福祉法の相談機関・施設とかかわる人々	相談機関で働く人々や業務内容を理解する
8回	保育に関する動向と福祉サービス	保育に関する制度やサービスを理解する
9回	障がいのある子どもの福祉に関する動向とサービス	障害児福祉の制度やサービスを理解する
10回	ケーススタディ：自閉症児への援助事例を考察する	援助事例を分析する力を身につける
11回	ひとり親家庭に関する動向と福祉サービス	ひとり親家庭の制度やサービスを理解する
12回	ケーススタディ：ひとり親家庭の援助事例を考察する	援助事例を分析する力を身につける
13回	児童虐待に関する動向と対策	児童虐待に関する制度を理解する
14回	ケーススタディ：被虐待児への援助事例を考察する	援助事例を分析する力を身につける
15回	国際社会における子ども家庭福祉の現状と課題	国際社会における家庭福祉の問題を理解する
試験	定期試験	

科目名 社会的養護Ⅰ

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部2年	社会的養護Ⅰ	竹中 直	
サブタイトル	子どもを育てる社会の責任を考える	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
<p>本科目では、社会的養護の理念や体系を理解し、その歴史的背景を踏まえながら、以下の点について理解することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で働く保育士の社会的役割</li> <li>2. 入所型児童福祉施設における援助</li> <li>3. 保育専門職としての専門性及び倫理と責務</li> </ol>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在の日本における社会的養護の実態を理解し、問題意識を持って考察する能力を身につける。</li> <li>2. 施設養護の基本理念を理解し、保育専門職に求められる専門性と実践力を身につける。</li> <li>3. 利用者本位の考え方に立ち、保育専門職に求められる倫理と責務を身につける。</li> </ol>			
授 業 の 方 法			
<p>講義やディスカッションを通じて、施設での養護の在り方を論ずるだけでなく、子どもの権利擁護としての社会的養護の在り方を学生一人ひとりが主体的に考えていく授業を行う。そのため、授業で学んだ内容がどのように実践で役立つかを常にレポート等で確認していく。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『社会的養護Ⅰ』 流王治郎・赤木正典編著 建帛社 2019年            教 材：必要に応じてプリントを配付する            参考図書：『保育福祉小六法』 保育福祉小六法委員会編 みらい 2019年            『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』            チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
定期試験が評価の中心であるが、随時実施するレポート課題やグループワークにおける貢献度などを踏まえて総合的に評価する。		定期試験	70%
		レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>本科目は施設実習の事前学習として必要な内容を多く含んでいるので、問題意識をもって授業に臨んで欲しい。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	[社会的養護とは何か] 社会的養護の概念と現状について理解する	「社会的養護」という概念を理解する
2回	[社会的養護の制度と実施体制] 児童福祉施設について理解する	児童福祉施設を理解する
3回	[社会的養護の体系] 施設養護と家庭養護からなる社会的養護の体系を理解する	社会福祉の体系を理解する
4回	[家庭養護] 里親制度・養子縁組制度について理解する	家庭養護の制度を理解する
5回	[ノーマライゼーション] ノーマライゼーションの理念とその影響について理解する	ノーマライゼーションの理念を理解する
6回	[子どもの権利擁護と社会的養護] 施設内虐待の事例をとりあげ、グループディスカッションをする	社会福祉の現状を理解する
7回	[脱施設化・施設の社会化] 望ましい福祉施設の在り方について考える	施設改革の視点を理解する
8回	[ケーススタディ1] わが子の障害受容に悩む母親への援助事例について考察する	児童福祉の実践を理解する
9回	[ケーススタディ2] 軽度の発達障害を持つ被虐待児に対する援助事例について考察する	児童福祉の実践を理解する
10回	[施設養護の基本原則] 児童福祉施設で生活する子どもを理解し、援助の視点を考える	児童福祉の理念を理解する
11回	[救貧制度とその思想] 中世ヨーロッパ(エリザベス救貧法・マルサス「人口論」・劣等処遇) 日本(恤救規則・救護法・先駆者の取り組み)	ヨーロッパと日本の社会福祉の歴史を理解する
12回	[こどもの貧困] 子どもの貧困について現状と課題を考える	子どもの貧困について理解する
13回	[専門職としての資質] 専門職としての倫理、子どもの人権擁護、自己覚知の大切さを理解する	専門職としての自覚と倫理観を理解する
14回	[児童福祉施設の運営管理] 運営管理、人事管理、第三者評価事業について理解する。	福祉施設の現状と課題を理解する
15回	[社会的養護の課題と展望] 子ども家庭と社会的養護の現状と課題を考える	これからの社会的養護の在り方を理解する
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部2年	子どもの保健	原田 正平	
サブタイトル	成長発達や病気などを通して子どもをよく知る	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到達目標			
<p>1. 目的：子どもの保健の基本的知識を学ぶことで、保育所、幼稚園、教育現場でその知識を役立てる応用力を育成することを目的とする。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。</p> <p>2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。</p> <p>3) 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解できる。</p> <p>4) 子どもの疾病とその予防方法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>1. 専門知識を身につけ、実践的に考察する。</p> <p>2. 幼児教育の専門性を高め、理論と実践力を学ぶ。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>1. テキスト「わかりやすい子どもの保健 第三版」を利用して授業を進める。</p> <p>2. スライドを使用した講義形式となりますが、可能な範囲で書き込みする形式の資料（プリント）を配布する。</p> <p>3. 厚生労働省等の関連ガイドラインを利用し、教材を補う最新の知識を得られるようにする。</p> <p>4. 授業の終わりにリフレクションシートを記入、提出していただき、その内容を基に次の授業の始めに質疑応答するなどアクティブ・ラーニングも念頭に置いて進める。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『わかりやすい子どもの保健 第三版』西村昂三・松浦信夫・原田正平編著 同文社 2018年</p> <p>参考図書：『幼保連携型こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
授業の終わりに提出するレポート（リフレクションシート）を10%、定期試験の成績を80%、アクティブ・ラーニングなど授業への貢献度を10%として総合的に評価する。		定期試験	80%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>1. テキストは毎回持参すること。シラバスを参考にして、次の授業の該当箇所を簡単でよいので読んでおくこと。特に、聞き慣れない専門用語などについての理解度が違ってくる。</p> <p>2. レポート（リフレクションシート）には授業で理解が難しかったこと、質問事項を書き提出する。</p> <p>3. 授業中の私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用禁止は当然であるが、<b>授業開始5分前には着席し、私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用は止め、授業を受ける姿勢を取る</b>ようにすること。</p> <p>4. 臨床医（小児科、内分泌代謝科、甲状腺診療の専門医）としての実務経験から、子どもの保健の基礎知識について解説します。</p>			

		科 目 名 子 童 子 の 保 健	
		授 業 回 数 別 教 育 内 容	
		身につく資質・能力	
1回	ガイダンス 教科書の内容についての概説、小児保健学に関するトピックスをスライドで説明する。保健学の基礎知識に関する質疑応答を行う。	授業の受け方、授業中の態度、保健学を学ぶ意義について理解する	
2回	子どもの心身の健康と保健の定義、健康の概念と健康指標 子どもの健康と保健の定義（意義と目的）、種々の健康指標について学びます。	健康と保健の定義、種々の健康指標について理解できる。	
3回	子どもの健康の現状と課題。地域における保健活動と子ども虐待防止 現代社会における子どもを取り巻く環境（とくに健康影響）および地域社会と保育所、子ども虐待の現状と対策について学びます。	子どもの健康問題の現状と課題、子ども虐待防止について理解できる。	
4回	子どもの身体的発育・発達と保健 身体発育及び運動機能の発達と保健について学びます。	子どもの身体的発育・発達について理解できる。	
5回	生理機能の発達と保健 子どもの生理機能の特徴（臓器の発育、水分代謝、呼吸、循環など）について学びます。	子どもの生理機能について理解できる。	
6回	子どもの栄養 栄養学の基礎及び子どもの乳児、幼児、学童期以降の栄養について学びます。	栄養学の基礎及び乳幼児期、学童期以降の栄養について理解できる。	
7回	子どもの心身の健康状態とその把握 子どもの健康状態のみかた（一般状態、体温測定、食事・呼吸・脈拍・睡眠など）について学びます。	子どもの健康状態の把握について理解できる。	
8回	子どもの心身の不調等の早期発見 体調の良くない子どもへの対応（発熱、咳喘鳴、発疹、けいれん、腹痛等）について学びます。	子どもの心身の不調等の早期発見について理解できる。	
9回	発育・発達の把握と健康診断 発育と発達の評価とその診断基準（身体測定法、発育の評価、発達の評価）について学びます。	発育・発達の評価とその診断基準について理解できる。	
10回	子どもの心身の状態についての保護者との情報共有 子どもの心身の状態についての保護者との情報共有とその手段（通園手帳、保育所だより、福祉機関・地域との連携等）について学びます。	子どもの心身の状態に関する保護者との情報共有を理解できる。	
11回	子どもの疾病の予防及び適切な対応 一般的な子どもの感染症や保育所でよく見かける病気の特徴と対応、予防について学びます。	感染症やよく見かける子どもの病気について理解できる。	
12回	子どものその他の体系的な急性、慢性疾患 その1 免疫・アレルギー性疾患、消化器疾患、循環器疾患、血液系の疾患の特徴、治療法などについて学びます。	子どもの免疫・アレルギー性疾患などについて理解できる。	
13回	子どものその他の体系的な急性、慢性疾患 その2 内分泌・代謝性疾患、神経系の疾患、腎・泌尿器疾患、先天性の疾患等の特徴、治療法などについて学びます。	子どもの内分泌疾患などについて理解できる。	
14回	子どもの疾病の予防と適切な対応 子どもの予防できる疾患に対する対策として予防接種・ワクチンの種類などについて学びます。さらに新生児マスキング、新生児聴覚スクリーニングについて学びます。	予防接種、マスキング等について理解できる。	
15回	まとめとして、2～14回の授業の要点について模擬試験を行います。 評価の対象とはしませんが、本試験の参考となるので、必ず受講するようにして下さい。	小児保健学の全体像を理解し自己学習する技能等を獲得できる。	
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	子どもの健康と安全	飯野 伸子	
サブタイトル	保育での実践的な知識と技術を学ぶ	単 位 数	1
授業形態	演習・講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>1. 子どもを取り巻く環境について保健的支援と保育環境づくりについて理解できる。</p> <p>2. 保育に必要な衛生管理や安全管理について実施体制や保健活動の計画評価を学ぶことができる。</p> <p>3. 子どもに対する危機管理、災害対策、事故防止について学ぶことができる。</p> <p>4. 子どもの成長発達に応じた保健対策を理解することができる。</p> <p>5. 子どもの事故や外傷、疾病における対応について理解することができる。</p> <p>6. 子どもの感染および感染防止対策について学ぶことができる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>1. 保育者の使命として、子どもの心身の健康と安全を護り生命の尊厳を自覚することが出来る。</p> <p>2. 専門職者として保育に必要な論理的思考、判断力、技術、表現力を身につける。</p> <p>3. 他者と連携、協働の学習を通して、豊かな人間形成が身につける。</p> <p>カリキュラムマップの位置づけ 2年次前期（第1部）、3年次前期（第2部）</p>			
授 業 の 方 法			
<p>1. 講義は既習の乳幼児の成長について、常に振り返りながら授業を行い配付資料で学習を深める。</p> <p>2. 子どもの健康、事故、けがや病気への対応の知識について事例を通して学ぶ。</p> <p>3. 緊急時の対応方法についてビデオ視聴を通して学ぶ。</p> <p>4. 災害時を想定し、事例をもとにグループワークを行う。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：野原 八千代『子どもの健康と安全』建帛社 2019年</p> <p>参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年</p> <p>『保育園における感染症の手引き 2013』日本保育園保健協議会 2012年</p> <p>『保育園保健の基礎知識 2013』巷野悟郎監修 2013年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
習得した知識と技術を確認するために、科目修了試験と演習への取り組みで総合的に評価し、さらに授業貢献度、小テスト結果を加えて総合評価とする。		定期試験	80%
		小テスト	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
医療現場で看護師、助産師として長年病院で従事してきた経験と、看護師養成所での看護師教育を活かして授業を展開し、子どもの健康を守り、健康を維持増進するために必要な知識と技術を学びます。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 子どもの特性、子どもの病気の特徴	授業科目の理解 子どもの特徴を踏まえて健康上の問題の明確化
2回	<演習>子どもの健康と保育環境の確認 子どもが生活する保育環境の確認	健康生活に必要な保育環境について理解
3回	<演習>健康と安全管理のための個別及び集団への対応と管理 <内容>保育における健康と安全観察の意義と情報収集方法を理解し、健康観察の実際を学ぶ	安全と健康観察の意義と方法の理解と実施
4回	<演習>健康及び安全管理① <内容>身体の清潔の意義と目的・皮膚の鍛錬	衛生管理の理解
5回	<講義>健康及び安全管理② <内容>事故防止と安全対策 発達段階に応じた事故の特徴と予防	子どもの発達段階に応じた事故の特徴とその予防策を理解
6回	<演習>健康及び安全管理③ <内容>危機管理と災害への備えと対策 ・集団生活における事故の特徴と予防法 ・子どもの災害における備えと対策	集団生活における危機管理と災害への備えと対策について理解
7回	<講義>子どもの疾病に対する対応① <内容>腹痛、嘔吐、下痢等の対応	子どもに多くみられる症状の対応の理解
8回	<講義>子どもの疾病に対する対応② <内容>発熱、けいれん、頭痛等の対応	子どもに多くみられる症状の対応の理解
9回	<演習>子どもの疾病に対する対応③ <内容>バイタルサインチェック、薬の理解と管理	バイタルサインの重要性和薬の服用と管理の理解
10回	<演習>子どもの疾病に対する対応④ <内容>応急処置、救急処置、救急蘇生法	緊急時の対応と処置について実施できる
11回	<講義>感染症の予防と対策 <内容>集団生活における感染症予防とその対策	感染の機序と予防対策についての理解
12回	<講義>保育における保健対応 <内容>保育の場における保健対応の基本的考え方 3歳児未満の児への対応	3歳未満児への保健的対応の必要の理解
13回	<講義>個別的な配慮を要する子どもへの対応 <内容>配慮を要する子どもへの対応 障害のある子どもへの対応	障害児や個別的配慮の必要がある子どもへの対応の理解
14回	<講義>健康安全管理の実施体制 <内容>職員間の連携・協働と組織的取り組み 保育における保健活動の計画と評価 母子保健・地域保健	地域連携における健康安全管理の理解
15回	授業の振り返り、まとめ 子どもの事故と病気の予防と健康管理についての確認	子どもの健康保持増進を図る保育者の自覚を養う
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	子ども家庭支援論	西 智子	
サブタイトル	子どもと家族のために考え支える姿勢	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>保育所や幼稚園では、かねてより子どもたちの保護者や家庭に対してさまざまな支援を行ってきた。少子化問題を発端に子育て家庭への支援の必要性が広く認識されるなか、“保育の場”に地域の子育て支援拠点としての役割を果たすことが更に求められている。本授業では、①保育者の特性を生かした家庭支援の意義と役割、②支援活動の実践にあたって必要な基本的知識や技術、③子育て家庭に対する支援体制の現状、④社会の現状を踏まえた多様な支援の展開と関係機関との連携のあり方について学ぶ。その上で、子どもと家庭に寄り添い、自身のできることを問い、考える姿勢を持ち続ける保育者を目指す。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目では、子育て家庭の支援者としての知識と技能、資質養成を目的として「①乳幼児保育に対する情熱及び責任感」と「②専門職に関する知識・技能及び表現力」の双方を培い、向上に資する授業を行う。カリキュラムマップでは、実践力を高める時期の「福祉の理解」に該当する。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>基本的には講義形式で授業を進めるが、レポートの作成に向けて課題の中で調査等を行う。「事例分析」やグループ単位での課題解決の意見交換等を行う。課題に対するグループワークを取り入れる。新聞・SNSのニュースから関連記事を把握し、家庭支援の現状を確認し問題意識を共有する。毎時間ごとにリアクションペーパーを記入してもらう。授業内容の確認と学生からの質問を受け付ける目的で、次回の授業の最初に前回のリアクションペーパーのフィードバックを行う。授業内容を確認する「ミニレポート」「小テスト」を授業時間内に行う。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『子ども家庭支援論』中央法規、2019年2月                  テキスト：『保育所保育指針解説書（平成30年改訂）』厚生労働省、フレーベル館                  ＊その他の参考文献は授業時に指示する。また、適宜資料を配付する。</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 「ミニレポート」「小レポート」の成績		小テスト	20%
2. 課題の内容と提出期限の遵守		ミニレポート	20%
3. 定期試験の成績		定期試験と課題の提出	60%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>・関連施設についての調査等のレポートは、提出期限を守って必ず提出する。                  ・授業回範囲のテキストを読む「予習」と授業内容を問うミニレポートで「復習」を行うと良い。                  ・グループワークには積極的に取り組み、他者の意見から学ぶ姿勢を身につけて欲しい。                  ・支援活動の仕方は服装的であり、答えは一つではない。子育て支援に関する情報や雑誌・新聞記事等に関心を持ち、これまでの学びを生かして、自身で考え模索する「主体的に学ぶ姿勢」を求める。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	【初回ガイダンス 「子ども家庭支援」とは】 ・授業の計画、進め方、評価方法を確認する ・子ども家庭支援の意義と必要性を知る。	「子ども家庭支援」の意義と必要性の理解。社会問題意識の深化
2回	【子ども家庭支援の目的と機能】 ・「児童福祉法」「保育所保育指針」を確認する ・保育士が目指す家庭支援と「全国保育士倫理綱領」等を知る。	保護者の側に立った、子育て支援の必要性の理解
3回	【子育て支援施策・次世代育成支援施策について】 ・子育て支援に関わる法制度、子育て支援新制度の実施体制を知る ・次世代育成支援対策の種類を学ぶ	子ども家庭福祉に関わる関連法や施策の理解
4回	【子育て家庭の福祉を図るための社会資源】 ・子育て家庭の福祉を図るための社会資源を知る ・様々な社会資源の活用現状と課題について知る。	子育て家庭の福祉を図るための社会資源の理解
5回	【保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義】 ・保育士の専門性を活かした子ども家庭支援について知る ・保護者に対する基本的態度、保育士の特性を生かした支援を知る	保育の専門性を活かした支援の方法・あり方の理解
6回	【子どもの育ちの喜びの共有】 ・保育所等における家庭支援の特性と保育者の多様な役割を学ぶ ・保育所保育指針における子育て支援の基本的事項とその方法を学ぶ	日々の保育と関連する保護者支援のあり方の理解
7回	【保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する方の向上に資する支援】 ・地域の子育て家庭を取り巻く環境を学ぶ ・保育所・地域の子育て支援の実際と子ども家庭支援の動向を学ぶ	地域資源・関係機関に関する知識
8回	【保育士に求められる基本的態度】 ・保育者の身に付ける基本姿勢と相談援助技術を学ぶ ・保育者の特性を生かした相談支援の基本を学ぶ	保護者支援の基本的な技法の理解
9回	【家庭の状況に応じた支援】 ・養育上問題を抱えた家庭の支援 ・多様な家庭の支援に必要な保育者の姿勢	家庭の状況を理解する専門性の向上と対応方法の理解
10回	【地域の資源活用と自治体・関係機関等との連携・協力】 ・子育てに関わる社会資源について学ぶ ・それぞれのケースに応じた自治体・専門機関等との連携を学ぶ	子育て支援の社会資源を知り活用方法の理解
11回	【子ども家庭支援の内容と実践】 ・日常的な保育活動を通しての支援について学ぶ ・相談援助のケースを通して支援方法を学ぶ	問題解決に向けた方法の模索と理解
12回	【保育所を利用する子どもの家庭への支援】 ・多様な問題を抱えている家庭や児童虐待等の対応等の支援を学ぶ ・障害を持った家族のいる家庭等の支援を考える	難しい問題を抱える子育て家庭の多様な問題の理解
13回	【地域の子育て拠点支援施設としての保育所】 ・地域の子育て家庭への支援の必要性と実際を学ぶ ・他機関との連携、当事者対応の仕方を学ぶ	地域の子育て家庭の支援の方法を理解する
14回	【多様な支援のあり方 要保護児童とその家庭】 ・要保護児童の定義とその増加傾向について理解する ・施設や専門機関を活用する支援（家庭養護、社会的養護）の確認	通所・入所施設や専門機関に関する知識
15回	【子ども家庭支援の現状と課題】 ・子どもの育ちや育てに関する近年の社会的課題について考える ・諸外国の子育て支援を知る	支援方法や援助技術と倫理観を含む支援者としての意識
試験	授業内レポート・小テスト・課題提出物・定期試験をもって総合的に評価する。	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年	子どもの食と栄養	菅原 園	
サブタイトル	子どもの発育に影響のある栄養と食物	単位数	2
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
子どもの成長発育に欠かせない食生活の大切さを理解する。 健康的な身体づくりをサポートできるよう栄養の基礎知識を身につける。 日本の伝統的な食文化を子どもたちに伝えることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
子どもの健康と発育に大切な栄養についての知識を身につけている。 保育の専門知識と栄養の知識を使って食育を実践することができる。			
授業の方法			
授業は講義を中心にグループワークを取り入れる。 ① 栄養素の働きを学び自身の食生活と結び付けてグループ討議をする。 ② 乳児期、幼児期の食と栄養を学びそれを実習で確認する。 ③ 特別な配慮を要する子どもの食事について理解する。 ④ 食育とは何かを理解し具体的に計画実行できる方法をグループで考え実習する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『発育期の子どもの食生活と栄養』 菅原園他 学建書院 2015年 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評価の要点		総合評価割合	
定期試験が評価の中心であるがレポートやグループワークに於ける貢献度などで総合的に評価する。		定期試験	70%
		レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
授業は講義だけでなく調理実習もあるので実習のある時はエプロンなど必要なものを忘れないように注意する。また教室移動の際は速やかに行動する。 子どもの栄養について普段から興味を持ち新聞などの記事に目を通す習慣をつけておく。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：授業の目的と進め方、子供の健康的な食生活の意義について理解する	授業概要の理解
2回	栄養の基礎知識① ・栄養素の体内での働きについて学ぶ	栄養素の基礎力
3回	栄養の基礎知識② ・食事摂取基準と献立作成について学ぶ	食事摂取基準と栄養素の役割を理解
4回	ライフステージの栄養 ・乳児期から成人期、妊娠・授乳期の食生活の特徴と現状の問題点について学ぶ	現代の食生活の把握と理解
5回	授乳期の栄養 ・母乳、人工乳の特徴と授乳の方法について学ぶ	乳児の成長発育についての理解
6回	離乳期の栄養 ・離乳食の役割、進め方、支援の方法などを学ぶ	乳児の成長発育についての理解
7回	調乳、離乳食の実習 ・調乳の方法 ・調理実習を通して離乳食の形態の移り変わりや食材の変化を学ぶ	実践力
8回	幼児期の発達と食生活 ・幼児期の食事の特徴について学ぶ ・幼児期の食生活の現状と問題点について学ぶ	幼児期の食生活についての理解
9回	障害のある子どもの食生活 ・障害のある子どもの食事の内容と進め方について学ぶ	障害のある子どもの食生活についての理解
10回	疾病時、アレルギーについて ・疾病時の食生活について学ぶ ・食物アレルギーのある子どもの食生活と対応について学ぶ	特別な配慮を要する子供への配慮
11回	幼児食とアレルギーのある子どもの食事について実習を通して学ぶ	除去療法を理解
12回	食育の基本と内容 ・保育における食育の目的と基本的な考え方を学ぶ	食育の内容を理解する
13回	食育のための環境 ・「食べる力」に向けての支援を学ぶ	食育の内容を理解する
14回	食育の実際 ・クッキング保育の計画、実行、評価について学ぶ	実践力
15回	食育の実際 ・媒体作成の計画、実行、評価について学ぶ	実践力
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2部3年	子どもの食と栄養	池本 真二	
サブタイトル	子どもの発育に影響のある栄養と食物	単 位 数	2
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>1. 目的：子どもの発育段階に応じた食と栄養を学ぶことで、より良い保育者を目指す。</p> <p>2. 上記の目標を達成するために、次の学習成果を達成する。</p> <p>1) 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識（栄養の概念と栄養素の種類と機能）を説明できる。</p> <p>2) 子どもの発育・発達段階に応じた食生活の意義（食生活要因の関連）を説明できる。</p> <p>3) 養護及び教育の一体性をふまえた“食育”の意義・目的、基本的な考え方、その内容について説明できる。</p> <p>4) 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を説明できる。</p> <p>5) 保育所におけるアレルギー対応、授乳・離乳食の対応（母乳、調乳ミルク、離乳食等）、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めることは、ディプロマポリシーの②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけることに直接関連する。また、演習形式の授業展開は、③多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけることに繋がる。			
授 業 の 方 法			
<p>1. テキスト「子どもの食と栄養演習」を利用して授業を進める。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症の状況により、一部「遠隔授業」（オンデマンド型授業あるいは資料配布型授業）を取り入れる場合がありますが、基本的には、演習科目なので、対面授業とする。</p> <p>3. 授業の前半を「スライドを用いた講義・説明」、後半に課題・リフレクションシート等に個人/グループで取り組む形式で演習を行う。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『子どもの食と栄養演習』 小川雄二編著 建帛社 2020年</p> <p>参考図書：『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
授業の終わりに提出する課題・レポート（リフレクションシートを含む）を20%、定期試験の成績を60%、アクティブ・ラーニングなど授業への貢献度を20%として総合的に評価する。		定期試験	60%
なお、授業貢献度は、グループ討議等への貢献度と積極性で評価する。		課題・レポート等	20%
		授業への貢献度	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>1. テキストは毎回持参すること。シラバスを参考に、次の授業の該当箇所を読んでおくこと。</p> <p>2. リフレクションシートには授業で理解し難かったこと、質問事項を書き提出する。なお、理解度の確認のため、適宜、確認テスト的な項目を含めるので必ず回答すること。</p> <p>3. 授業中の私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用禁止は当然であるが、授業開始2分前には着席し、私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用は止め、授業を受ける姿勢を取るようにすること。</p> <p>4. 管理栄養士としての実務研究並びに教育経験から、子どもの発育発達と栄養に関する基本知識について解説します。</p>			

科 目 名 子どもの食と栄養（2部3年）

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	・授業ガイダンス：授業目標、進め方、評価などについて説明する ・子どもの健康と食生活の意義を学ぶ	授業内容の理解 食生活の意義の理解
2回	・子どもの健康と食生活の意義を学ぶ 食べることの影響（食生活から学ぶこと）を考える。 演習：食事記録（食事日記）から学ぶクイズ	子どもの健康と食生活の理解 食事記録の理解
3回	・栄養の基礎知識を学ぶ① 栄養素と生命現象との関係、栄養素の種類とその機能を学ぶ。 演習：栄養素クイズ	栄養素の理解 5大栄養素の種類とその機能の理解
4回	・栄養の基礎知識を学ぶ② 食品の機能別分類、一汁三菜の意味、食事バランスガイドを学ぶ。 演習：栄養バランスクイズ	栄養素と食品群の関係（食事バランスガイド等）の理解
5回	・栄養の基礎知識を学ぶ③ 食事摂取基準、献立、調理の基本的な知識、衛生管理を学ぶ。 演習：食中毒防止クイズ	食事摂取基準の理解 献立・調理・衛生管理の基本的な理解
6回	・子どもの発育・発達と食生活（栄養と食事）を学ぶ① 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活を学ぶ。 演習：乳汁栄養・離乳食クイズ	授乳・離乳の理解
7回	・演習：《調乳・離乳食》 器具の殺菌の方法や調乳の方法、離乳食の形態の変化を体験する。	調乳・離乳食の実践力
8回	・子どもの発育・発達と食生活（栄養と食事）を学ぶ② 幼児期の心身の発達と食生活を学ぶ。 演習：幼児期の食生活クイズ	幼児期の身体機能と食事内容の理解 食事摂取基準の理解
9回	・子どもの発育・発達と食生活（栄養と食事）を学ぶ③ 学童期並びに生涯にわたる心身の発達と食生活を学ぶ。 演習：学童期、思春期、妊娠期等の栄養クイズ	学童期以降の食生活上の課題の理解
10回	・食育の基本と実践について学ぶ① 食育の意義と目的、内容、計画について学ぶ。 演習：食育計画立案	乳幼児期の食育の意義・目的の理解
11回	・食育の基本と実践について学ぶ② 食育の評価と環境づくりについて学ぶ。 演習：食育媒体作製	乳幼児期の食育の実際の計画
12回	・食育の基本と実践について学ぶ③ ・演習：《食育の実践》発表・プレゼン	乳幼児期の食育の実践力
13回	・家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ	家庭や児童福祉施設における食事と栄養の理解
14回	・特別な配慮を要する子どもの食事と栄養を学ぶ 疾患及び体調不良の子ども、障害のある子どもへの対応	疾患や体調不良、障害のある子どもに対する工夫の理解
15回	・演習《食物アレルギーを持つ子どもへの対応/代替・除去食の実際》 食物アレルギーに配慮したおやつ等の作製等	食物アレルギーへの対応力
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	社会的養護Ⅱ	阿部 仁	
サブタイトル	社会的養護観を身につける	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>本科目の到達目標は次の2点である。</p> <p>1. 「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「相談援助」、「社会的養護Ⅰ」、「保育実習指導Ⅰ（施設実習）」、「保育実習指導Ⅲ（施設実習）」等の教科内容と連動させて、「施設実習」に関連する基本的知識の整理や施設保育士の責務等の理解を目指す。</p> <p>2. 「施設養護の実践について」の学習を通して、自らの社会的養護観を形成する。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、とくに「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す。</p> <p>保育士資格取得後、職業選択のひとつとして「施設保育士」を志向する場合がある。各種施設において求められる「保育士像とは何か」を探る。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>演習形式の授業形態を基本とする。</p> <p>遠隔授業も導入する。</p> <p>基本的な用語を身につけるために、授業シートを用いて振り返りを行う。</p> <p>授業に主体的な参加を行うために、アクティブ・ラーニングの手法をおり込んだ授業方法を取り入れる</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：とくに指定しない。</p> <p>教 材：必要に応じてプリントを配付する。</p> <p>DVD等視聴覚教材を活用する。</p> <p>参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年</p> <p>社会的養護のテキスト。適宜、参考文献を紹介する。</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 授業内で数回課題を設定し、レポート提出を求める		定期試験	50%
2. 受講記録としてのノート提出		レポート	30%
3. 授業への取り組み姿勢・貢献度		ノート	10%
4. 定期試験		授業への取り組み	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>日常的に、施設関連の情報に留意すること。</p> <p>メール <a href="mailto:abehit@wa.seitoku.ac.jp">abehit@wa.seitoku.ac.jp</a></p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	< ガイダンス > 授業方針の確認 保育士資格と各種施設との連関について理解する	保育士資格についての再確認
2回	< 「社会的養護」とは何か > 家庭養護との違いを認識する	社会的養護、家庭養護の理解
3回	< 社会的養護の基本原則 > ① 人間性の回復と形成 「パーソナリティ形成と社会化」について概説する	パーソナリティ形成の理解
4回	② 援助の個別化 ③ 集団生活の活用 ④ 親子関係の調整 ⑤ 積極的な社会参加	社会的養護の基本的理解
5回	< 施設養護の実践的方法とその展開 > 児童養護施設の実践例・検証 児童養護施設の事例から学ぶ (1) ①DVD視聴 ②まとめ	児童養護施設の子どもの様子を理解
6回	② 検証 グループ討議・発表	児童養護施設の保育者の役割の理解
7回	児童養護施設の事例から学ぶ (2) ① 資料読み込み ② まとめ	児童養護施設の子どものかかえる問題状況の把握
8回	③ 検証 グループ討議・発表	児童養護施設の子どもの心の動きの理解
9回	< 自己の実習体験を振り返る > ～施設実習の概要、感想をまとめる ① レポート作成	実習施設の概要理解
10回	② 検証 ～グループ討議・発表	施設実習で学んだ内容についての確認
11回	< 実習経験者の終了後レポートから学ぶ > ～各種施設の実習内容、実習課題とその達成状況 ① 児童養護施設 ② 乳児院	各種施設の理解
12回	③ 福祉型障害児入所施設（知的障害児施設） ④ 障害者支援施設（知的障害者施設）	各種施設の理解
13回	⑤ 医療型障害児入所施設（肢体不自由施設） ⑥ 医療型障害児入所施設（重症心身障害児・者施設）	各種施設の理解
14回	⑦ 母子生活支援施設	各種施設の理解
15回	< まとめ > ～授業内容の総括を行う	社会的養護観の確認
試験	定期試験	



該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部2年	乳児保育 I	堀井 美砂子	
サブタイトル	3歳未満児の心と身体の発達と保育	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>1. 保育所及び乳児院等で、保育者として働くうえで必要な基礎知識・技術を学ぶ。</p> <p>2. 乳児保育の現状と課題について理解したうえで、3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びの援助の方法について考え、理解する。</p> <p>上記をふまえ、子どもの心に寄り添い、安全かつ安心感を与えていける保育を学び考察する。更に職員間、保護者、地域との連携・協働の意味を学ぶ中で、現代社会における保育士の役割を認識する。愛情深い専門性の高い保育者となるよう「愛と信頼の保育」をテーマに乳児の魅力と乳児保育の奥深さを様々な角度から考察し、基礎知識を修得しながら保育者としての意欲を持てるようにする。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は「①情熱及び責任感を身につけている。②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている。③多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている。」ことを目指す科目である。乳児保育では、誕生してからの3年間に大切に愛されてきたからこそ、今の自分があることを振り返ると共に、保育者として人間の基盤となる誕生から3年間の保育の重要性を学ぶ。それらを通して3歳未満児と真摯に向き合うための情熱や責任感、援助方法、豊かな人間性の修得を目指す。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>乳児保育 I では、講義形態中心の基本的な学びを中心とし、(遠隔授業を取り入れ内容によりアクティブ・ラーニングも含む) 進めていく。更に、毎回授業シートへ授業メモと思ったこと、考えたこと等を記入し提出、教員からのコメントと共に次への学びへと繋げていく。また、授業内容によっては、関連する視聴覚教材を用いて理論と実践が結びつくように展開する。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『はじめて学ぶ乳児保育』 志村聡子編著 同文書院 2018年</p> <p>教 材：視聴覚教材の活用</p> <p>参 考 書：『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年</p> <p>『乳児保育』待井和江著 ミネルヴァ書房 2017年</p> <p>『講義で学ぶ乳児保育』善本眞弓編著 わかば社 2020年</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
定期試験、レポート提出、ノート作成 (A4 サイズに授業プリントを貼る) 授業シートの提出の内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		レポート・授業シート	20%
		ノート他	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業中は積極的に参加をし、インターシップ実習(1部1年)、2月の保育所実習(1部1年、2部2年)に結び付くように努力すること。そのためにもテキスト、保育所保育指針は普段から読み、授業中はメモを取るように心掛けること。ノートは A4 サイズを使用する。毎回ノートや授業シートに書き込みをしながら、意欲的に参加し学ぶこと。返事をする事問いに応答すること等保育者としての基本的な学びのポイントも身につけてほしい。テスト以外はレポート・授業シート・ノート提出(振り返りも含む)もある。自分の考えがしっかり書けるよう、毎回の授業が大切である。なお、定期試験は持ち込み不可の記述式である。</p> <p>公立保育園の保育士としての勤務経験を活かし、保育の理論と方法が結びつくような授業を展開する。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス (授業の目的と進め方、乳児保育の意義について学ぶ)	乳児保育 I の授業内容と乳児保育に携わる保育者の仕事の理解
2回	乳児保育はなぜ必要か①～社会的背景から考える～(保護者の就労を支える乳児保育の意味とは)	乳児保育に求められる現代社会の中での保育所の役割の理解
3回	乳児保育はなぜ必要か②～社会的背景から考える～(保護者の子育てを支える乳児保育の意味とは)	乳児保育に求められる現代社会の中での保育者の役割の理解
4回	乳児保育の成り立ちを知ろう①～歴史を理解する～(乳児保育の歴史を知る)	児童福祉法の制定と保育所の位置づけ
5回	乳児保育の成り立ちを知ろう②～現状を理解する～(現代社会における乳児保育のニーズを理解する・乳児院とは)	乳児保育が行われる様々な場所での保育の理解
6回	乳児院における乳児保育・乳児保育に関わる制度を理解する(乳児院の理解、子ども・子育て支援新制度を知る)	乳児院とは・色々な環境で行われている乳児保育事業と保育者の役割
7回	知っておきたい法律のいろいろ(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等から保育所等に関連する内容について学ぶ)	保育所に関連する法令の内容の理解
8回	保育所保育指針に書いてあること①～保育所保育指針とは～(保育所保育指針の目的や改定の背景他、指針を知る)	保育所保育指針で大切にしていることの理解
9回	保育所保育指針に書いてあること②～保育所保育指針とは～(乳児保育の充実他、保育所保育指針を知る)	保育所保育指針の乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育に書いてあること
10回	乳児保育の内容と方法①～基本的課題について～(乳児保育の重要性を考え、保育者として必要な要素を探る)	命を預かる保育者の仕事の重要性と理解
11回	乳児保育の内容と方法②～基本的課題について～(参考資料から乳児保育の基本的課題の意味について考える)	乳児保育の基本的課題の意味の理解
12回	子どもの発達と保育①～1歳未満児<0歳児>の保育～(保育所保育指針を基にして子どもの発達、保育者の援助の意味を理解する)	1歳未満児の発達と保育者の援助・新指針の理解
13回	子どもの発達と保育②～1歳以上3歳未満児<1歳児>の保育～(保育所保育指針を基にして子どもの発達、保育者の援助の意味を理解する)	1歳児の発達と保育者の援助・新指針の理解
14回	子どもの発達と保育③～1歳以上3歳未満児<2歳児>の保育～(保育所保育指針を基にして子どもの発達、保育者の援助の意味を理解する)	2歳児の発達と保育者の援助・新指針の理解
15回	3歳未満児のデイリープログラムから学ぶ保育所での1日の生活の流れ・乳児保育における様々な連携と共同・～乳児保育とは～	基本的生活習慣の理解と援助・保育者の専門性と子ども理解
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部2年	乳児保育Ⅱ	堀井 美砂子	
サブタイトル	3歳未満児の保育と援助の方法	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
1. 保育所及び乳児院等で、保育者として働くうえで必要な基礎知識・技術を学ぶ。 2. 乳児保育の現状と課題について理解したうえで3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活とあそびの援助の方法について考え、理解する。 3. 乳児保育における計画を学び、保育内容や方法、環境構成などを理解し、保育所実習に結び付けていけるようにする。 乳児保育Ⅰで学んだ基礎知識を活かしながら、「愛と信頼の保育」をイメージし、具体的な学びを通して、心の豊かな保育者としての資質を身につけ高めていく。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は「①情熱及び責任感を身につけている。②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている。③多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている。」ことを目指す科目である。乳児保育では、誕生してからの3年間に大切に愛されてきたからこそ、今の自分があることを振り返ると共に、保育者として人間の基盤となる誕生から3年間の保育の重要性を学ぶ、それを通して3歳未満児と真摯に向き合うための情熱や責任感、援助方法、豊かな人間性の習得を目指す。			
授 業 の 方 法			
乳児保育Ⅱでは、保育所実習Ⅰを視野に入れた基本的な学びと、内容に応じてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら進めていく。毎回、授業のメモを通して思ったこと学んだこと考えたことをノートに記入し、次への学びへと繋げていく。 また、視聴覚教材を授業内容により用いて、理論と実践が結びつくように展開する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『はじめて学ぶ乳児保育』 志村聡子編著 同文書院 2018年 教 材：視聴覚教材の活用 参 考 書：『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年 『乳児保育』 待井和江著 ミネルヴァ書房 2017年 『見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ』社会福祉法人あすみ福祉会編 萌文書林 2019年 『演習で学ぶ乳児保育』 善本 真弓編著 わかば社			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
定期試験、レポート、授業シート（授業中のメモと思ったこと考えたこと等の記入）ノートの内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		レポート・授業シート	20%
		ノート他	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
授業中は積極的に参加をし、2月の保育所実習Ⅰ（1部1年、2部2年）に結び付くように努力すること。Ⅱでの学びは、保育所実習Ⅱにも繋がっていく学びでもある。そのためにもテキスト、保育所保育指針は普段から読み、授業中は積極的に参加をし、メモを授業シートやプリントに取るようにする（ノートは乳児保育Ⅰから継続させても良い。実習にもつながる宝物ノートになるよう努力すること）。毎回授業シートを提出し、教員からのコメントを通して内容を振り返り、自身の学びを確かな物へと繋げてほしい。レポート課題も冬休みの課題として出す。 公立保育園の保育士としての勤務経験を活かし、保育の理論と方法が結びつくような授業を展開する。			

科 目 名 乳児保育Ⅱ（1部1年）

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス （授業の目的と進め方、乳児保育Ⅰの学びの振り返り）	乳児保育Ⅱの授業内容と乳児保育Ⅰの授業との関連性の理解
2回	3歳未満児の基本的な生活習慣（自立への歩み～食事・排泄・睡眠・着脱衣・清潔～について誕生後の3年間の重要性を学ぶ）	3歳未満児の基本的な生活習慣と保育者の援助の意味の理解
3回	新生児～保育内容と保育者の援助～について・生活と魅力的な姿（発達の特徴と子どもの姿を通して保育者の援助・快とは）	新生児の発達と特徴、保育者の援助の意味の理解
4回	生後1～2か月～保育内容と保育者のかかわり～について・生活とあそび（発達の特徴と魅力的な子どもの姿を通して保育者の援助・特定の大人とは）	生後1～2ヶ月頃の子どもの発達と特徴、保育者の援助の意味の理解
5回	生後3～5ヶ月～保育内容と保育者のかかわり～について・生活とあそび（発達の特徴と魅力的な子どもの姿を通して保育者の援助を理解・応答のかかわりとは）	生後3～5ヶ月頃の子どもの発達と特徴、保育者の援助の意味の理解
6回	生後6～9ヶ月 この時期の保育内容と保育者の援助・この時期の魅力的な姿（人見知りとは）	人間の基盤を形成する乳児保育の重要性と子どもの心の理解
7回	生後6～9ヶ月～保育内容と保育者のかかわり～について・生活とあそび（発達の特徴と子どもの姿を通して保育者の援助を理解する）	生後6～9ヶ月頃の子どもの発達と特徴・保育者の援助の意味の理解
8回	生後10～1歳3ヶ月 この時期の保育内容と保育者の援助・この時期の魅力的な姿（安全基地とは）	人間の基盤を形成する乳児保育の重要性と子どもの心の理解
9回	生後10～1歳3ヶ月～保育内容と保育者の援助～について・生活とあそび（発達の特徴と子どもの姿を通して保育者の援助を理解する）	生後10～1歳3ヶ月頃の子どもの発達と特徴・保育者の援助の意味の理解
10回	1歳児の魅力を探る 3歳未満児の保育内容と保育者の援助・この時期の魅力的な姿（探索活動とは）	人間の基盤を形成する乳児保育の重要性と子どもの心の理解
11回	1歳3か月～2歳未満～保育内容と保育者の援助～について・生活とあそび（発達の特徴と子どもの姿を通して保育者の援助を理解する）	1歳3か月～2歳未満の子どもの発達と特徴・保育者の援助の意味、理解
12回	2歳児の魅力を探る 3歳未満児の保育内容と保育者の援助・この時期の魅力的な姿（第一次反抗期とは）	人間の基盤を形成する乳児保育の重要性と子どもの心の理解
13回	2歳～3歳未満～保育内容と保育者の援助～について・生活とあそび（発達の特徴と子どもの姿を通して保育者の援助を理解する）	2歳～3歳未満の子どもの発達と特徴・保育者の援助の意味、理解
14回	3歳未満児の健康と安全・保育の環境（健康観察・安全管理・発達に合わせた保育環境・手作り玩具）	命を預かる乳児保育・養護と教育の一体性の意味・発達と保育環境理解
15回	3歳未満児の保育の計画・これからの乳児保育（保育者の専門性、資質などを考察し、保育所実習に繋がるようにする）	3歳未満児の保育の計画の意味・乳児保育の魅力・保育者の専門性理解
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	障害児保育	鹿島 房子	
サブタイトル	障害児を理解する保育者を目指す	単位数	2
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
(1)目的 様々な障害の特性について学び、障害のある子どもへの理解を深める。			
(2)授業構成と到達目標			
1. 障害の捉え方を整理し、障害児保育の歴史の変遷について述べるができる。			
2. 様々な障害の特性を説明することができる。			
3. 様々な障害に応じた対応について考えることができる。			
4. 障害児の家族の支援について理解できる。			
5. 障害児保育における協働や連携を理解できる。			
6. 障害児保育を取り巻く社会情勢を理解できる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている人」、「多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている人」に関連づけられる科目である。			
授 業 の 方 法			
1. 演習科目であるが、障害児保育についての基礎的な知識の習得のために、講義も行う。			
その際には、障害や障害児の理解につながるような質疑応答を随時行う。			
2. テーマに応じて演習課題を用意し、個々での取り組みとグループワークを行う。			
3. 実際の子どもの姿をイメージしやすくするために、DVDなどの視聴覚教材を適宜利用しながら進める。			
4. 授業内で課したレポート等は、内容についてのフィードバックを行う。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：「障害児保育ー子どもとともに成長する保育者を目指してー」藤永保監修 萌文書林 2018年（第3版）			
参考図書：「三訂版 医療現場の保育士と障がい児者の生活支援」柏女靈峰監修 独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会編、生活書院、2018年 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社、2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 障害の概念を理解している。障害児保育の歴史を理解している。		1. 期末試験 80%	
2. 様々な障害の特徴を理解して、要点を具体的に説明できる。		2. 学習意欲、提出物等 20%	
3. 子どもの状況を理解したうえで、可能な対応を提案することができる。			
4. 障害児の家族の支援について理解している。			
5. 障害児保育における協働や連携を理解している。			
6. 障害児保育を取り巻く社会情勢を理解している。			
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 日ごろから障害のある子ども、障害のある人についてのニュースや新聞・雑誌記事などに注意するようにしましょう			
2. 授業には主体的に取り組みましょう。教科書を必ず持参すること。			
3. 医療現場の保育士として長年病院で従事してきた経験を活かして授業を展開し、障害児保育における保育者の役割についての理解を深めます。			
4. 質問は教員のアドレスでお受けいたします。 <a href="mailto:kashimaf@wa.seitoku.ac.jp">kashimaf@wa.seitoku.ac.jp</a>			

		科 目 名	障害児保育
		授 業 回 数 別 教 育 内 容	身につく資質・能力
1回	ガイダンス 1. 授業の内容を概説し、進め方、評価の方法について説明する。 2. 各自の障害観、障害児（者）観を整理し、障害とはどういうことか考える。		科目の目標の理解 自分の障害観、障害児（者）観
2回	障害児保育の歴史と理念 1. 障害の捉え方の変化について理解する。 2. 戦前から現在までの障害児保育の歴史を理解する。 3. 障害児保育の理念について理解する。		障害の捉え方の理解 障害児保育の歴史の理解 障害児保育の理念の理解
3回	肢体不自由児の理解と支援 1. 肢体不自由とはどのような障害か理解する。 2. 肢体不自由児への支援の方法について考える。		肢体不自由の理解 肢体不自由児への支援方法
4回	視覚障害児の理解と支援 1. 視覚障害とはどのような障害か理解する。 2. 視覚障害児への支援の方法について考える。		視覚障害の理解 視覚障害児への支援方法
5回	聴覚障害児・言語障害児の理解と支援 1. 聴覚障害とはどのような障害か理解し、支援の方法について考える。 2. 言語障害とはどのような障害か理解し、支援の方法について考える。		聴覚障害児の理解と支援方法 言語障害児の理解と支援方法
6回	内部障害児の理解と支援 1. 内部障害とはどのような障害か理解する。 2. 内部障害児への支援の方法について考える。 3. 身体障害児の実態を理解する。		内部障害の理解 内部障害児への支援方法 身体障害児の実態の理解
7回	知的障害児の理解と支援 1. 知的障害とはどのような障害か理解する。 2. 知的障害児への支援の方法について考える。		知的障害の理解 知的障害児への支援方法
8回	自閉症スペクトラム障害児の理解と支援 1. 自閉症スペクトラム障害の様々な特性を理解する。 2. 自閉症スペクトラム障害児への支援の方法について考える		自閉症スペクトラム障害の特性の理解と支援方法
9回	注意欠如・多動性障害児・学習障害児の理解と支援 1. 注意欠如・多動性障害とはどのような障害か理解する。 2. 注意欠如・多動性障害児への支援の方法について考える。 3. 学習障害とはどのような障害か理解し、支援方法について考える。		ADHDの特性の理解 ADHD児への支援方法 学習障害の特性の理解と支援方法
10回	重症心身障害児の理解と支援 1. 重症心身障害とはどのような障害か理解する。 2. 重症心身障害児への支援方法について考える。 3. 医療的ケア児について理解し、支援方法について考える。		重症心身障害の特性の理解と支援方法 医療的ケア児の理解と支援方法
11回	保護者や家族に対する理解と支援 1. 家族支援の必要性を理解する。 2. 家族支援の留意点を理解する。		家族に対する理解と支援方法
12回	職員間の協働と専門機関との連携 1. 協働の必要性について理解する。 2. 児童発達支援センター等との連携と協働について理解する。		協働の必要性の理解 児童発達支援センター等との連携の理解
13回	個別支援計画の作成 1. 個別支援計画とは何かを理解する。 2. 具体的な個別支援計画の作成について理解する。		個別支援計画の理解 個別支援計画の作成方法の理解
14回	障害児保育の現状と課題 1. 保健・医療における現状と課題を理解する。 2. 福祉・教育における現状と課題を理解する。		障害児保育の現状と課題への理解
15回	まとめ 障害児保育で目指すこと 障害のある子どもの育ちと支援の意味を理解する。		障害児保育の意味を考える力
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	保育者論	大村 龍太郎	
サブタイトル	保育者としての社会貢献のビジョン	単 位 数	2単位
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到達目標			
保育者の役割や倫理、保育士の制度的な位置づけ等を理解し、その責任と重要性を自覚できるようにする。また、保育士の専門性は何か、連携や協働はどうあるべきかについて考えを深めることができるようにする。さらに、資質向上とキャリア形成のための取組や意義について理解できるようにする。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本講座は、カリキュラムマップにおける「基礎理論の理解」にあたる部分である。保育士となるための前提的な知識や使命を学び、自覚する内容である。また、他者との連携や協働、資質向上の在り方についても学ぶ。幼稚園教諭及び保育士の資格を得るうえで重要かつ意義深い内容である。			
授 業 の 方 法			
基礎理論の理解としての講義ではあるが、テキストでの理論や文言ばかりに偏ることなく、具体的な事例や保育現場で起こりうること等と結び付けながら、「これは、実際の保育現場でイメージすると、どのようなことと結びつくのか」「このような事例のとき、あなたはどのように行動するか。それは、保育者の役割や位置づけとどう関連するか」「保育園内で自身の資質を高めていくとは、具体的にどのような方法が考えられるか」などをテーマにしてディスカッションを行う。その際、全体討議やグループワークを行うが、教員が様々な知見を紹介したり、学生の考えを価値づけたりして支援する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年 『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』 ひかりのくに 2001年 その他、参考図書は適宜紹介する。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
授業の発言内容、ふりかえりシートの記述内容、学期末試験の3つを総合評価する。具体的には、テキストの読解や、事例の考察をもとに話し合う際の発言内容と、その時間の授業で考えたことについてのふりかえりシートの内容で評価する。学期末試験は、授業内で学んだ内容とそれに対する考えを記述する試験を行う。		定期試験	50%
		授業の発言及びふりかえりシートの内容	50%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
子ども一人一人を大切に、その成長を支援することに喜びややりがい、使命感をもつことが、何より大切です。そのような気持ちをもって取り組めば、本講座において「保育者の役割や倫理」「制度的な位置づけ」「連携や協働の在り方」「資質向上やキャリア形成」について学んだり、考えたりすることの重要性がよく分かっていくと思います。 子どもたちの様子を想像しながら楽しく真剣に学んでいきましょう。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名	保 育 者 論
1回	「ガイダンス」 『保育者論』とはどんな学びなのか	身につく資質・能力	学習意欲 協調性・傾聴力の重要性の理解
2回	「保育者の役割」 保育者とは、どのような仕事なのか		職務の内容と責任の理解
3回	「保育士の倫理」 保育士には、どのような倫理が求められるのか		道徳観・倫理観
4回	「保育士の制度的位置づけ」 児童福祉法における定義や資格・要件等について		社会制度上の存在としての理解と自覚
5回	「保育士の資質・能力」 保育士には、どのような力が必要なのか		目指す姿の明確化と理解 子ども理解力
6回	「養護と教育」 保育士に求められる養護と教育の一体的展開について		保育士の役割の多重性の理解と自覚
7回	「家庭との連携」 家庭との連携の在り方と、保護者に対する支援について		家庭との連携の重要性の理解
8回	「保育におけるPDCA」 保育における計画・実践・評価・改善の在り方について		計画・企画力 省察力・改善計画力
9回	「保育における職員間の連携・協働」 共に働く職員間の望ましい連携・協働について		協働力の重要性の理解
10回	「専門職や専門機関との連携・協働」 様々な専門家や専門機関との望ましい連携・協働について		専門機関との連携の重要性の理解
11回	「自治体や関係機関等との連携・協働」 地域における自治体や小学校、公共施設等と望ましい連携・協働について		自治体との連携の重要性の理解
12回	「保育者の資質向上」 保育者としての力量を高めることの意義や方法について		自己分析力 自己啓発意欲 子ども理解力
13回	「保育者のキャリア形成」 保育者としてどのようなキャリア形成が考えられるか		自己分析力 自己啓発意欲 ライフプランニングの理解
14回	「保育者として生きるということ」 保育者として日々成長し続ける喜びと意義について		自己分析力 自己啓発意欲 労働意欲
15回	「まとめ」 これまでの学びをふりかえり、まとめる		省察力 協調性
試験	定期試験		

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部1年	教育原理	渡部 恭子	
サブタイトル	豊かな教育観の習得	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5以上
開講時期	後期		
到達目標			
<p>本科目は「教育とは何か」を根本的に考え、教育する者を志して学んでいく第一歩を踏み出す科目である。</p> <p>1. 教育について、学習者としてだけでなく、教育をする者として考え、新たな知識や視点を習得することで、より具体的で豊かな教育像を描く。</p> <p>2. 様々な教育理論や教育実践に触れる中で、自分の教育観がどのような特徴をもつのかを考える。</p> <p>3. 互いの教育観を理解しようと努め、認め合う姿勢を養う。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「幼児教育に対する情熱及び責任感を身につける」ことを目指す科目である。</p> <p>まずは自分が経験してきた教育を振り返り、教育が各々の生涯に少なからぬ影響を与えていることを認識する。その上で、教育の重要性を理解し、幼児教育に携わる者に必要となる教育観について自ら考え、教育を絶えず改善していく情熱と責任感を習得することを目指す。</p>			
授業の方法			
<p>導 入：振り返りシートに書かれた意見をまとめ、質問に回答しながら、前回の授業内容を振り返る。</p> <p>展 開：適宜互いの考えや価値観を共有する。必要に応じて、自分の考えを言葉で表現し、互いに読み合うことで共有する。講義や意見共有を通じて、教育に携わる上で必要となる幅広い視野や、柔軟な思考力、自己分析力を養う。</p> <p>まとめ：毎回振り返りシートを記入することで、授業内容を自分の言葉でまとめる。感じたことや気づきを文章で表現することにより、自分の考えを客観視し、理解を深める。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：特に指定しない。</p> <p>参考図書：『教育の原理 [第四版]』 沼野一男他 学文社 2010年 『子どもの教育の原理—保育の明日をひらくために』 古橋和夫編著 萌文書林 2011年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評価の要点		総合評価割合	
期末に提出するレポート、小テスト、授業毎に記入するコメントシート（振り返りシートを含む）の内容を総合的に評価する。		レポート	50%
		小テスト	20%
		授業への貢献度	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業の方針や評価方法については、初回の授業でより詳しく説明する。</p> <p>第2回の授業において、レポート課題の根幹に関わる講義を行う。</p> <p>ノートの指定・提出はしない。</p> <p>wtnbkyo5@wa.seitoku.ac.jp</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：教育原理を学ぶ意義とは（授業の方針を確認し、これまでの自分の教育観を言葉で表現する）	身近だが漠然としている物事を考える姿勢
2回	教育の矛盾（教育には常に矛盾が存在し、矛盾と共存していくことを理解する）	教育する者が常に抱える問題と向き合う姿勢
3回	教育の視点（教育の目的・内容・方法に着目し、「ねらい」の役割を意識する）	現場での実践を教育的視点で見る力
4回	西洋教育史（1）時代によって変化した教育像と子ども観（子どもが「小さな大人」として捉えられた時代からの変化を学ぶ）	教育像と子ども観の密接な関わりを捉える力
5回	【遠隔】西洋教育史（2）教育家の思想と実践 前編（ベスタロッチやフレーベルの教育思想とその実践を学ぶ）	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
6回	西洋教育史（3）教育家の思想と実践 後編（デュロイやモンテッソーリの教育思想とその実践を学ぶ）	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
7回	日本教育史（1）近世の教育機関から近代学校教育へ（日本に教育制度が出来るまでの教育の移り変わりを学ぶ）	近代学校教育が定着していく過程を捉える力
8回	日本教育史（2）教育家の思想と実践（和田実や倉橋惣三など日本の幼児教育を大きく動かした思想を学ぶ）	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
9回	子どもの権利（「子どもの権利条約」の全条目に触れ、権利を守る重要性を学ぶ）	子どもの権利を意識し守ろうとする力
10回	世界の子どもたち（子どもたちが直面している問題や、多文化理解の必要性に触れる）	世界各国の教育情勢へ目を向ける姿勢
11回	教育制度の基礎（憲法・教育基本法・学校教育法に関する基礎知識を習得する）	現代教育の仕組みに関する基本的理解
12回	生涯教育（生涯学習を身近に捉え、幼児教育の重要性を再確認する）	生涯教育における幼児教育の位置づけの理解
13回	学力観の発展と教育改革（「生きる力」や非認知能力について学び、自ら考える）	現代の教育を客観視する姿勢と視点
14回	教育の限界と危険性（教育にも限界が存在し、教育万能論を回避する必要性を理解する）	教育の限界と危険性について想定する力
15回	教育の可能性（全15回の授業を振り返り、自分の教育観の変化を見つめる）	自分の教育観の変化や特徴を分析する力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	保育原理	堀井 美砂子	
サブタイトル	保育とは・保育理論の基礎を学ぶ	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>1. 保育所、幼稚園、幼保連携認定子ども園における保育の意義や目的、また、保育の内容と方法、環境、計画、歴史、さらに現状と課題について等、保育をするうえで必要な基本的事項を学ぶ。</p> <p>2. 子どもの発達や特性を学ぶ中で、現代社会にあった子どもにとってのより良い育ちとは何かを考えながら、援助の意味や保育者の役割を理解する。</p> <p>保育の基礎的な原理、原則の学びを通して、自分自身のなりたい保育者像をイメージできるようにする。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は「①乳幼児保育に対する情熱及び責任感を身につける。②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につける。③多様な協働学習を通して豊かな人間性を身につける。」ことを目指す科目である。保育原理では「子どもとは」「保育とは」「保育者とは」について様々な角度から学び、幼稚園や保育所で集団保育を担う専門職としての知識や責任感を修得し、豊かな人間性を身につける。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>保育原理では、講義を中心に基本的な学びを修得していくが（遠隔授業）内容に応じてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら進めていく。また、毎回授業を通して思ったこと考えたこと等を授業シートに記入したものを教員がコメントを書いて返却し、次の学びへと繋げていく。授業内容によって視聴覚教材も活用し、理論と実践が結びつくようにする。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『保育原理 子どもの保育の基本理論の理解』 岡田耕一編著 萌文書林 2019年          参考図書：『W o r k で学ぶ保育原理』 佐伯一弥・金瑛珠 企画編著 わかば社 2019年          『保育原理』 待井和江著 ミネルヴァ書房 2017年          『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』          チャイルド本社 2017年          教 材：視聴覚教材の活用</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
定期試験、レポート、ノート（授業後に思ったこと、感じたこと等の記入）の内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		レポート・授業シート	20%
		ノート他	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業中は積極的に授業に参加することが大切である。グループでの話し合い等では、積極的に発言し学び合えるように努力してほしい。そのためにも、テキストは必ず前もって読んでおくことが必要になってくる。基本的な保育用語が多い授業であり、保育者になるための初めの1歩になる授業でもあるため、耳で慣れ、目で慣れ、心に刻み、頭に入れられるように努力してほしい。</p> <p>授業で毎回、授業内容の振り返りをシートに記入し、しっかり読み返すことが大切である。レポート課題もよく考えてまとめること。定期試験は持ち込み不可の記述式である。</p> <p>公立保育園の保育士としての勤務経験を活かし、保育の理論と方法が結びつくような授業を展開する。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名	保育原理
1回	ガイダンス ～授業の進め方、保育原理とは（どのような保育者になりたいかを考察する）～		保育・保育者の仕事への理解
2回	保育の意義 ～保育という言葉からイメージすること 3つの教育・保育施設の特徴を知る～		保育イメージの共有、3つの保育教育施設と共有すべき事項の基礎理解
3回	保育の理念 ～子どもの最善の利益と保育～（児童の権利に関する条約より）		子どもを保育することの意味と理解
4回	保育の概念 ～3つの教育・保育施設の社会的役割・幼稚園・保育所・幼保連携型認定子ども園とは～		保育の社会的役割と責任、子どもの姿と3つの教育、保育施設の比較
5回	子どもと保育に関する法令 ～保育に関連する諸法令の体系・子ども子育て支援新制度を知る～		根拠法令や関連法令の理解、子ども子育て支援新制度の基礎理解
6回	保育所・保育所保育指針について学ぶ①		保育所保育指針の総則理解、養護と教育の意味、保育実践の基本理解
7回	保育所・保育所保育指針について学ぶ②		乳児保育1歳以上3歳未満児3歳以上児の保育とねらい及び内容理解
8回	幼稚園・幼保連携認定子ども園について学ぶ 幼稚園教育要領。幼保連携型認定子ども園教育。保育要領について学ぶ		幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育、保育要領の総則理解
9回	保育所保育の方法 ～環境を通して行う保育の必要性～		環境の重要性と環境構成の留意点・保育所保育の方法についての理解
10回	保育の計画と評価 ～保育をするということ（全体的な計画・指導計画等）～		子どもの成長を見つめる力・計画・実践・評価・改善の意味と理解
11回	子どもの理解に基づく保育 ～子どもの発達過程の理解と保育・個人差に応じた保育を学ぶ～		0歳から6歳までの発達過程と子どもを理解することの重要性
12回	現代社会と子育て① ～核家族化・都市化・少子高齢化・資料から昔と今の子育ての環境の変化を考える～		都市化・核家族化・少子高齢化の進行による子育て環境の変化の理解
13回	現代社会と子育て② ～昔と今の遊び方やの違いから環境の違いから保育者の役割を考える～		現代社会の中での子どものあそびや環境の変化と保育者の役割理解
14回	地域社会で行う子育ての支援とは 障害のある子どもの保育とは		子どもと子育てに優しい社会の意味の理解、障害児保育の現状の理解
15回	保育の歴史と思想 まとめ～これからの保育に向けての保育者の在り方を考える～		幼児教育・保育の歴史と人物、今後の保育者の役割と資質向上への理解
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	子どもの理解と援助	星野 美穂子	
サブタイトル	子どもの心身の発達と保育実践	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到達目標			
1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、乳児・幼児理解の基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を獲得する。 4. 子どもの理解に基づいて、保育者の援助やかかわり方の基本を獲得する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
専門職に関する知識・技能及び表現力を身につける。 課題探求能力をもち、理論と実践を結びつけた主体的な学習を構築する。			
授 業 の 方 法			
① 専門用語や乳児・幼児理解の基礎的知識の解説を行う。 ② 様々な事例をもとにグループ討議または意見シートを用いたディスカッションを行い、理解を深める。 ③ 授業シート（学習のまとめ）への記入と教員からのフィードバック。			
テキスト・教材・参考図書			
『保育の心理学ー子どもの心身の発達と保育実践ー』福沢周亮監修 藪中征代・星野美穂子編 教育出版 2012年 『幼保連携認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年 その他、適宜ハンドアウトを配布する。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
グループ学習での貢献度、授業内に行う学習復習シート、学期末試験の 総合で成績評価を行う。		学期末試験	60%
		学習復習シート	20%
		グループ学習シート	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
毎時間、質疑応答の時間を設けますので、積極的に活用してください。 グループでの学習状況も対象となります。主体的に参加しましょう。			

科 目 名 子どもの理解と援助

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：テキスト、学習復習シート、グループ学習、成績評価基準についての説明 子どもの発達や学びの把握 1	本授業の学び方の理解、子どもの発達理解
2回	子どもの発達や学びの把握 2 ・子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 ・子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	発達援助のポイントの理解
3回	子どもを理解する視点 1 ・子どもの生活と遊び、学び ・保育者の役割（環境としての保育者）	子どもの学びについての基礎的理解
4回	子どもを理解する視点 2 ・子ども相互の関わりと関係づくり ・多様な経験と環境との相互作用	子どもの学びについての基礎的理解
5回	子どもを理解する視点 3 ・保育の環境の理解と構成	保育環境の理解と構成力
6回	子どもの発達と保育実践 1 ・集団の中で育つもの ・基本的生活習慣の獲得と保育実践	発達の特徴の理解 観察力
7回	子どもの発達と保育実践 2 ・社会性の発達と保育実践	発達の特徴の理解 観察力
8回	子どもの発達と保育実践 3 ・遊びの発達と保育実践	発達の特徴の理解 観察力
9回	子どもを理解する方法 1 ・個に応じた保育と発達援助	発達援助の方法 観察、記録、評価の方法
10回	子どもを理解する方法 2 ・観察、記録、省察、評価	発達援助の方法 観察、記録、評価の方法
11回	子どもを理解する方法 3 ・職員間の対話、保護者との情報の共有	発達援助の方法 観察、記録、評価の方法
12回	保育における発達援助 1 ・発達の課題に応じた援助とかかわり	特別な配慮を要する子どもへの理解、発達援助の方法
13回	保育における発達援助 2 ・特別な配慮を要する子供の理解と援助	小学校との連携の理解
14回	保育における発達援助 3 ・発達の連続性と就学への支援、保育者間の協働、家庭との連携、専門機関との協働	他者との協働による発達援助の方法
15回	今学期のまとめ ・子どもの発達と保育の課題	考察力
試験	定期試験	

該当学年	1部1年 2部1年	授業科目名	発達心理学	担当教員	緒方 玲子
サブタイトル	乳幼児の心身の発達及び学習の過程	単位数	2		
授業形態	講義	出席要件	4/5以上		
開講時期	後期				
到達目標					
<p>本科目の目的は保育者として子ども理解の基本となる子どもの発達を心理学の立場から学ぶことである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期を中心に発達の特徴を述べることができる。</li> <li>2. 生涯発達の中で乳幼児期の発達、母子関係の発達の重要性を説明できる。</li> <li>3. 発達心理学の理論を応用し、保育実践へのつながりを理解できる。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連					
<p>本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。カリキュラムマップにおいて「子ども理解」に位置づけられており、15回の授業により、子どもの発達を理解し、保育、教育現場における実習、保育関連科目を学ぶための基礎を身に付けることが求められている。</p>					
授業の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義においては聴講・ノートテイクを通して授業内容を把握する。</li> <li>・アクティブラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイなど）を通して、理解を深める。</li> <li>・確認小テストにより、授業内容を振り返り、確認する。</li> <li>・レポートの提出により、内容理解を深める。</li> <li>・視聴覚教材を通して多面的に内容を理解する。</li> </ul>					
テキスト・教材・参考図書					
<p>テキスト『乳幼児の心身の発達と保育実践』 福沢周亮 監修 藪中征代 星野美穂子 編著 緒方玲子 他著 教育出版 『保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング』 上林靖子監修 河内美恵他編著 中央法規 参考図書「幼稚園教育要領解説」（政府刊行物） 「幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領解説」（政府刊行物） 「保育所保育指針解説」（政府刊行物）</p>					
評価の要点				総合評価割合	
定期試験、レポート、授業態度、グループ・ディスカッション、発表、および小テストや振り返りの内容を総合的に評価する。				定期試験	70%
				小テスト・レポート	20%
				授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コクヨノート（コクヨ、キャンパスノート B5プリントが切らずに貼れるサイズ）を使用する。</li> <li>・授業を欠席した場合は、板書の写しを行うこと（コピーも可）。</li> <li>・欠席者への配布物は、出席簿に保管されるので、即日確認し、ノートに添付すること。</li> <li>・臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの心身の発達や心理的特質等について、わかりやすく解説します。</li> </ul>					

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	発達心理学の目的と意義	保育者として発達心理学を学ぶ目的と意義理解
2回	各発達段階（胎児期、乳児期、幼児期）と発達課題	発達段階と発達課題の理解
3回	各発達段階（青年期、成人期、老年期）と発達課題	発達段階と発達課題の理解
4回	発達を規定する内的、外的要因と相互作用について	発達の規定要因理解
5回	発達の初期経験の重要性	初期経験と臨界期、人間の発達の特殊性理解
6回	身体機能、運動機能、手先の運動の発達	身体機能、運動機能、手先の運動の発達理解
7回	認知機能（知覚、記憶）の発達	乳幼児の知覚、記憶理解
8回	思考の発達	ピアジェの思考の発達段階の理解
9回	自我と母子関係、基本的信頼感の発達	母子相互作用、基本的信頼感の理解
10回	情緒と言葉の発達	情緒の発達、言葉の発達の理解
11回	遊びと友人関係、社会性の発達	ごっこ遊び、集団遊び、友人関係の発達理解
12回	発達障害 「気になる子」への支援 Tトレ(1)	発達障害、「気になる子」への支援
13回	愛着障害・愛着理論の理解	愛着行動・愛着理論の理解
14回	統合保育の意義と主体的学習を支える集団づくり	統合保育の意義、支援
15回	発達心理学まとめ	発達心理学のまとめ
試験	定期試験	



該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部3年	子ども家庭支援の心理学	緒方 玲子	
サブタイトル	子どもの発達と子育て家庭の支援	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
<p>本科目の目的は保育者として子どもとその家庭理解の基本となる子どもの発達と家庭支援の方法を、心理学の立場から学ぶことである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、初期経験の重要性と発達課題について理解する。</li> <li>2. 家族・家庭の意義と機能について理解するとともに、親子（家族）関係を発達の視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> </ol>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。カリキュラムマップにおいて「子ども理解」に位置づけられており、15回の授業により、子どもと子育て家庭について発達の観点から理解し、保育、教育現場における実習、保育関連科目を学ぶための基礎を身に付けることが求められている。</p>			
授業の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義においては聴講・ノートテイクを通して授業内容を把握する。</li> <li>・アクティブラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイなど）を通して、理解を深める。</li> <li>・確認小テストにより、授業内容を振り返り、確認する。</li> <li>・レポートの提出により、内容理解を深める。</li> <li>・視聴覚教材を通して多面的に内容を理解する。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：「子ども家庭支援の心理学」原信夫、井上美鈴編著 北樹出版          その他 資料は当日プリントで配布する。</p> <p>参考図書：「幼稚園教育要領解説」（政府刊行物）          「幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領解説」（政府刊行物）          「保育所保育指針解説」（政府刊行物）</p>			
評価の要点		総合評価割合	
定期試験、レポート、授業態度、グループ・ディスカッション、発表、および小テストや振り返りの内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		小テスト・レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コクヨノート(コクヨ、キャンパスノート B5プリントが切らずに貼れるサイズ)を使用する。</li> <li>・授業を欠席した場合は、板書の写しを行うこと（コピーも可）。</li> <li>・欠席者への配布物は、出席簿に保管されるので、即日確認し、ノートに添付すること。</li> <li>・臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの心身の発達や心理的特質等について、わかりやすく解説します。</li> </ul>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	子どもの発達と家庭支援の心理学を学ぶ意義と目的 生涯発達とライフサイクル	ライフサイクル・家庭支援の心理学の理解
2回	乳児期 アタッチメントと基本的信頼感の発達	アタッチメント・基本的信頼感の理解
3回	幼児期 基本的生活習慣と遊び	基本的生活習慣の理解
4回	学童期 家庭・学校・発達障害の理解	家庭・学校・発達障害の理解
5回	青年期 思春期の仲間関係と家族関係	思春期の仲間関係・家族関係の理解
6回	成人期・中年期・老年期 家庭生活と職業生活・高齢期の問題	家庭生活と職業生活の理解
7回	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭の意義理解
8回	家族関係の発達	家族関係の発達の理解
9回	子育ての経験と親としての育ち	親としての育ち理解
10回	子育てを取り巻く社会的状況	子育てを取り巻く社会的状況の理解
11回	ライフコースと仕事・子育て・ワークライフバランス	ライフコースと仕事・子育ての理解
12回	多様な家庭とその理解	多様な家庭への理解
13回	特別な配慮を要する家庭への支援と理解	特別な配慮を要する家庭への支援・理解
14回	子どもの生活・生育環境とその影響・子どもの心の健康	生育環境 こころの健康の理解
15回	子ども家庭支援の心理学 まとめ	子ども家庭支援の心理学 まとめ
試験	定期試験	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部3年	教育相談	緒方 玲子	
サブタイトル	教育相談（カウンセリング）の理論と実践	単位数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
<p>本科目の目的は子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や課題を捉え、子どもを適切に支援する為に必要な基礎を身に付けることである。</p> <p>1. 子どもの心理的不適応や問題行動を把握する方法を学ぶ。</p> <p>2. 子どものいじめ、不登校（園）、虐待、非行などの発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。</p> <p>3. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。カリキュラムマップにおいて「心の理解」に位置づけられており、15回の授業により、子どもの心理的不適応や障害についての理解を深め、保育、教育現場における保育の専門性を身に付けることが求められている。</p>			
授業の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義においては聴講・ノートテキングを通して授業内容を把握する。</li> <li>・アクティブラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイなど）を通して、理解を深める。</li> <li>・確認小テストにより、授業内容を振り返り、確認する。</li> <li>・レポートの提出により、内容理解を深める。</li> <li>・視聴覚教材を通して多面的に内容を理解する。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト「教育相談の最前線－歴史・理論・実践－」 斎藤富由起・守谷賢二 八千代出版 「保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング」 上林靖子監修 河内美恵他編著 中央法規</p> <p>参考図書「発達と障害を考える本 ①～⑫」 ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」（政府刊行物） 「幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領解説」（政府刊行物） 「保育所保育指針解説」（政府刊行物）</p> <p>教材 箱庭療法用具、視聴覚教材（DVD）</p>			
評価の要点		総合評価割合	
定期試験、レポート、授業態度、グループ・ディスカッション、発表、および小テストや振り返りの内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		小テスト・レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コクヨノート（コクヨ、キャンパスノート B5プリントが切らずに貼れるサイズ）を使用する。</li> <li>・授業を欠席した場合は、板書の写しを行うこと（コピーも可）。</li> <li>・欠席者への配布物は、出席簿に保管されるので、即日確認し、ノートに添付すること。</li> </ul>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	教育相談の目的と意義について	教育相談の意義と目的理解
2回	教育相談の背景、心理査定、心理療法とは	教育相談の背景、心理査定、心理療法の理解
3回	教育・保育に役立つ心理検査法（投影法）	心理検査法、投影法、動的家族画の理解
4回	教育・保育に役立つ心理療法（箱庭療法）	ユング派心理療法、夢分析、箱庭療法、自己分析の理解
5回	気になる子への支援、ソーシャルスキルトレーニング	気になる子への支援、ソーシャルスキルトレーニング（SST）の理解
6回	広汎性発達障害の理解	広汎性発達障害の理解
7回	教育・保育に役立つ心理療法（ダンスセラピー） レポート⑤	自閉症とダンスセラピーの理解
8回	発達障害（ADHD）とクラス運営・Tトレ(2) レポート⑥	注意欠陥多動性障害（ADHD）への理解と支援
9回	発達障害（LD）と専門機関との連携	学習障害（LD）への理解と支援
10回	子どもの摂食、排泄の問題と教育相談	排泄、摂食の問題の理解
11回	知的障害、ことばの理解と医療機関との連携	知的障害、ことばの遅れの理解
12回	幼児・児童虐待とPTSD レポート⑨	PTSD、子ども虐待、被虐待児を理解する
13回	非行・反抗挑戦性障害と行動療法・Tトレ(3) レポート⑩	反抗挑戦性障害、非行と行動療法の理解
14回	愛着障害・DV 児童養護施設との連携	愛着の理解と支援力
15回	教育相談 まとめ	教育相談まとめ
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	教育史	渡部 恭子	
サブタイトル	教育の歩みと過去からの学び	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>本科目は、保育者として過去を振り返り、現代に至るまでの教育の歩みを学びながら、「史心」(昔を知り、今に役立てたいと思う向学心)を身につけることを目標とする。</p> <p>1. 教育の背後にある教育観や子ども観、時代的背景を読み解きながら教育の移り変わりを辿り、近代学校教育のみに留まらない幅広い教育の姿を捉える。</p> <p>2. 自ら過去に興味を抱いて学ぶ姿勢を養う。</p> <p>3. 幼児の伝統や過去への眼差しを育てる手がかりを得る。</p>			
ディプロマ・ポリシー(専門士授与の方針)との関連			
<p>本科目は、特に「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。教育において過去から多様な営みや思想を学ぶことは、現代における教育の在り方を考える手がかりとなるため、保育者にとって不可欠な学修である。社会状況から教育政策、危機管理に至るまで、これまでの出来事や流れを現代や自分に繋がるものとして考え、今後の教育および教育する者の有り様を客観的かつ多角的に見つめる視点を養うことを目指す。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>導 入：振り返りシートに書かれた意見をまとめ、質問に回答しながら前回の授業内容を振り返る。</p> <p>展 開：本科目は講義が基本となるが、ある程度推察が可能な歴史の題材や現代の話題については、適宜意見共有も行う。可能な限り視聴覚教材を使用し、歴史や事例を身近に感じる機会を提供する。</p> <p>まとめ：毎回振り返りシートを記入することで、授業内容を自分の言葉でまとめる。感じたことや気づきを文章で表現することにより、自分の考えを客観視し、理解を深める。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：特に指定しない。</p> <p>参考図書：『保育と家庭教育の誕生 1890-1930』 太田素子・浅井幸子編 藤原書店 2012年 『写真で学ぶ！保育現場のリスクマネジメント』 社会福祉法人日本保育協会監修 田中浩二著 中央法規出版 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
期末に提出するレポート、授業毎に記入するコメントシート(振り返りシートを含む)の内容を総合的に評価する。		レポート	60%
		授業への貢献度	40%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業の方針や評価方法については、初回の授業でより詳しく説明する。</p> <p>ノートの指定・提出はしない。</p> <p>wtnbkyo5@wa.seitoku.ac.jp</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：過去から学ぶ意義とは(授業の方針や意義、柳田國男が提唱した「史心」への理解)	教育する者として過去から学ぶ重要性の認識
2回	近世における群教育(共同体による教育の盛衰、学校制度導入前の社会状況)	近代学校導入前の教育に関する基礎知識
3回	伝統行事と子ども組(幼少期の様々な行事、子ども組における活動と育ち)	子どもの成長を支える伝統への理解
4回	幼児教育において継承される伝統と文化(行事や遊びでの取り組み事例)	現代における伝統的活動の意義を捉える力
5回	口承文芸における教育的営み(1) 謎(謎、いわゆる「なぞなぞ」にみられる教育的意義)	口承文芸を教育的営みとして捉える視点
6回	口承文芸における教育的営み(2) 昔話(昔話にみられる教育的意義、昔話の語り口)	口承文芸を教育的営みとして捉える視点
7回	現代の子どもをとりまく地域社会(学校に求められる役割の多様化、教育政策の動向、平和教育)	現代の子どもや学校の状況を捉える力
8回	海外の教育事情(世界各国の教育改革の動向及び教育実践)	世界各国の教育情勢を参照し学ぶ姿勢
9回	幼保小連携の方向性と実践例(幼保小連携の必要性、各地区での具体的事例)	幼保小連携の意義や可能性を自ら考える力
10回	学校と地域の連携・協働(地域との連携の意義、開かれた学校づくりの取り組み事例)	地域連携の意義を理解し活動を想定する力
11回	学校安全の基礎(1) リスクマネジメントとは(危機管理における基本的理解)	リスクとは何かを想定する力
12回	学校安全の基礎(2) 生活安全(教育現場で起こり得る事故の想定と対応)	日常的にリスクを意識し自ら目を向ける力
13回	学校安全の基礎(3) 交通安全(交通安全教育に関する基本的理解)	交通安全に関する基礎知識
14回	学校安全の基礎(4) 災害安全(日々の備えや防災訓練からの学び)	防災に関する基礎知識
15回	過去を活かす工夫(まとめ)	史心を次世代に引き継ぐ可能性を考える力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	教育方法論	渡部 恭子	
サブタイトル	教育方法の多様性と影響力	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
<p>本科目では、教育方法を吟味・選択・考案する思考力と実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>1. 教育の3つの視点（目的・内容・方法）が相互に密接に関わり、影響し合うことを実感する。</p> <p>2. 教育メディアが多様化する動向を把握し、情報機器を含む活用例について考察する。</p> <p>3. これまで学んできた思想や理論を意識的に実践に活かし、双方が互いに好影響を与え合うような思考法・実践法を探る。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。</p> <p>現代において教育を営む上で、教育方法とは欠かせない要素のひとつとして考えられ、教育全体に大きな影響を及ぼす可能性を持っている。そのため、教育方法についての確に分析し、検討し、実践する力は、教育者にとって不可欠な力であるといえる。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>導 入：振り返りシートに書かれた意見をまとめ、質問に回答しながら前回の授業内容を振り返る。</p> <p>展 開：適宜互いの考えを共有しながら実践し省察する。講義や試行を通じて、教育に携わる上で必要となる柔軟な思考力や、自己省察力、実践力を養う。</p> <p>まとめ：毎回振り返りシートを記入することで、授業内容を自分の言葉でまとめる。感じたことや気づきを文章で表現することにより、自分の考えを客観視し、理解を深める。</p> <p>遠隔授業予定回：第2，3，4，5，7，8，10，12，13，14回</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：特に指定しない。</p> <p>教 材：必要に応じて、プリントを配付する。</p> <p>参考図書：『新しい保育・幼児教育方法』 広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2013年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
期末に提出するレポート、授業毎に記入するコメントシート（振り返りシートを含む）の内容を総合的に評価する。		レポート	60%
		授業への貢献度	40%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業の方針や評価方法については、初回の授業でより詳しく説明する。</p> <p>ノートの指定・提出はしない。</p> <p>wtnbkyo5@wa.seitoku.ac.jp</p>			

科 目 名 教育方法論

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス：教育方法論を学ぶ意義とは（授業の方針と、教育における3つの視点を確認する）	教育方法が教育全体に及ぼす影響への理解
2回	【遠隔】計画の立案過程（教育における計画・実行・評価・改善の流れを意識する）	教育実践を計画する視点とその重要性の理解
3回	【遠隔】評価と考察(1) 教育者の自己評価（幼児教育における評価の役割、教育活動の省察方法を学ぶ）	自分の活動を客観的に評価するための視点
4回	【遠隔】評価と考察(2) 教育者の他者評価（教育活動を客観視するための視点と伝え方を探る）	他者の活動を客観的に評価するための視点
5回	【遠隔】記録の方法と工夫（幼児教育の現場において記録が果たす役割を考える）	記録の重要性を理解し現場で工夫する力
6回	子どもの主体性（主体的な活動事例を考察し、主体性について理解を深める）	子どもの主体性を具体的に想定する力
7回	【遠隔】子どもの対話（対話が生まれる場面を想定し、対話を促す教育方法を考える）	子どもの対話を引き出す方法を考える力
8回	【遠隔】子どもの「深い学び」とは（遊びを通じたディープ・ラーニングを具体的に考察する）	子どもの学びの深さを意識する力
9回	教材の比較（絵本や紙芝居など、各教材がもつ特性を整理し比較する）	各々の特性を意識して教材を選択し活用する力
10回	【遠隔】伝える工夫を考える（「伝わる」発表方法の工夫を具体的に考え、自己改善を図る）	自分の課題に対する改善策を試行する力
11回	伝える技術を磨く（伝えるための多様な技術を身につけ、自身の可能性を広げる）	新たな伝え方の長短を考え自ら試行する姿勢
12回	【遠隔】情報化社会と教育(1) 現代の子どもをとりまく情報環境（調査結果などを参考にしながら現状を把握する）	現代における情報と教育の関係を把握する力
13回	【遠隔】情報化社会と教育(2) 子どもの情報活用能力（子どもの情報モラルを含む情報活用力の育成法を考える）	子どもと情報の関わり方を想定する力
14回	【遠隔】情報化社会と教育(3) 幼児教育現場における情報機器の活用（幼児教育での情報機器の活用方法を分析し、考察する）	情報機器の特性を把握し活用を検討する力
15回	教育方法の多様性と影響力（全15回の授業を振り返り、要点や気づきを整理する）	教育方法を客観視し、多角的に分析する姿勢

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	教育・保育課程論	岡田 耕一	
サブタイトル	教育課程・保育課程の理解	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4/5 以上
開講時期	(1部2年)前期 (2部2年)後期		
到 達 目 標			
<p>[到達目標]                      全体的な計画、教育課程の意義と編成方法を理解し、カリキュラム・マネジメントを理解する。                      [具体的目標]                      1. 幼稚園教育、保育所保育において教育課程、全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解する。                      2. 教育課程、全体的な計画の編成の基本原則を理解し、指導計画の作成方法を習得する。                      3. 保育の計画、実践、評価、反省の流れを理解し、カリキュラム・マネジメントの方法を修得する。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>1. 教育・保育課程に関する専門的知識を修得することで、専門職としての知識・構成員及び表現力を身につける。                      2. 幼児期の教育の独自性は、教科書を使わない指導法にある。そのために保育を多面的にとらえる視点を学び、自分の保育観を確立する中で、使命感・責任感を養う。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>1. 学生の皆さんとの対話を大切に授業を進めていく。授業中に幾つかの課題（質問）を与えるので、自分の意見や考えを積極的に発表してほしい。                      2. 学生の皆さんの理解をさらに深めるために、授業内で簡単な小テスト、小レポートを実施する。                      3. 予習、復習については、授業の中で説明する。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト『保育課程論』 加藤敏子、岡田耕一編著 萌文書林 2013年 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
・主要な評価は定期試験である。 ・授業内の小レポートについても「総合評価割合」に示す通りに評価する。 ・受講態度に問題がある場合は、保育者を目指す学生としての倫理観が十分でないのみなし、ケースに応じて減点する。		定期試験 80% レポート 20%	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>1. テキストを基に授業を進めるので、テキストを必ず持参すること。                      2. 単なる知識として学習するのではなく、実習に役立てるという意識をもって授業に臨んでほしい。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	○ガイダンス ○授業 (1) 授業スケジュール、学習評価の方法について理解する (2) DVDを視聴し、保育所、幼稚園の1日を理解する	保育者の援助
2回 遠隔	○幼稚園の教育、保育所の保育についての復習 (1) 保育所・幼稚園の保育の目的、目標、内容について復習する	養護・教育の方法の理解
3回	○全体的な計画・教育課程・指導計画 (1) 全体的な計画・教育課程・指導計画の関連性について学ぶ (2) 教育・保育の計画と保育指針・教育要領との関係について学ぶ	全体的な計画の理解 指導計画の理解
4回 遠隔	○保育者の感性とは (1) 幼稚園実習のための総まとめ (2) 保育者を目指す学生の生活における意欲と感性のチェック	保育者としての感性
5回	○遊びの指導 ○部分実習指導案の作成① (1) 集団遊び（フルーツバスケット）の指導方法について学ぶ (2) フルーツバスケットの指導案（部分実習指導案）を作成する	集団遊びの指導 指導案作成能力
6回 遠隔	○保育のPDCA ○カリキュラム・マネジメント (1) 保育の計画、実施、評価、改善の流れについて学ぶ (2) 保育の質を高めるために必要なこととは	保育の評価方法 保育のPDCA
7回	○発達と保育① (1) 0～6歳児の心身の発達について学ぶ (2) 発達の過程にふさわしい保育方法と内容について学ぶ	乳児の発達の理解 発達にふさわしい保育
8回 遠隔	○発達と保育② (1) 第7回の学習を踏まえて、発達と保育についての練習問題を解く。	幼児の発達の理解 発達にふさわしい保育
9回	○全体的な計画の理解 ○3歳児の保育 (1) 第3回に引き続き、全体的な計画の内容について学ぶ (2) 3歳児保育のDVDを視聴し、保育の方法・計画について学ぶ	全体的な計画の理解 発達にふさわしい保育
10回 遠隔	○年間計画の理解 ○レポートの説明 (1) 第3回に引き続き、年間計画の内容について学ぶ (2) これまでの学習成果を踏まえて、レポートを書く	年間計画の理解
11回	○部分実習指導案の作成 ○4歳児の保育 (1) 第5回に続き、3歳児の部分実習指導案を作成する (2) 4歳児保育のDVDを視聴し、保育の方法・計画について学ぶ	指導案作成能力 文書表現力
12回	○月案の理解 ○週日案の理解 (1) 第3回に引き続き、月案の内容について学ぶ (2) 第3回に引き続き、週日案の内容について学ぶ	月案の理解 週日案の理解
13回	○1日実習指導案の作成 ○5歳児の保育 (1) 部分実習指導案の作成の経験を生かし、3歳児の1日実習指導案を作成する (2) 5歳児保育のDVDを視聴し、保育の方法・計画について学ぶ	指導案作成能力 文章表現力
14回	○子どもの理解と評価の方法 (1) 研究者の子ども理解、保育者の子ども理解について確認する (2) 子ども理解の方法原理について、事例に基づいて学ぶ	子ども理解と評価方法
15回	○学習のまとめ (1) これまでの講義の内容の復習・質疑応答 (2) 試験内容の説明をする	全体的な計画、教育課程、指導計画についての理解
試験	15回の授業終了後、定期試験を実施する。	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	保育内容総論	中山 博子 古川 寿子	
サブタイトル	保育内容の総合的理解と実践力	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
保育内容の基礎的理解と指導法の理解 ・乳・幼児の発達や指導の過程を理解し保育の基本と幼児期における教育の見方や考え方を学ぶ。 ・教育内容(5領域)の基礎的な理解と、幼児が遊びの中でどのような経験をしているのか「遊びを通した総合的な指導」について理解する。 ・5領域のねらい及び内容の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育における計画を学び、保育の実践力を磨く方法を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(専門士授与の方針)との関連			
1. 幼児教育の独自性と、教育・保育の基本を理解することで、専門職としての知識・技能・表現力を身につける。 2. グループ討議や模擬保育等、協働的活動を通して互いに学び合う姿勢を確立する。 3. 様々な指導形態や幼児の発達を理解し、保育者としての意識を高める。			
授 業 の 方 法			
1. 特定の教科書を使用しない幼児教育の独自性を学ぶために情報機器及び教材を活用し保育を読み取る素地を養い、保育内容「5領域」の基礎や関連性を理解する。 2. 幼児教育の目的・目標と3つの資質・能力や、幼児期に育てたい10項目等の理解を深め、学校教育のスタートとしての役割を理解する。 3. 指導案の構成を理解し模擬保育とその振り返りを通して具体的な保育を構想する力を養う。 4. 幼児期の発達の認識や幼児の思考・ものの見方・考え方を把握しながら教材研究力を高め、保育の構想力を養う。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト『保育内容総論』神長美津子・津金美智子・田代幸代編著 光生館 2018年 『幼稚園教育要領解説』文部科学省著 2018年 フレーベル館 参考図書『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針解説書』チャイルド本社 2017年 『演習保育内容総論—あなたならどうしますか?』酒井幸子・中山博子他 萌文書林 2014年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 定期試験は到達目標等に記述されている内容を中心に実施する。		定期試験	70%
2. 指導案作成や「授業シート」の振り返りや資料作成等を評価する。		資料作成等	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. テキストは必要に応じて組み替えて使用する。 2. 毎回授業で「授業シート」に記入し、学びを確認する。また、授業後にも質問も随時受ける。 3. 5領域のねらい及び内容、3つの柱や育てたい10の項目等の理解は保育内容の基本である。 4. 文部科学省の指導書「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」他の作成協力者である。また、全国国公立幼稚園長会副会長として、多くの指導資料を全国に発信してきた。長年にわたる勤務経験(園長等含)を活かし、子どもとの遊び方など保育現場を想定した授業を展開する。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名	保育内容総論
1回	・保育内容とは何か、保育内容総論で学ぶことを理解する	保育内容の基礎的理解 保育の全体構造の理解	
2回	子どもの遊びを分析し、どのような経験をしているのかを理解する ・視聴覚教材を活用し、幼児の遊びの場面から読み取る	幼児の認識・思考・動き等の理解	
3回	幼児教育で展開される多様な生活と保育内容を理解する ・幼児教育において育みたい資質・能力等を理解する	3つの柱となる資質・能力の理解	
4回	幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながりを理解する ・各領域のねらい及び内容の理解と10項目とのつながりを理解する	10項目と指導法の理解	
5回	環境構成を分析して物的環境、人的環境との関わりを理解する ・子どもの発達と環境構成・教材や遊具等の活用と工夫の基礎的理解 (情報機器及び教材の活用)	主体的・対話的で深い学びを保障する指導の理解	
6回	特別に支援を要する子どもの理解と学級運営を理解する ・保育現場における特別支援教育と個別指導の基礎的理解 (情報機器及び教材の活用)	特別支援教育の基礎的理解	
7回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりを理解する(文面) ・ワークシートを使い、子どもの行動観察をする(情報機器及び教材の活用)	保育構築力 観察力の向上	
8回	幼児期の発達の特性を理解し、教材等の活用法を理解する ・体験的学びを通して教材研究をする	教材研究の理解 遊びを通しての総合的指導法の理解	
9回	一人ひとりの発達に応じる保育実践を考える (情報機器及び教材の活用)	一人ひとりに応じる指導法の基礎的理解	
10回	幼児教育と小学校教育の違い及び接続期の保育を理解する ・幼児教育の基本と小学校教育の教科指導の理解 (情報機器及び教材の活用)	アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの理解	
11回	幼児教育における教育・保育課程について学ぶ ・全体計画の重要性の理解	全体計画の理解と評価についての理解	
12回	園行事の考え方と指導計画について ・運動会の事例・視覚教材を活用し、行事の在り方や指導法について学ぶ	行事のもつ教育的意義 指導計画の手順と配慮点の理解	
13回	指導案の構成の理解と作成のポイントを理解する ・指導案作成における個と集団との関係を理解する	指導案作成の理解力	
14回	模擬保育を目指して指導案構成を理解する ・具体的な保育を想定した指導案の作成する	指導案作成の理解力 保育の多様性の理解	
15回	模擬保育を実践し、保育を構想する ・保育実践と保育の評価についての理解 ・まとめ	保育の評価とPDCAの理解	
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部2年	保育内容・健康	井上 由利子 古川 寿子	
サブタイトル	健康のねらいと内容の理解	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>幼児期における健康の意義を理解し、領域「健康」に関するねらい及び内容に関わる専門的な知識と実践的な保育指導の技能、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性、小学校の教科等とのつながりを考慮した保育構想力を身に付ける。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に対する情熱や使命感を身に付ける。</li> <li>2. 保育に関する専門知識を習得する。</li> <li>3. 課題探求力を持ち、理論と実践を関連づけた主体的学習能力を養う。</li> <li>4. 保育者として専門職にふさわしい実践的な技能や表現力を身に付ける。</li> <li>5. 様々な情報機器への関心を高め活用力を養う</li> </ol>			
授 業 の 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パワーポイントを活用した視覚的な理解と具体的な事例による授業展開を図る。</li> <li>2. 幼稚園・保育所・こども園等の多様な保育形態の実際を紹介しながら保育構築を高める。</li> <li>3. 情報機器や教材を活用した実践的な保育構築により、現場に繋がる学びを体験させる。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤 隆監修 萌文書林 2018年 参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
定期試験、教材作成、レポート等で総合的に評価する		定期試験	30%
		保育実践	30%
		レポート	40%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業には、テキスト・参考書・A4判ノートを持参する。</li> <li>・ レポート等の提出物の期限を守る。</li> <li>・ 幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした授業を展開し、保育方法等を学びます。</li> <li>・ inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp</li> </ul>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 幼稚園教育要領に基づく領域『健康』のねらいと内容について理解する	授業概要の理解 領域「健康」の理解
2回	幼児期の健康的な生活 健全な心身の健康について理解する	健康観の基礎知識
3回	幼児期の心身の発育・発達とその特性 乳児期から幼児期における発達特性を理解する	発育・発達の基礎知識
4回	幼児期の運動遊びとその指導法 ルールや遊具による多様な動きの経験について理解する	動きの多様性 操作力
5回	模擬保育の発表構想と進め方 発表活動の手順を知り指導案作成方法を理解する	計画力
6回	運動遊びに関する情報機器及び教材活用 情報機器・教材の適切な活用に関する指導法を理解する	構想力 計画力
7回	運動遊びに関する指導法①（模擬保育） 保育実践と反省評価について理解する	実践力 操作力 指導力
8回	運動遊びに関する指導法②（模擬保育） 保育実践と反省評価について理解する	実践力 操作力 指導力
9回	幼児期の生活習慣・安全教育とその指導法 幼児の習慣形成と安全について理解する	問題発見力 課題解決力
10回	生活習慣・安全教育に関する情報機器及び教材活用 情報機器・教材の適切な活用に関する指導法を理解する	構想力 計画力
11回	生活習慣・安全教育に関する指導法①（模擬保育） 保育実践と反省評価について理解する	実践力 操作力 指導力
12回	生活習慣・安全教育に関する指導法②（模擬保育） 保育実践と反省評価について理解する	実践力 操作力 指導力
13回	幼児の食育とその指導法 食育指導の現状を考察し適切な指導について理解する	問題発見力 課題解決力
14回	食育に関する情報機器及び教材活用 情報機器を活用した食育教材を作成する	操作力 表現力
15回	まとめ 食育教材発表と領域「健康」の総まとめ	発表力 領域「健康」の理解
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	保育内容・人間関係	古川 由紀子	
サブタイトル	人間関係のねらいと内容の理解	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到達目標			
1. 領域「人間関係」のねらい及び内容 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 (2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人間関係形成の基礎となる力を育み小学校以降の教科等とのつながりを理解している。 2. 領域「人間関係」の指導方法及び保育の構想 (1) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、指導案を作成することができる。 (2) 事例を通して様々な人間関係の場面での指導が分かり、実践に活かすことができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育に対する情熱・使命感・責任感をもち、幼児の発達に即した援助を行うための専門的知識を習得する。</li> <li>・協働学習を通して、豊かな人間性を身につける。</li> <li>・カリキュラムマップの「保育を構築する」に位置づいており、保育内容の中核をなす科目として確かな学びの構築を図る。</li> </ul>			
授 業 の 方 法			
1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から理論を学ぶとともに、事例や映像を通して、グループ協議や発表など、アクティブ・ラーニングの授業展開により対話的・主体的に学ぶ。 2. 実習体験を有効に活用し、観察した事例から、幼児同士、保育者との関わり等人間関係の視点で分析・考察し、指導法について学ぶ。 3. ノート、ワークシートを活用し、予習、復習、本時の振り返り等、学習を深める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『対話的・深い学びの保育内容 人間関係』塚本美知子編著 萌文書林 2018年 参考図書：『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明できる。 2. 乳幼児の人間関係の発達と援助のポイントを説明できる。 3. 人間関係の基本的な内容と、発達を踏まえた適切な援助について事例を用いて説明できる。 4. 「人間関係」に関わる指導場面を想定した保育を構成し、指導案を作成できる。		定期試験 (60) % ノート、ワークシート レポート、指導案、発表 (40) %	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. テキストや参考書、ノートは毎回持参すること。 2. グループ討議では積極的に発言をすること。 3. グループ発表では他グループの意見を傾聴し、学び合いが深まるよう主体的に取り組むこと。 4. 幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かして授業を展開し、実践的な保育方法を学びます。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	<ガイダンス>と<領域「人間関係」の意義> ・授業の目的、内容、進め方などを知る ・領域「人間関係」の意義を理解する	領域「人間関係」の基礎知識の理解
2回	<領域「人間関係」のねらい> ・子どもを取り巻く環境、家庭生活の変化と課題について ・ねらいの意味とねらいを達成するための援助について	現状と課題の理解と考察力 ねらいの意味を理解
3回	<人間関係と発達①>0歳児～2歳児の人の関わり ・0歳児～2歳児の人の関わりが育つ過程、援助について ・教材研究及び指導案の作成	人間関係の発達理解 援助のポイント理解 理解力・考察力
4回	<人間関係と発達②>3歳児から5歳児の人の関わり ・3歳児～5歳児の人の関わりが育つ過程、援助について ・教材研究及び指導案の作成	人間関係の発達理解 援助のポイント理解 理解力・考察力
5回	<人間関係と発達③>愛着の形成 ・愛着の意味と重要性、愛着の形成過程について ・大人との関わり方の基本姿勢について	愛着の形成、保育者としての姿勢の理解 理解力・考察力
6回	<人間関係と発達④>依存と自立 ・依存と自立の関係について ・幼児の自立に向けた保育者の援助について	依存と自立の関係の理解 保育者の援助の理解 理解力・考察力
7回	<人間関係と発達⑤>自我の芽生え自己主張と自己抑制の視点から ・自我の芽生え、自我の形成について ・自己主張、自己抑制の関係について	自己主張・自己抑制についての理解 理解力・考察力
8回	<人間関係と発達⑥>コミュニケーション能力の育成 ・乳幼児のコミュニケーション能力の特性について ・コミュニケーション能力を育む援助について	幼児期のコミュニケーション能力の特徴、重要性の理解 理解力・考察力
9回	<遊びや生活と人間関係①>いざこざの原因 ・実習体験からいざこざの原因、保育者の援助について討議する ・指導案作成及び模擬保育より保育省察	いざこざの実態についての考察 分析力・考察力 協働性・傾聴力
10回	<遊びや生活と人間関係②>いざこざの意義と援助 ・いざこざの意義を理解する ・援助の方法、学級経営につながる指導法について	いざこざの意義と学級経営につながる指導法の理解 理解力・考察力
11回	<遊びや生活と人間関係③>共感・思いやり・道徳性の芽生え ・思いやりや道徳性をはぐくむ援助について ・指導案作成及び模擬保育より保育省察	共感、思いやりの気持ちをはぐくむ援助についての理解 理解力・考察力
12回	<遊びや生活と人間関係④>協同する経験 ・協同の意味、一人一人が活かされる集団について ・協同性を育むための援助について 教材研究及び指導案の作成	協同の意味の理解 互いを認め合う集団づくりを考察 分析力・考察力
13回	<遊びや生活と人間関係⑤>地域の人との関わり ・地域との交流の意義を理解する ・地域の人々との交流内容や方法、指導法について	子どもを取り巻く人間関係の理解 理解力・考察力
14回	<遊びや生活と人間関係⑥>人権教育 ・幼児期の人権感覚を育む援助について ・保育者の人権感覚を磨く	人権教育の意義の理解 分析力・考察力 人権意識の向上
15回	<領域「人間関係」のまとめ>授業の振り返り、 ・領域「人間関係」の確認、保育者の援助のポイント	内容項目の指導について総合的に理解 理解力・考察力
試験	定期試験	



該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	保育内容・環境	井上 由利子	
サブタイトル	環境のねらいと内容の理解	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
1 幼児教育は『環境を通して行うものである』ことの意義を理解し、領域「環境」に関するねらい及び内容にかかわる専門的な知識を身に付ける。 2 自然環境・物的環境・人的環境における実践的な保育技能を身に付け、評価の考え方を理解する。 3 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科との繋がりを理解する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1 自然環境に触れる直接体験は時を逃さず捉えることが必要なことから、その感性を磨き、情熱や責任感を身に付ける。 2 物的環境の構成員は人的環境とも重なることから、実践的な学びを身に付け、教育者としての質を高める。 3 模擬保育を通して教材の活用と指導の工夫を学ぶ中で専門性を身につけていく。			
授 業 の 方 法			
1 環境を3つの視点（自然環境・物的環境・人的環境）から理解し、模擬保育を通して具体的な保育を想定した指導案作成と実践後の反省評価により、保育を改善する視点をもつ。 2 幼稚園、保育所、こども園等における現場の多様な保育環境の実際を紹介して環境の在り方を理解し、教材研究を実践的に行いながら指導力を高める。 3 情報機器及び環境に関わる教材の活用法を理解し、保育の構想力に活用する方法を学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』 無藤 隆監修 萌文書林 2018年 参 考 書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
・定期試験、教材作品、レポート等で総合的に評価する。		定期試験	40%
		教材作品	30%
		レポート	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
・A4判ノート又はファイル等を用意して配付資料を整理する。 ・幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした授業を展開し、保育方法を学びます。 ・inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名 保育内容・環境	身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・幼稚園教育要領に基づく「環境」のねらいと内容を理解する。		環境教育の基本理解
2回	物的環境におけるねらいと内容の理解とその指導法① ・物的環境の実際を知る。		発見力 解決力 操作力
3回	物的環境におけるねらいと内容の理解とその指導法② ・保育実践 ～ワクワク保育室づくり～		構想力 実践力 協働性
4回	自然環境におけるねらいと内容の理解とその指導法① ・自然環境の実際を知る		感性 受容力 創造性
5回	自然環境におけるねらいと内容の理解とその指導法② ・保育実践 ～自然を活かした教材づくり～		感性 実践力 想像力
6回	飼育・栽培環境の重要性とその指導法		生命尊重の態度 観察力
7回	身近な事象を保育に取り入れる重要性とその指導法①		思考力 実践力
8回	身近な事象を保育に取り入れる重要性とその指導法② ・保育実践 ～たかがシャボン玉 されどシャボン玉～		感性 想像力 実践力
9回	思考力・表現力を高める物的環境の役割とその指導法①		思考力 表現力
10回	思考力・表現力を高める物的環境の役割とその指導法② ・保育実践 ～身近な道具を使った教材研究～		思考力 表現力 操作力
11回	環境教育における伝統・文化の役割理解とその指導法①		思考力 表現力
12回	環境教育における伝統・文化の役割理解とその指導法② ・保育実践 ～伝統・文化を活かす教材づくり～		想像力 実践力 操作力
13回	環境教育における生活実践の重要性 ・地球温暖化と生活環境との関連を実践する		思考力 問題解決力
14回	文字環境の在り方とその指導法 ・小学校以上の教育の基盤となる幼児教育が果たす役割		感性 指導力
15回	まとめ ・人的環境における保育者が果たす役割とその重要性		感性 豊かな心情 指導力
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	保育内容・言葉	星野 美穂子	
サブタイトル	言葉のねらいと内容の理解	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
1. 乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な言葉の発達に関する基礎的知識を身につける。 2. 領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、指導場面を想定した保育実践の方法を身につける。 3. 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 専門職に関する知識・技能及び表現力を身につける。 2. 多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につける。 3. 1・2を踏まえ、課題探求能力をもち、理論と実践を結びつけた主体的に学習に取り組むことができる。			
授 業 の 方 法			
1. 専門的知識・用語の解説を行う。 2. 様々な事例をもとにグループ討議または意見シートを用いたディスカッションを行い、理解を深める。 3. 保育場面を想定した模擬保育を行う。 4. 授業シート（学習のまとめ）への記入と教員からのフィードバック。 *以上を、対面と遠隔を組み合わせたハイブリット授業で実施します。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『新版 保育内容・言葉 一乳幼児のことばを育む』福沢周亮監修 藪中征代・玉瀬友美・星野美穂子編 教育出版 2018 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 2017			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
グループ討議、実技（絵本の読み聞かせ）、レポート（絵本ノートの作成）、授業シート（模擬保育 指導案の作成）の総合で成績評価を行う。		実技	30%
		レポート	50%
		授業シート	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
毎時間、質疑応答の時間を設けます。授業内容の理解にも役立つので積極的に活用しましょう。 児童文化財の教材研究、また児童文化財を活用した模擬保育を実施します。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名	保育内容・言葉	身につく資質・能力
1回	ガイダンス：テキスト、レポート、提出期限、成績評価基準についての説明 ・言葉を育てる児童文化財	領域・言葉の学び方	保育における児童文化財の重要性	
2回	幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらいと内容 ・領域「言葉」と他領域との関係 ・領域「言葉」と環境構成	領域・言葉のねらいと内容の理解と指導上の留意点の理解		
3回	子どもの言葉と発達過程1 ・ことばのもつ意義と機能 ・子どもの言葉の発達過程（胎児期～乳児期）	言葉の発達過程の理解		
4回	子どもの言葉と発達過程2 ・子どもの言葉の発達過程（胎児期から乳児期まで）	言葉の発達過程の理解と言葉に関する障害の理解		
5回	子どもの言葉と発達過程3 ・子どもの言葉の発達過程（幼児期、幼児期から児童期以降への繋がり）	言葉の発達過程の理解と児童期以降への繋がり		
6回	言葉を育む環境構成と援助1 ・言葉を育む保育者の役割と援助	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想		
7回	言葉を育む環境構成と援助2 ・生活に必要な言葉の習得を支える援助	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想		
8回	言葉を育む環境構成と援助3 ・子どもの遊びと言葉（言葉遊び、ごっこ遊び、劇遊び）	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想		
9回	言葉を豊かにする環境構成と援助 ・「聞く」ことを通した体験・「話す」ことを通した体験	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想		
10回	言葉を豊かにする環境構成と援助3 ・書き言葉が伝える世界	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想の理解		
11回	言葉をめぐる現代的課題と領域「言葉」、国際化・グローバル化の中の子どもと言葉、言葉の発達と保・幼・小連携	幼児の心情・認識・思考等を視野に入れた保育構想の理解		
12回	子どもの言葉を育む保育1 ・保育における児童文化財の活用、教材研究	具体的な保育場面を想定した指導案の作成		
13回	子どもの言葉を育む保育2 ・模擬保育のための保育観察と教材研究、保育場面を想定した指導案の作成	具体的な保育場面を想定した指導案の作成		
14回	子どもの言葉を育む保育3 ・模擬保育の実施とフィードバック	具体的な保育場面を想定した指導案の作成		
15回	子どもの言葉を育む保育4 今学期のまとめ ・模擬保育の実施とフィードバック	領域「言葉」における現代的課題や保育実践の動向の理解		

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部3年	保育内容・音楽表現	岡里 美幸	
サブタイトル	乳幼児を育む音楽表現活動	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	2部3年(前期)、1部2年(後期)		
到達目標			
乳幼児を育む音楽表現活動の理解と実践			
1. 乳幼児の音楽表現活動を理解し、発達段階に応じた指導ができる。 2. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 3. 保育者としての専門的知識、技能や表現力を身につけ、乳幼児を育む音楽表現活動の実践に生かすことができる。			
ディプロマ・ポリシー(専門士授与の方針)との関連			
カリキュラムマップの「保育を構築する」に位置付けられ、本授業により、保育者としての専門的技術及び表現力を身につけ、実践力を高める。			
授業の方法			
保育現場での音楽あそび(手あそび、歌あそび、楽器あそび、視聴覚教材や手作りおもちゃを使った歌あそび、わらべうたあそび、リトミックなど)を体験し、指導の実際を知る。具体的な保育を想定した指導案の作成に取り組む。模擬保育を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現』柳澤邦子編著 フレーベル館 2014年 『領域「表現」子どもと楽しむための音楽素材集』柳澤邦子編著 フレーベル館 2018年 『幼児とともに』聖徳大学・聖徳大学短期大学部音楽1研究室編 聖徳大学出版 2014年  参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年 『楽譜集 感じる心を育てる幼児のうた』柳澤邦子・三谷亜矢編 フレーベル館 2014年			
評価の要点		総合評価割合	
模擬保育形式で行う実技発表への取り組み、授業課題、作品、レポート(指導案)を総合的に評価する。		実技	40%
		授業課題	20%
		作品	20%
		レポート	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
保育現場や音楽教室での、歌唱・リトミック講師としての指導経験を生かした授業で、乳幼児を育む音楽表現活動の指導方法を実践的に学びます。 ・課題の提出期限を守ること。 ・遠隔授業における質問などはメールでお願いします。okasato.miyuki@wa.seitoku.ac.jp			

科目名 保育内容・音楽表現

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	〈ガイダンス〉乳幼児期において育みたい資質・能力と音楽の役割について 授業の目標、内容、評価などについて理解する	授業内容の理解
2回	手あそび指導の実際① 手あそびの意義と音楽的役割を理解し、指導法を学ぶ 模擬保育形式の発表	実践力 手あそびの指導法の理解
3回	手あそび指導の実際② 導入や展開の仕方を学ぶ 模擬保育形式の発表	実践力 手あそびの指導法の理解
4回	視聴覚教材や手作りおもちゃを使った歌あそび 視聴覚教材や手作りおもちゃを使った歌あそびを制作する	発想力 実践力
5回	乳幼児の発達と表現活動①—あそびを通して身につける様々な力 乳幼児の様々な発達段階における表現活動を知り、発達を促す音楽の役割を理解する	乳幼児の発達を促す 音楽の役割の理解
6回	乳幼児の発達と表現活動② 乳幼児の表現活動を知り、保育における評価の考え方を理解する —実習を振り返って	乳幼児の発達と 保育者の役割の理解
7回	わらべうたあそびの実際 わらべうたあそびの意義を理解し、保育の場における指導の実際を知る	わらべうたあそびの 指導法の理解
8回	楽器あそびの実際 乳幼児のひく活動を理解し、発達に即した楽器あそびの実際を知る 楽器の扱い方や奏法を知る	楽器あそびの 指導法の理解
9回	メロディーベルのあそび 発達に即したメロディーベルあそびの実際を知る メロディーベルの扱い方や奏法を知る	メロディーベルあそび の指導法の理解 実践力
10回	歌唱指導の実際 乳幼児の歌う活動を理解し発達に即した歌唱指導のあり方を学ぶ 模擬保育形式の発表	実践力 歌唱指導法の理解
11回	歌あそび・音楽あそびの創作 視聴覚教材や手作りおもちゃを使った歌あそび、音楽あそびの指導法を学ぶ 模擬保育形式の発表	実践力 適切な指導方法の理解
12回	音あそび・音楽あそびの実際① 音や音楽を使ったごっこあそびを体験し、指導方法を学ぶ	適切な指導方法の理解
13回	音あそび・音楽あそびの実際② 音や音楽を使ったごっこあそびを制作する	発想力 構成力
14回	リトミック指導の実際 保育におけるリトミック教育を理解し、模擬保育形式で実践する	専門知識の修得 実践力 適切な指導方法の理解
15回	〈まとめ〉授業での学びを生かし、具体的な指導場面を想定して保育を構想する 音楽あそびの制作と指導案の作成	構成力 適切な指導方法の理解

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	保育内容・造形表現	木村 早苗	
サブタイトル	発達に応じた造形活動を展開する力	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期 (1部2年) 後期 (2部2年)		
到 達 目 標			
<p>幼児教育における造形活動の意義と発達に応じた指導法を学ぶ。          幼児が自ら主体的に取り組むことのできる教材の活用、及び作成、保育の環境構成や具体的な展開の技術を習得する。          造形活動の楽しさを自ら体験し、自分なりの創意工夫を重ね、実践力を高める。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>①幼児教育に対する情熱・使命感・責任感を身につけている。          ②保育に関する専門的知識を習得している。          ③課題探究能力をもち、理論と実践を結びつけた表現力を身につけている。</p>			
授 業 の 方 法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の造形表現の特色と造形能力の発達を学び、造形表現の指導のあり方を様々な実践を通して習得する。</li> <li>・幼児の発想を豊かにする題材やそれにふさわしい素材、材料を考え、指導案を作成する。</li> <li>・表現活動と他の活動とのかかわりの重要性を理解し、保育の展開について考え、実践や実習に生かすことができる。</li> <li>・スケッチブックを活用し、各学習の成果を自分なりに工夫し、ポートフォリオを創りあげる。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：必要に応じて資料を使う。          教 材：授業に必要な物の持参については、授業内に予告する。          参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』          チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
<p>1. 授業内容に示す*の作品については、与えられた課題の要件を満たしているか、創意工夫がなされているかを評価する。          2. 授業内での情報提供、発言、積極性など、学習態度を評価する。          3. 幼児が主体的に学ぶことのできる指導案であるかを評価する。          4. スケッチブックは授業内容のまとめ方の工夫、課題への取り組み方で評価する。スケッチブックの提出期限を厳守する。</p>		<p>実技・作品など 60%          指導案・模擬授業 30%          授業への貢献度 10%</p>	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指定のスケッチブックを持参すること。</li> <li>・個人で用意する用具や材料については、前もって指示するので忘れないこと。</li> <li>・幼児の作品に目を向ける、美術館に行く、街の装飾を観るなど、日常的に自ら課題意識をもって過ごすこと。</li> </ul> <p>長年にわたる小学校教員としての経験と美術教育における活動を活かした授業を展開し、幼児の造形表現の特色と造形能力の発達を学び、造形表現の指導のあり方を様々な実践を通して習得していきます。</p>			

科 目 名 保育内容・造形表現		授 業 回 数 別 教 育 内 容	身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・授業を受けるにあたっての概要と計画 ・受講上の注意 ・スケッチブックの使い方 ・評価について		授業科目の理解 自己課題の明確化
2回	子どもの造形表現を考える ・大切さと意義 ・表現を支える保育者の役割 ・生活や遊びの中に見られる造形表現 ・心と体の発達からみた造形表現 ・環境構成		幼児の発達理解 課題の理解
3回	様々な材料や表現 ・平面造形 ① 描く、貼る、写す、染めるなどの手法と様々な技法とその組み合わせを工夫する。		知識 技能 構想力
4回	様々な材料や表現 ・平面造形 ② 平面造形の学びを活かした作品作りを行う。		発想力 構想力 技能
5回	様々な材料や表現 ・平面造形 ③ 様々な表現を組み合わせ、感覚を生かした作品作りを行う。		発想力 構想力 技能
6回	テーマに沿った造形活動 ① 「絵本や地図をつくろう！」 ・自分たちの生活や夢を、どのように絵本や地図に表すことができるのかを考える。		幼児の発達理解 保育の構想 発想力 構想力
7回	テーマに沿った造形活動 ② 「絵本や地図をつくろう！」 ・生活や夢を絵本や地図に表す。		発想力 構想力 発表力 鑑賞力 教材研究
8回	テーマに沿った造形活動 ③ 「絵本や地図をつくろう！」 ・自らの活動を振り返り指導案を作成する。互いに評価する。		発想力 構想力 教材研究・発表力 教材研究 コミュニケーション力
9回	指導案を基にした総合造形活動 ① 「イメージマップを作ることから！」 ・グループでイメージマップを作り、指導案を作成する。		発想力 構想力 発表力 鑑賞力 教材研究 コミュニケーション力
10回	指導案を基にした総合造形活動 ② 「イメージマップを作ることから！」 ・各グループが考えたテーマをもとに、遊びの展開を考えながら製作する。		発想力 構想力 発表力 鑑賞力 教材研究
11回	指導案を基にした総合造形活動 ③ 「イメージマップを作ることから！」 ・各グループが考えたテーマをもとに、遊びの展開を考えながら製作する。		発想力 構想力 発表力 鑑賞力 教材研究
12回	テーマに沿った造形活動 ④ 「イメージマップを作ることから！」 ・各グループで考えたテーマによって製作したものを使って遊びを体験する。		発想力 構想力 発表力 教材研究 コミュニケーション力
13回	各グループでの総合的造形活動を踏まえた模擬保育①		幼児理解・教材研究 発想力・構想力 コミュニケーション力
14回	各グループでの総合的造形活動を踏まえた模擬保育②		幼児理解・教材研究 発想力・構想力 コミュニケーション力
15回	幼児の造形表現保育における動向及びまとめと総括		幼児理解 自己課題の確認 学習成果の明確化

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	児童文化I～1	飯塚 真穂	
サブタイトル	表現遊び（ダンス）の創作と実演	単 位 数	1
授業形態	演習		
開講時期	前期	出席要件	4 / 5以上
到達目標			
幼児向けの表現遊び（ダンス）を創作し、発表する力を身につける。 1. 基本的なステップや練習作品を通して、各自の体力・技術の向上をはかる。 2. 保育表現研究発表会に向けてグループで創作活動を行う。 3. 保育表現研究発表会への準備を通して、幼児向けの表現遊びに必要な事項を学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 幼児教育に対する情熱を持って、積極的に授業に参加する。 2. 幼児の手本となることを常に心がけ、専門職に関する技能及び実技を習得する。 3. グループ作業を通して豊かな人間性を身につけ、コミュニケーション力を高める。			
授 業 の 方 法			
幼児向けのダンス作品の習得と保育表現研究発表会に向けての創作・練習を行う。 1. 基本的なステップ、参考作品の練習をする。 2. グループ創作（選曲・動き作り・衣装製作など）を行う。 3. ノートの記録、提出を通して授業内容を整理・確認する。			
テキスト・教材・参考図書			
教材等：授業内で別途指示する。 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
実技と合わせて、課題ごとの提出物や小テスト、期末のレポート（ノート）の提出など総合的に評価する。 課題の詳細はその都度授業内で知らせる。		レポート	40%
		実技・作品など	40%
		小テスト	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. ホールでの授業は学校指定の体操服を着用する。 2. B5またはA4サイズのノートを使用する。 3. 授業中のモバイル機器の使用は禁止、板書も全て手書きでノートに記録する。 長年にわたり現代舞踊を中心にダンサーとして活動し、作品創作や後進の育成を行ってきた経験を活かして、表現遊び（ダンス）の創作について指導します。			

		科 目 名	児童文化I～1
		授 業 回 数 別 教 育 内 容	身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】授業内容の確認、進め方の説明を行う 【保育表現研究発表会（以下、表現会）に向けての流れを理解する 【表現会①】選曲の基準を示し、次回までに候補曲を探す		全体の流れを把握 選曲の基準を理解
2回	【基本ステップの練習】 スキップ、ツーステップ、ギャロップなどの基本的な動きを学ぶ 【表現会②選曲】各自が持参した曲を聴き、候補を絞る		基本ステップの習得
3回	【練習曲①】基本ステップを用いた練習曲で、身体能力を高める 幼児向けの作品を体験し、表現会へ向けて創作の参考とする 【表現会③曲の決定・動き作り】使用曲を決定し、歌詞や全体のイメージから動きのモチーフを考える		動きのアイデアを出す力
4回	【練習曲②】幼児向けの振付の特性を学び、自らもリズムカルに動けるようにする 【表現会④動き作り・衣装デザイン】衣装についての注意点、デザイン画を描く際の条件を説明する→次回デザイン画を提出		リズム感 衣装についての知識
5回	【練習曲③】復習。→次回振付をまとめてノートを提出 【表現会⑤衣装デザイン提出・動き作り】各自のデザイン画を元に、グループで意見をまとめる。全員で同じ動きができるようにする		衣装デザインをまとめる力
6回	【表現会⑥衣装デザインの決定・隊形移動の工夫】デザインの細部を相談する。隊形移動の注意点を説明し、隊形移動のアイデアを出す		隊形移動についての知識
7回	【表現会⑦衣装見本の製作・作品の構成】衣装デザインを元に、実物大の見本を作成する。動きのモチーフや隊形移動のアイデアを曲の流れに沿ってあてはめ、作品全体の構成を決める		作品全体を考える力
8回	【表現会⑧衣装見本のチェック・隊形移動と動きの整理】衣装見本を着用して動きに支障がないか確認する。動きの回数や移動の経路を確認し、無理なく踊れるように修正する		衣装や動きに対する具体的な修正力
9回	【表現会⑨衣装製作・作品の踊りこみと修正】衣装製作状況のチェックを行う。作品の完成に向けて、無理がないかを確認しながら、踊りこみを行う		計画的に練習、製作する力
10回	【表現会⑩衣装チェック・照明調書と総合調書・作品完成と踊りこみ】衣装製作状況のチェックを行う。照明についての説明、必要書類の内容と記入方法を説明する。作品を完成させる。		表現会運営に関する知識
11回	【表現会⑪衣装完成・踊りこみ】完成した衣装を着用して、練習を行う。髪型も決める		責任を持って各自の作業を進める力
12回	【表現会⑫踊りこみ】衣装着用で練習を行う。リハーサルに向けて、細かい点を確認する		リハーサルへ向けた集中力と向上心
13回	【表現会⑬舞台リハーサル】全て本番通りに準備をして行う。舞台の広さ、袖幕の位置、立ち位置、視線などを確認する。後日、VTRを見ながら修正点を確認する		客観的に作品を見る力
14回	【表現会⑭保育表現研究発表会】舞台での発表とあわせて、他のグループの作品を鑑賞することで、様々なアイデアを学ぶ		発表による達成感 観察力
15回	【まとめ】前期の重要ポイントを確認する		表現あそびの要点を理解

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	児童文化1～2	飯塚 真穂	
サブタイトル	表現遊び（ダンス）の創作と指導	単位数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到達目標			
<p>幼児向けの表現遊び（ダンス）を創作し、指導する力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 練習曲を通して、年齢に応じた難易度の違いを理解する。</li> <li>2. 前期の内容を踏まえて、短期間で作品を創る力をつける。</li> <li>3. 模擬指導を通して、指導の要点を学ぶ。</li> <li>4. 模擬指導後に改善点や良かった点をお互いに挙げ、より良い指導について考える。</li> </ol>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に対する情熱を持って、積極的に授業に参加する。</li> <li>2. 幼児の手本となることを常に心がけ、専門職に関する技能及び実技を習得する。</li> <li>3. グループ作業を通して豊かな人間性を身につけ、コミュニケーション力を高める。</li> </ol>			
授 業 の 方 法			
<p>練習曲の習得と平行して、少人数でのグループ創作を行う。グループごとに模擬指導を実施し、幼児に対する指導方法を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 練習曲を習得、観察しながら記録をとる。</li> <li>2. グループ創作を行う。</li> <li>3. 指導の要点を学び、模擬指導を行う。</li> <li>4. 改善点について意見を出し合う。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>教材等：授業内で別途指示する。 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
実技と合わせて、課題ごとの提出物や小テスト、期末のレポート（ノート）の提出など総合的に評価する。 課題の詳細はその都度授業内で知らせる。		レポート	40%
		実技・作品など	40%
		小テスト	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホールでの授業は学校指定の体操服を着用する。</li> <li>2. B5またはA4サイズのノートを使用する。</li> <li>3. 授業中のモバイル機器の使用は禁止、板書も全て手書きでノートに記録する。</li> </ol> <p>長年にわたり現代舞踊を中心にダンサーとして活動し、作品創作や後進の育成を行ってきた経験を活かして、表現遊び（ダンス）の創作について指導します。</p>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	【ガイダンス】授業内容の確認、進め方の説明をする。 グループ分けと次回までの課題（選曲）の確認を行い、今後のグループ作業の計画を立てる	前期の振り返り グループ作業の計画性
2回	【練習曲A-①】4歳児対象の参考作品を習得する 見学しながら記録をとる時間も設ける 【グループ創作①】対象年齢を設定し、使用曲を決める	観察力 工夫して記録する力
3回	【練習曲A-②】4歳児作品を習得しながら、年齢の特性を学ぶ 【グループ創作②】各グループの作業計画に基づき、動き作りなどを行う	計画に沿って実行する力
4回	【練習曲A-③】練習曲の振付、隊形移動をノートにまとめて提出する 【グループ創作③】グループごとに動き作り、隊形移動などを考える	記録をまとめる力 体験したことを活かす力
5回	【練習曲B-①】5歳児対象の参考作品を習得する 【グループ創作④】模擬指導の際の対象人数を確認し、隊形や並び順を具体的に決める	観察と記録する力 条件に合わせて工夫する力
6回	【練習曲B-②】練習曲の続きを習得しながら、年齢の特性について学ぶ 【グループ創作⑤】声かけのポイントについて説明する	声かけについての知識
7回	【練習曲B-③】練習曲の復習をしながら、声かけの実践を考える 【グループ創作⑥】模擬指導のポイントを説明する	指導についての知識
8回	【グループ創作⑦】作品を完成させる 模擬指導の計画を立てる	具体的に幼児の年齢や様子を想定して計画する力
9回	【作品発表】グループのメンバーのみで作品を発表する。模擬指導に活かせるように、振付をしっかりと覚え、声かけも練習する	指導に対する責任
10回	【模擬指導①】指導担当グループ、幼児役のグループ、見学グループに分かれて行う。見学グループは、指導の流れや作品のポイントなどを記録しながら観察する。模擬指導終了後は、お互いに意見交換を行い、次回担当者へアドバイスをする	学んだことを総合的に実践する力 観察力と指導力
11回	【模擬指導②】①同様に、役割を変えて行う。初回の改善点を取り入れているかをよく観察する	観察したことを活かす力
12回	【模擬指導③】②同様に、役割を変えて行う。改善点・疑問点についてはただ指摘するだけでなく、具体的な改善方法を出せるようにする	工夫して改善する力
13回	【模擬指導④】③同様に、役割を変えて行う。幼児役のグループはできるだけ想定年齢に応じた反応を試み、指導担当者の対処方法を考えられるようにする	工夫して改善する力
14回	【模擬指導⑤】④同様に、役割を考えて行う。模擬指導の仕上げとして、これまでの注意点を踏まえて指導できるようにする	幼児教育、保育の現場に立つという意識を強く持つ姿勢
15回	【まとめ】幼児向けのダンス作品を創るときと、指導するときの注意点について確認する	表現あそびの要点を理解

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年	児童文化Ⅱ～1	掃守 純一郎	
サブタイトル	人形劇の理論と実際	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
保育の現場で用いられる児童文化財の中で「人形劇」に着目し、製作方法や劇的な表現の技術を体得する。劇遊びの総合的な学習として、基本的な舞台の名称や脚本作りを学ぶ。 ①幼児を取り巻く文化・文化財について学び、保育現場で幼児とともに楽しむことができる。 ②劇的な表現を体験することで、幼児が行う「劇遊び」を援助する力を身につける。 ③人形劇の人形や小道具などの製作方法や劇的な表現の演じ方を体得している。 ④製作を行う際に、自分の創意工夫を加え、幼児に適した教材作りを考察できる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
①幼児教育に関する専門知識・技能を身につけている。 ②保育に必要な表現力を身につけている。 ③協働学習に必要なコミュニケーション能力を身につけている。 ④幼児教育に対する情熱及び責任感を身につけている。			
授 業 の 方 法			
①幼児の劇的な表現活動の援助と指導方法を人形劇の製作・上演を通して学ぶ。 ②幼児に適した造形や色彩を考察し、人形劇に使用する人形制作を行う。 ③上演に必要な製作に協力して取り組み、グループで発表を行う。 ④劇的な表現に必要な台本製作、造形、音楽などと関連させながら劇遊びを総合的に学ぶ。 ⑤幼児を取り取り巻く文化の状況や文化財について学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『手づくり人形劇ハンドブック—子どもとじっくり楽しむ劇表現の世界』 幸田眞希・掃守純一郎・金城久美子共著 萌文書林 2016年 『保育者のための言語表現の技術—子どもとひらく、児童文化財をもちいた保育実践』 古橋和夫編著 萌文書林 2016年			
参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
製作した作品を使つての表現・発表が60%、作品や絵本のレポート、ノート作成などを40%の割合で評価し、さらに個人での積極性、創意工夫、チームの中での協調性を考慮して総合的に評価を行う。		レポート	10%
		実技試験	60%
		実技・作品など	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
積極性をもって授業に取り組む。たくさんの絵本を読む。 毎回配るプリントに絵本を2冊以上読んだ感想を書いて、次回必ず提出する。 返却されたプリントはA4ノートに貼る。欠席をしない。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	15回のガイダンス、受講上の注意事項、評価の方法を理解する。毎回、授業の初めに、手遊びと絵本の読み聞かせがある。 *絵本を毎週2冊以上読むレポート課題がある。 封筒を使った人形のデザインを考える。	想像力 集中力
2回	【講義】児童文化と児童文化財について。 【封筒人形の製作】身近な素材を使った人形の製作方法を学ぶ。 封筒の形状を利用して丸みを表現する。 折り紙・色画用紙を用いて人形に色を付ける。	表現力 創造性
3回	【絵本と紙芝居について】 絵本の特徴、種類について学ぶ。紙芝居の成りたち、種類、絵本との違い、演じ方について学ぶ。	表現力 創造性
4回	【球体人形の製作】 球体の発泡スチロールを使って、人形の頭の製作方法を学ぶ。 幼児が見ても分かる動物の特徴を生かした造形を工夫する。 カッターナイフの安全な使い方を学ぶ。	表現力 色彩感覚
5回	【胴体の製作】 ミシンの使い方を学ぶ。型紙を写して縫う。 頭に耳をつける。特徴を捉えて表現する。 ノート提出あり。	表現力
6回	【頭の完成】 頭にタオルを貼る。幼児の色彩に対する興味関心を考慮し、色の組み合わせを工夫する。 首の管を作る。あらすじを考える。	構成力 協調性
7回	【人形の完成】 頭、首管、胴体を縫い合わせ、人形を完成させる。 自分の人形を主人公にした話を考える。	表現力 文章力
8回	【あらすじ完成】 各自の書いたあらすじを読み合わせて、グループ内の話を決める。話をもとに、セリフ、ト書きを考え台本に仕上げる。	積極性 協調性
9回	【台本検討】台本を読み合わせて、動き、セリフを検討する。 【舞台・人形操作説明】基本的な舞台用語を学ぶ。 人形の操作の基礎を学ぶ。ごっこ遊び、劇遊びとの関連を理解する。	表現力 応用力
10回	【台本完成】 音楽などを記入した完成台本を読み合わせる。 台本を提出する。 ノート提出あり。	課題探求力
11回	【小道具の製作】 読み合わせ、立ち稽古を行いながら、必要な小道具を製作する。 小道具、大道具について理解する。	表現力 協働性
12回	【練習1】 小道具、音楽を加えて、幼児に分かる人形劇の表現を体験する。	表現力 主体性
13回	【練習2】 リハーサルとして本番通りの流れを行う。 足りない小道具、音楽などの検討を行う。	表現力 協調性
14回	【発表】 自分たちの作品を子どもの前で表現をすることについて学ぶ。 他のグループの発表を見ることで、より楽しく演じるために何が必要かという観点を養う。	表現力 応用力
15回	【授業の振り返り・まとめ】 発表のビデオを見る。手遊びの復習。 子どもの劇遊びとの関連を学ぶ。 ノート提出あり。	応用力 理解力
試験	評価の要点に基づき実施する。	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年	児童文化Ⅱ～2	掃守 純一郎	
サブタイトル	さまざまな保育教材を学ぶ	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
保育の現場で幼児と楽しく積極的に関わることができるように製作や表現の指導法を体得する。 ①幼児を取り巻く文化・文化財について学び、保育現場で幼児とともに楽しむことができる。 ②様々な保育教材の特徴を理解し、製作して演じることができる。 ③製作を行う際に、自分の創意工夫を加え、幼児に適した教材作りを考察することができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
①幼児教育に関する専門知識・技能を身につけている。 ②保育に必要な表現力を身につけている。 ③保育に必要なコミュニケーション力を身につけている。 ④幼児教育に対し宇宇情熱及び責任感を身につけている。			
授 業 の 方 法			
幼児を取り巻く文化状況や文化財の基礎を学ぶことを通して、保育に必要とされる多様な教材を理解し、個人とグループでの製作と実践的な表現を行う。 ①幼児の表現活動の援助と指導方法という視点で取り組む。 ②多様な児童文化財の特徴を理解し、劇的な表現を行う。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：前期に購入した教科書を後期も使用する。  参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
製作した作品を使つての表現・発表が70%、作品や絵本のレポート、ノート作成などを30%の割合で評価し、さらに個人での積極性、創意工夫、チームの中での協調性を考慮して総合的に評価を行う。		レポート	10%
		実技試験	60%
		実技・作品など	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
積極性をもって授業に取り組む。たくさんの絵本を読む。 毎回配るプリントに絵本を2冊以上読んだ感想を書いて、次回必ず提出する。 返却されたらプリントはA4のノートに添付する。 欠席をしない。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	<b>【ガイダンス】</b> 15回の授業内容について理解する。 保育現場で用いられる様々な保育教材の概要を知る。 パネルシアターについて理解する。	表現を楽しむ心
2回	<b>【パネルシアターの製作1】</b> パネルシアターの仕掛けを理解する。 グループで選んだ曲を絵で表現し、Pペーパー（不織布）に写す。	表現力 創意工夫
3回	<b>【パネルシアターの製作2】</b> 絵人形の大きさ、構図、色彩などを考慮し、それぞれの絵に着色する。使いやすい画材について理解する。	表現力 創造性
4回	<b>【パネルシアターの製作3】</b> 見やすい構成、順番を考慮し、絵コンテを描く。 コンテに合わせて貼る練習を行う。 幼児に聞こえる声の大きさを考える。	表現力 協調性
5回	<b>【パネルシアターの発表】</b> 楽しく見せる表現法を工夫し、実践する。 グループ全員で表現する。	表現力 協調性
6回	<b>【小発表の相談】</b> 幼児のための20分のプログラム内容を相談し、製作、練習をする。手遊び、絵本、大型紙芝居、パネルシアター、マジック等を考える。ノート提出あり。	理解力 課題探求能力
7回	<b>【小発表の練習】</b> それぞれの演目についての練習を、子どもを意識して行う。	表現力
8回	<b>【小発表の実演】</b> 手遊び、パネルシアター、紙芝居、人形劇の流れを理解しながら、子どもと楽しむ気持ちで発表する。	表現力 応用力
9回	<b>【振り返り】</b> 各発表について、共感しながら批評眼をもって振り返る。	振り返る力
10回	<b>【ペープサート1】</b> ペープサートの成りたちを理解する。 ペープサートの種類と作り方、操作の仕方を学ぶ。	理解力 文章力
11回	<b>【ペープサート2】</b> タスキの活動画を製作し、できた作品で練習を行う。 保育の場でのペープサートの活用法を考える。	表現力
12回	<b>【ペープサートの使い方】</b> ペープサートのビデオを見る。練習を行う。	理解力 表現力
13回	<b>【ペープサートの発表】</b> ペープサートの絵をはっきり見せる。 セリフを大きな声ではっきりと話す。	表現力 応用力
14回	<b>【手袋を使った簡単な人形】</b> 手袋を使った製作をし、表現をおこなう。 ノート提出あり。	理解力 表現力
15回	<b>【授業の振り返り】</b> 発表のビデオを見て、客観的に自分の発表を振り返る。 手遊びの復習。	振り返る力 表現力
試験	評価の要点に基づき実施する。	



該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2部1年	児童文化Ⅱ	掃守 純一郎	
サブタイトル	人形劇の理論と実際	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
保育の現場で用いられる児童文化財の中で「人形劇」に着目し、製作方法や劇的な表現の技術を体得する。劇遊びの総合的な学習として、基本的な舞台の名称や脚本作りを学ぶ。 ①幼児を取り巻く文化・文化財について学び、保育現場で幼児とともに楽しむことができる。 ②劇的な表現を体験することで、幼児が行う「劇遊び」を援助する力を身につける。 ③人形劇の人形や小道具などの製作方法や劇的な表現の演じ方を体得している。 ④製作を行う際に、自分の創意工夫を加え、幼児に適した教材作りを考察できる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
①幼児教育に関する専門知識・技能を身につけている。 ②保育に必要な表現力を身につけている。 ③保育に必要なコミュニケーション能力を身につけている。 ④幼児教育に対する情熱及び責任感を身につけている。			
授 業 の 方 法			
①幼児の劇的な表現活動の援助と指導方法を人形劇の製作・上演を通して学ぶ。 ②幼児に適した造形や色彩を考察し、人形劇に使用する人形制作を行う。 ③上演に必要な製作に協力して取り組み、グループで発表を行う。 ④劇的な表現に必要な台本製作、造形、音楽などと関連させながら劇遊びを総合的に学ぶ。 ⑤幼児を取り巻く文化の状況や文化財について学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『手づくり人形劇ハンドブック—子どもといっしょに楽しむ劇表現の世界』 幸田真希・掃守純一郎・金城久美子共著 萌文書林 2016年 『保育者のための言語表現の技術—子どもとひらく、児童文化財をもちいた保育実践』 古橋和夫編著 萌文書林 2016年  参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
製作した作品を使つての表現・発表が60%、作品や絵本のレポート、ノート作成などを40%の割合で評価し、さらに個人での積極性、創意工夫、チームの中での協調性を考慮して総合的に評価を行う。		レポート	10%
		実技試験	60%
		実技・作品など	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
積極性をもって授業に取り組む。たくさんの絵本を読む。 毎回配るプリントに絵本を2冊以上読んだ感想を書いて、次回必ず提出する。 返却されたらプリントはA4のノートに添付する。 欠席をしない。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	15回のガイダンス、受講上の注意事項、評価の方法を理解する。毎回、授業の初めに、手遊びと絵本の読み聞かせがある。 *絵本を毎週2冊以上読むレポート課題がある。 封筒を使った人形のデザインを考える。	想像力 集中力
2回	【講義】児童文化と児童文化財について。 【封筒人形の製作】身近な素材を使った人形の製作方法を学ぶ。封筒の形状を利用して丸みを表現する。折り紙・色画用紙を用いて人形に色を付ける。	表現力 創造性
3回	【絵本と紙芝居について】絵本の特徴、種類について学ぶ。紙芝居の成りたち、種類、絵本との違い、演じ方について学ぶ。	表現力 創造性
4回	【球体人形の製作】球体の発泡スチロールを使って、人形の頭の製作方法を学ぶ。幼児が見ても分かる動物の特徴を生かした造形を工夫する。カッターナイフの安全な使い方学ぶ。	表現力 色彩感覚
5回	【胴体の製作】ミシンの使い方を学ぶ。型紙を写して縫う。頭に耳をつける。特徴を捉えて表現する。 ノート提出あり。	表現力
6回	【頭の完成】頭にタオルを貼る。幼児の色彩に対する興味関心を考慮し、色の組み合わせを工夫する。首の管を作る。あらすじを考える。	構成力 協調性
7回	【人形の完成】頭、首管、胴体を縫い合わせ、人形を完成させる。自分の人形を主人公にした話を考える。	表現力 文章力
8回	【あらすじ完成】各自の書いたあらすじを読み合わせて、グループ内の話を決める。話をもとに、セリフ、ト書きを考え台本に仕上げる。	積極性 協調性
9回	【台本検討】台本を読み合わせて、動き、セリフを検討する。 【舞台・人形操作説明】基本的な舞台用語を学ぶ。人形の操作の基礎を学ぶ。ごっこ遊び、劇遊びとの関連を理解する。	表現力 応用力
10回	【台本完成】音楽などを記入した完成台本を読み合わせる。台本を提出する。 ノート提出あり。	課題探求力
11回	【小道具の製作】読み合わせ、立ち稽古を行いながら、必要な小道具を製作する。小道具、大道具について理解する。	表現力 協同力
12回	【練習1】小道具、音楽を加えて、幼児に分かる人形劇の表現を体験する。	表現力 主体性
13回	【練習2】リハーサルとして本番通りの流れを行う。足りない小道具、音楽などの検討を行う。	表現力 協調性
14回	【発表】自分たちの作品を子どもの前で表現することについて学ぶ。他のグループの発表を見ることで、より楽しく演じるために何が必要かという観点を養う。	表現力 応用力
15回	【授業の振り返りとまとめ】発表のビデオを見る。手遊びの復習。子どもの劇遊びとの関連を学ぶ。 ノート提出あり。	応用力 理解力
試験	評価の要点に基づき実施する。	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年	児童文化Ⅲ～1	三枝 千代子	
サブタイトル	創造性を育む折り紙あそびと活用法	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5以上
開講時期	前期		
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝承作品から、現代作品まで、折り紙あそびの魅力を体験して、その魅力を発見する。</li> <li>・子どもが理解しやすい指導方法を学び、保育現場で活かせる基礎力、応用力を育成し、学んだものに自ら創意工夫を加え展開できるようになる。</li> <li>・手の未発達な子どもも折れるように考案された技法を理解し、保育者としての心をだんだんと育むことができる。</li> </ul>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育に対する情熱をもって、子どものあそびや生活、発達について理解し、保育者に求められる表現、技能を履修して、一人ひとりの子どもに適切な援助をするための力を身につける。</li> <li>・本科目は、カリキュラムマップの「表現技能を身につける」に位置づけられる。</li> </ul>			
授 業 の 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホワイトボードに段階折りを示す見本を提示し、折り方を説明する。 又、机間巡視しを行い学生の質問に応え、作品に助言し個別に対応する。</li> <li>2. 毎回製作帳を持参して授業で学んだ事や、その応用作品等を貼って提出する。集中力や短時間での処理能力や創造力、想像力を高める。</li> <li>3. 製作帳を見せ合い、友人の良い所、アイディア、又、工夫したところ等話し合い、お互いに吸収し気付きあい、その後の学習に活用する。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『たのしくつくるおりがみあそび』 川並知子著 チャイルド社 2006年 『さくら紙あそび』 川並知子著 聖徳大学出版会 2012年 参考図書：『30分でできる折り紙ランド』 川並知子著 フレーベル館 2001年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で学んだことや、応用作品、自ら創意工夫を加えた作品を製作帳にまとめることができる。</li> <li>2. 作品の提出状況</li> <li>3. 授業を主体的、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>4. 前期を振り返り、レポートにする。</li> </ol>		総合提出（製作帳）	70%
		授業内提出	10%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に主体的に取り組む、復習として毎回作品を製作帳に整理しましょう。</li> <li>2. 提出物は、期限を守りましょう。</li> <li>3. 必要な教科書、教材、道具（ハサミ・ボンド）は必ず持参しましょう。</li> <li>4. 幼稚園での勤務経験を生かした授業を展開し、実践的な技能と表現力を養います。</li> </ol>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	・ガイダンス・・・本授業における学習の見通しを持ち、目的、内容、進め方、心構えを理解する ・折り紙の魅力を知り、興味、関心、意欲を高める	児童文化の理解 伝承の大切さの理解
2回	・三角形基本形で作る花、動物の顔とからだ 効率よく作る方法、折り図を読み取る力を身につける	幼児の折り紙指導 系列のまとめ方の理解 効率よく折る方法の理解
3回	・ちりとり形基本形、かぶと形基本形からの発展 ・わずかな工夫や切り方で違うかぶとが出来てくることを発見する ・基本的な折り方からバリエーションを考え、指人形やさかなを作る	表情や動きをつける方法 創造力
4回	・コップ形基本形、凧形基本形からの発展 ・子どもでも折れる技法を学ぶ ・帽子や水鳥のバリエーションを考える	新しい技法①の習得 つまみ折り、かぶせ折りの理解
5回	・菱形基本形・魚形基本形を通して折り紙を折る新しい技法を学ぶ ・魚形基本形からさまざまな「さかな」を考案し、又、恐竜の構成に発展させる	新しい技法②の習得 段折り、引き寄せ折りの理解 構成力
6回	・いんこ形基本形、とびら形基本形より、子どものあそびが広がる（豊かになる）作品作りを楽しむ 「こぶたぬきつねこ」「カッパのバクちゃん」	歌いながら遊ぶ作品、表現力 発達に合わせた指導法の理解
7回	・変身していく折り紙の意外性・瞬時に膨らむ作品のおもしろさを体験する	立体作品の応用の方法。 巧緻性
8回	・正方形基本形 折り鶴形基本形から発展・動物を作る 動物の動きや、表情を試しながら作り、テーマを考え合わせて構成する	想像力、構成力、創造力、
9回	・日本独自の(技)を学び、その魅力を知る。花形基本形、かえる形基本形の複雑な折り方を習得する。手、指の巧緻性やハサミの使い方で作るテクニックを養い、理想の形を表現する	巧緻性、創造力
10回	・伝承折り紙からの発展 さぶとん形基本形、三方形基本形など、子どもでも折れる技法を学ぶ 伝承折り紙から数々の動物に発展させる方法を学ぶ	伝承折り紙の作り方 創造力、構成力
11回	・今まで学んだ折り方を応用して、テーマを考えストーリー性をもって構成する 決められた時間内に仕上げ提出する	集中力、創意工夫、構成力
12回	・遊べるおもちゃ、キャラクターを折る 「ペーパーさん」のお話を、視覚教材を取り入れて演じる楽しさの技法を知る	想像力 表現力 演じ方の工夫
13回	・さくら紙あそび ①身近な素材であるさくら紙の特徴と扱い方を学び、幼児の発達にあった遊び方を学ぶ。(丸める、ねじる、ギャザーをよせる) 人形作りにもチャレンジする	紙の特質① 基礎的な技法の理解、 様々なテクニック
14回	・さくら紙あそび ②形に切ったり、キリコミを入れたりして、花やモールドを作り、室内装飾や保育での活用する方法を考える キリコミを入れてあそぶ	紙の特質② さくら紙の魅力の理解
15回	・保育者のための準備として教材(手作りおもちゃ、エプロンシアター)などを選択して楽しんで作成する(夏休み課題) ・前期の授業で学んだこと、感じたことをレポートにまとめて提出する	前期の振り返り 教材作りに取り組む事 への理解

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員					
1部1年	児童文化Ⅲ～2	三枝 千代子					
サブタイトル	折り紙の遊び方、現場での活用法を学ぶ	単 位 数	1				
授業形態	演習	出席要件	4/5以上				
開講時期	後期						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折り紙を「折る」だけにとどまらず、いろいろなアイディアの手法で遊ぶことを学び、さらに、はさみを正しく使い、素材の異なるものや、いろいろな紙等を創意工夫して変化できることを学ぶ。</li> <li>・ 幼児でも容易に作って遊べる紙あそびのさまざまな手法を学び、その活用法を習得する。</li> <li>・ 学んだものに自ら創意工夫を加え、保育現場でもすぐに展開できるような応用力を身につける。</li> <li>・ グループ活動を通して、環境作りや教材研究に取り組み、協力して作りあげる達成感や、創造性、子どもへのかかわりとしての遊びの工夫も考える。</li> </ul>							
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育に対する情熱、使命感、責任感</li> <li>・ 保育に関する専門的知識の習得</li> <li>・ 課題探究能力をもち、理論と実践を結びつけた主体的な学習</li> <li>・ 保育専門職にふさわしい実践的な技能と表現力</li> </ul>							
授 業 の 方 法							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループ活動を行う中で、授業を能動的にできるよう環境設定の大切さを導入していく。</li> <li>2. 製作帳に授業で学んだことやその応用作品等を貼り提出し、集中力、短時間での処理能力を高める。</li> <li>3. 製作帳を通して友人の良い所、工夫した所、疑問等を話し合い、吸収し学ぶ合う。</li> </ol>							
テキスト・教材・参考図書							
<p>テキスト：『子どもと保育者のためのおりがみアイディア』 川並知子・広瀬知里著 聖徳大学出版会 2012年</p> <p>参考図書：『いちばんよくわかるおりがみの本 園長先生が教える親子で楽しむおりがみあそび』 川並知子著 日本ヴォーグ社 2012年</p> <p>『おりがみでおはなしづくり』川並知子著 聖徳大学出版会 2018年</p>							
評 価 の 要 点		総合評価割合					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で学んだことや、自ら創意工夫を加えた作品を製作帳にまとめることができる。（構成能力・応用力・色彩感覚等評価）</li> <li>2. 作品の提出状況。</li> <li>3. 授業に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>4. 学習成果の振り返りをレポートにする。</li> </ol>		<table border="1"> <tr> <td>総合提出（製作帳）60%</td> </tr> <tr> <td>課題の提出 20%</td> </tr> <tr> <td>レポート 15%</td> </tr> <tr> <td>授業への貢献度 5%</td> </tr> </table>		総合提出（製作帳）60%	課題の提出 20%	レポート 15%	授業への貢献度 5%
総合提出（製作帳）60%							
課題の提出 20%							
レポート 15%							
授業への貢献度 5%							
履修上の注意事項や学習上の助言など							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ活動の中で、自分の役割を意識して主体的に活動しましょう。</li> <li>・ 復習時間をしっかりと計画の中に入れて、次への理解を増やすように活用していきましょう。</li> <li>・ 幼稚園での勤務経験を生かした授業を展開し、実践的な技能と表現力を養います。</li> </ul>							

科 目 名		児童文化Ⅲ～2	
授 業 回 数 別 教 育 内 容		身 につ く 資 質 ・ 能 力	
1回	・ ガイダンス…後期授業の目標と計画、授業の内容と進め方を聞く ・ 紙あそびの初歩的活動として望まれること 手・指の未発達な幼児が楽しく遊べる初歩的活動を学ぶ	後期授業の目的・意義・発達にあった体験の大切さの理解	
2回	・ ゆらゆらかざり、モールかざり、七夕飾りを作る 年齢の低い幼児でも作れる年中行事にかかわる装飾を作る 三角・四角つなぎ、輪つなぎ、すだれつなぎ、型ぬきつなぎ	季節感・行事の取り入れ方の理解 色彩感覚	
3回	・ 児童文化研究発表会に向けて楽しく活動する 導入① 意義、テーマについて話し合う グループ分けを考える	児童文化研究発表会、 ここにこまつり（三田幼稚園合同）の活動の理解	
4回	・ 児童文化研究発表会に向けて楽しく活動する 導入② 各グループで計画をまとめる 必要な教材研究をする作品作りの活動①	グループ活動① 教材研究・協調性・決断力・想像力	
5回	・ 児童文化研究発表会に向けて活動する 作品作りの活動②	グループ活動② 素材の活用・創造力・応用力・協働力	
6回	・ 児童文化研究発表会に向けて活動する 作品作りの活動③	グループ活動③ 鑑賞力、発表力	
7回	・ 折り紙を工夫して遊ぶ① ひだに折ってあそぶ。紙を山折り、谷折りと交互に繰り返してひだに折ることを基本として花や動物を作る	折り方を工夫する① ひだ折りの技法の理解	
8回	・ 折り紙を工夫して遊ぶ② ロール・クレープにしてあそぶ 紙を半分に切り、鉛筆に巻いて作るロール紙、それをしごいて作る。クレープ紙（曲げられる）これらの活用を工夫する	折り方を工夫する② ロール・クレープの技法の理解	
9回	・ 折り紙を等分に折る技法① 180°を三等分に折る技法を学ぶ 180°を六等分に折る技法（雪の結晶など）	文房具に頼らずに等分に折る技法の理解 巧緻性	
10回	・ 折り紙を等分に折る技法② 180°を五等分に折る技法を学ぶ。星の作り方（細い、太い、立体）、五枚の花びらの作り方、キリガミ	作品の活用・工夫の理解	
11回	・ 折り紙からの作図の方法① 文房具を使用せず、二等辺三角形、正三角形ができることを学ぶ 正三角形多数作る。六角返し（教材として活用する）	作図による教材の活用の理解 集中力・創造力	
12回	・ 折り紙からの作図の方法② ひし形ができることを学び、ひし形からユニットを作り、いろいろに組合せ六角造形を作る ひし形の作り方（パターン2・4）ひし形六角造形、星型造形	ユニット・色彩の組み合わせの工夫・造型力 巧緻性、美的感覚	
13回	・ 季節の飾りを作る これまで学んできた折り方を工夫して、クリスマス用のツリーや、リースを作ってみる	想像力・創造力・創作力	
14回	・ たたみ紙あそび 平安時代から江戸時代まで武家の生活の中で、貴重なお金やきな粉、おしろい等を入れるのに使われたといういろいろな「たたみ紙」を学ぶ 花型たたみ紙（伝承）・八角たたみ紙（伝承）、たたみ紙A	伝統文化の深さ、興味 現代の生活の中での活用の理解	
15回	・ 織紙あそび 織紙の作り方、作品を応用してあそびの工夫、教材作りをする ・ 総合提出をする。1学年学んだことをレポートにして提出する	1年間の振り返り 子どもたちへ伝承していく大切さの理解	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2部1年	児童文化Ⅲ	三枝 千代子	
サブタイトル	創造性を育む折り紙あそびと活用法	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝承作品から、現代作品まで、折り紙あそびの魅力を体験して、その魅力を発見する。</li> <li>・子どもが理解しやすい指導方法を学び、保育現場で活かせる基礎力、応用力を育成し、学んだものに自ら創意工夫を加え展開できるようになる。</li> <li>・手の未発達な子どもも折れるように考案された技法を理解し、保育者としての心をだんだんと育むことができる。</li> </ul>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育に対する情熱をもって、子どものあそびや生活、発達について理解し、保育者に求められる表現、技能を履修して、一人ひとりの子どもに適切な援助をするための力を身につける。</li> <li>・本科目は、カリキュラムマップの「表現技能を身につける」に位置づけられる。</li> </ul>			
授 業 の 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホワイトボードに段階折りを示す見本を提示し、折り方を説明する。 又、机間巡視しを行い学生の質問に応え、作品に助言し個別に対応する。</li> <li>2. 毎回製作帳を持参して授業で学んだ事や、その応用作品等を貼って提出する。集中力や短時間での処理能力や創造力、想像力を高める。</li> <li>3. 製作帳を見せ合い、友人の良い所、アイデア、又、工夫したところ等話し合い、お互いに吸収し気付きあい、その後の学習に活用する。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『たのしくつくるおりがみあそび』 川並知子著 チャイルド本社 2006年 『子どもと保育者のためのおりがみアイデア』 川並知子・広瀬知里著 聖徳大学出版会 2012年 参考図書：『さくら紙あそび』 川並知子著 聖徳大学出版会 2012年 『おりがみでお話づくり』 川並知子著 聖徳大学出版会 2018年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 授業で学んだことや、応用作品、自ら創意工夫を加えた作品を製作帳にまとめることができる。		総合提出（製作帳）	70%
2. 作品の提出状況		レポート	10%
3. 授業を主体的、意欲的に取り組むことができる。		授業内提出	10%
4. 学習成果の振り返りをレポートにする。		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に主体的に取り組む、復習として毎回作品を製作帳に整理しましょう。</li> <li>2. 提出物は、期限を守りましょう。</li> <li>3. 必要な教科書、教材、道具（ハサミ・ボンド）は必ず持参しましょう。</li> <li>4. 幼稚園での勤務経験を生かした授業を展開し、実践的な技能と表現力を養います。</li> </ol>			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		科 目 名	児童文化Ⅲ
		身につく資質・能力	
1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・本授業における学習の見通しを持ち、目的、内容、進め方、心構えを理解する</li> <li>・折り紙の魅力を知り、興味、関心、意欲を高める</li> </ul>	児童文化の理解	伝承の大切さの理解
2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作帳の使い方、提出の仕方について確認する</li> <li>・紙あそびの初歩的な活動</li> <li>・やぶく、ちぎる、まるめるねじる・・・等</li> </ul>	紙あそびの初歩的な活動	「手を使い手で考える」ことの理解
3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形基本形で作る花、動物の顔とからだ</li> <li>・効率よく作る方法、折り図を読み取る力を身につける</li> </ul>	幼児の折り紙指導	系列のまとめ方の理解 効率よく折る方法の理解
4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちりとり形基本形、かぶと形基本形からの発展</li> <li>・わずかな工夫や切り方で違うかぶとが出来ることを発見する</li> <li>・基本的な折り方からバリエーションを考え、指人形やさかなを作る</li> </ul>	表情や動きをつける方法	創造力
5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コップ形基本形、凧形基本形からの発展</li> <li>・子どもでも折れる技法を学ぶ</li> <li>・帽子や水鳥のバリエーションを考える</li> </ul>	新しい技法①の習得	つまみ折り、かぶせ折りの理解
6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菱形基本形・魚形基本形を通して折り紙を折る新しい技法を学ぶ</li> <li>・魚形基本形からさまざまな「さかな」を考案し、又、恐竜の構成に発展させる</li> </ul>	新しい技法②の習得	段折り、引き寄せ折りの理解 構成力
7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いんこ形基本形、とびら形基本形より、子どものあそびが広がる作品作りを楽しむ</li> <li>・変身していく折り紙の意外性・瞬時に膨らむ作品のおもしろさを体験する</li> </ul>	歌いながら遊ぶ作品、表現力	発達に合わせた指導法の理解 立体作品の応用の方法
8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形基本形、折り鶴形基本形、花形基本形から発展、動物の動きや、表情を試しながら作り、テーマを考え合わせて構成する</li> <li>・手、指の巧緻性やハサミの使い方で作るテクニックを養う</li> </ul>	想像力、構成力、創造力、	巧緻性
9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝承折り紙からの発展、日本独自の(技)を学び、その魅力を知る</li> <li>・さぶとん形基本形、三方形基本形等、子どもでも折れる技法を学ぶ</li> </ul>	伝承折り紙の作り方	創造力、構成力
10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を等分に折る方法</li> <li>・180°を三等分、六当分、五等分にする方法を習得する。</li> <li>・形のイメージを持ち、ハサミを器用に動かし作品を作ることを楽しむ</li> </ul>	折り紙を等分に折る方法、美的感覚、巧緻性、創造力	
11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙からの作図の方法、文房具に頼らずに正三角形(パターン1、4)、六角返しひし形が出来ることを学ぶ</li> </ul>	作図による教材の活用	理解
12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を工夫して使うことを知る①</li> <li>・ひだに折って遊ぶ</li> <li>・扇面つなぎから、花や動物面を作る</li> </ul>	ひだ折りの技法の理解	想像力、巧緻性
13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を工夫して使うことを知る②</li> <li>・ロールやクレープにして遊ぶ</li> <li>・小物入れ等に発展する</li> </ul>	ロール、クレープの技法の理解、創造力	
14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら紙あそび ①身近な素材であるさくら紙の特徴と扱い方を知り、幼児の発達にあった遊び方を学ぶ(キリコミを入れてあそぶ)</li> </ul>	紙の特質・さくら紙の魅力の理解	
15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペーパーさん」視覚教材を取り入れて演じる楽しさを知る</li> <li>・後期の授業で学んだこと、感じたことをレポートにして提出する</li> </ul>	授業での学びの振り返り	子どもたちへ伝承していく大切さの理解

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	幼児理解・保育相談	井上 由利子	
サブタイトル	幼児一人ひとりに応じた援助	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	前期		
到 達 目 標			
1 幼児理解の意味を理解し、幼児の発達を支える専門的な知識と教師としての基本的な態度を身に付ける			
2 個と集団との相互関係や個々の幼児の発達特性を踏まえた指導法を観察や記録などを通して学ぶ			
3 保護者との連携の在り方を学び、対応方法への理解を深めて実践力を高める。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1 幼児教育に対する情熱や使命感を身につける。			
2 保育に関する専門知識を習得する。			
3 課題探究力をもち、理論と実践を関係付けた主体的な学習ができる。			
4 幼児教育者・保育者として、専門職にふさわしい実践的な技能及び表現力を身につける。			
授 業 の 方 法			
1 幼児理解に基づき、一人ひとりの発達の特性に応じて適切な援助・指導ができるように基礎知識を講義・演習する。			
2 具体的な事例を通して幼児の発達や実態を理解し、保育者としての必要な関わりについて学ぶ。			
3 様々な家庭背景にも目を向けながら保護者の心情理解を図り適切な対応ができる方法を、ロールプレイやカウンセリングマインドを通して学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『幼児理解に基づいた評価』平成31年3月 文部科学省 ぎょうせい			
参 考 書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
・ 定期試験、提出物等で総合的に評価する。		定期試験	40%
		提出物	60%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
・ A4判ノート又はファイルにより配付された資料をまとめること。			
・ 幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした授業を展開し、保育方法を学びます。			

科 目 名 幼児理解・保育相談

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 幼児理解の意義	授業科目の理解 保育の基本的理解
2回	幼児理解の基本	幼児理解の基礎
3回	幼児理解の基本に基づく保育者としての姿勢	発達特性の理解 受容力
4回	幼児理解の具体的方法①（3歳児の発達特性）	受容力 観察力 洞察力
5回	幼児理解の具体的方法②（4歳児の発達特性）	受容力 観察力 洞察力
6回	幼児理解の具体的方法③（5歳児の発達特性）	受容力 観察力 洞察力
7回	個と集団との関わり	発達理解 観察力
8回	適切な幼児理解と評価	発見力 省察力
9回	幼児理解と評価の具体的な方法	観察力 構築力
10回	観察記録の具体的な方法	収集力 観察力 構築力
11回	幼稚園幼児指導要録	説明する力 操作力
12回	小学校教育との接続	発達理解
13回	幼稚園と小学校との連携の実際	相互理解 学習観
14回	保護者支援の具体的な方法	対応力 協働的問題解決力
15回	幼児理解と保育相談のまとめ	使命感 責任感 他者理解
試験	定期試験	

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	保育相談支援	緒方 玲子	
サタイトル	教育相談と子育て支援カウンセリング	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4/5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>本科目の目的は保育相談支援の基本と実際を学び、理論に基づいた保護者支援のあり方について探求する力を養うことである。</p> <p>1. 教育相談（カウンセリング）の意義と理論を理解する。  2. 教育相談（カウンセリング）を進める際に必要な基礎知識を理解する。  3. 教育相談の計画・具体的な進め方や、組織的な取り組み・連携の必要性を理解する。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、特に「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」ことを目指す科目である。カリキュラムマップにおいて「心の理解」に位置づけられており、15回の授業により、子育て支援について理解し、保育、教育現場における実践力を身に付けることが求められている。</p>			
授 業 の 方 法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義においては聴講・ノートテキングを通して授業内容を把握する。</li> <li>・アクティブラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイなど）を通して、理解を深める。</li> <li>・確認小テストにより、授業内容を振り返り、確認する。</li> <li>・レポートの提出により、内容理解を深める。</li> <li>・視聴覚教材を通して多面的に内容を理解する。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト	「子育て支援カウンセリング」石川洋子著 図書文化 「保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング」上林靖子監修 河内美恵他編著 中央法規		
参考図書	「保育相談支援」(DVD) 橋本創一 細川かおり 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 2018年 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 2018年 「幼保連携認定子ども園 教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年		
評 価 の 要 点		総合評価割合	
定期試験、レポート、授業態度、グループ・ディスカッション、発表、および小テストや振り返りの内容を総合的に評価する。		定期試験	70%
		小テスト・レポート	20%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コクヨノート(コクヨ、キャンパスノート B5プリントが切らずに貼れるサイズ)を使用する。</li> <li>・授業を欠席した場合は、板書の写しを行うこと（コピーも可）。</li> <li>・欠席者への配布物は、出席簿に保管されるので、即日確認し、ノートに添付すること。</li> <li>・臨床心理士としての実務経験を活かし、子どもの心身の発達や心理的特質等について、わかりやすく解説します。</li> </ul>			

科 目 名 保育相談支援（1部2年）		授 業 回 数 別 教 育 内 容	身につく資質・能力
1回	保育相談支援の目的と意義について	保育相談支援の意義理解	
2回	子育てが難しい時代・保育者の役割について	子育ての難しい時代背景 保育者の役割 理解	
3回	相談支援の基本理解（1）外側からの支援と内側への支援	保育相談支援の基本理解	
4回	相談支援の基本理解（2）言語的技法	保育相談支援の方法 ヘルピングの技法理解	
5回	相談支援の基本理解（3）来談者中心療法	来談者中心療法、受容・傾聴・共感的理解	
6回	相談支援の基本理解（4）ロールプレイによる受容・共感的理解	信頼関係の構築、受容、共感、ロールプレイ技法	
7回	非構成的グループエンカウンター ふれあいと自己開示	エンカウンター、ふれあい、自己理解	
8回	保育者としての自己理解	保育者としての自己、エゴグラムの理解	
9回	保護者支援 子どもの様子と行動療法 Tトレ(4)	保護者の養育力の向上 行動療法の技法	
10回	保護者支援 論理療法	心の健康、論理療法の理解	
11回	子育て支援グループの計画、進め方	子育て支援グループ、親子関係、親同士の交流 理解	
12回	子育て支援グループ 発達支援・親子の交流・親同士の交流	子育て支援グループの進行、発達支援 理解	
13回	虐待への対応、ケース会議・専門機関との連携について	虐待の対応、ケースレポート、専門機関との連携理解	
14回	日常の保護者対応・保護者支援	保護者対応の実際理解	
15回	保育相談支援 まとめ	知識の確認	
試験	定期試験		

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	特別支援の基礎	太田 裕子	
サブタイトル	特別なニーズのある子どもの理解と支援	単 位 数	1
授業形態	演習	出席要件	4 / 5以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
(1) 特別支援に関する制度や仕組みの概略を説明することができる。 (2) 特別の支援を必要とする幼児の心理的特性、学習上や生活上の困難、必要とされる配慮や支援の方法についての原則的なことがらを説明することができる。 (3) 主に通常の学級に在籍する特別の支援（母国語の問題等、障害以外のニーズを含む）を必要とする幼児について、関係者間の連携を含めた支援体制の仕組みの概略を説明することができる。 (4) 情報をもとに、特別支援対象児を含むクラス全体への指導略案を具体的に考案することができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
(1) ディプロマポリシーとの関連：専門士授与の方針2のうち、専門職に関する知識・技能（ここでは障害児支援と、一般の幼児・児童に対する障害理解教育の方法）の力を身につけている人を育てる。 (2) カリキュラムマップとの関連：教員免許状取得の必修科目（教育の基礎的理解に関する科目）である。マップでは2年次に位置づけられる。			
授 業 の 方 法			
1回の授業の中で、講義の他、映像視聴、体験学習、事例検討等実践に役立つ演習を織り交ぜる。 ①教科書を中心に特別なニーズのある子どもに関する定義、概念といった基礎的な知識を学ぶ。 ②映像による観察学習等を通して、特別なニーズのある子どもの特性や支援法を捉える。 ③点字触読や手話の体験、障害を題材とする絵本等を通して、一般の幼児・児童に対する「障害理解教育」の方法もグループで考える。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト 改訂2版一人ひとりのニーズに応える保育と教育(聖徳大学特別支援教育研究室著、聖徳大学出版会 2019) 参考図書『幼保連携型こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
授業中に書くリフレクションペーパーも評価の対象とする。 定期試験は、穴埋め式の問題と記述式の問題が出題される（持ち込み不可）。リフレクションペーパーについては、適宜フィードバックし、学生の理解が不足している部分はさらに教員から説明を加える。		定期試験	80%
		リフレクションペーパー	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1回1回の授業を真剣に聞き、授業中に内容を理解し、その場である程度覚えてしまうような気持ちで授業に出席してください。教科書を十分活用しましょう。また、映像の学習などは、実際の子どもの目の前にする代わりに貴重な体験です。必ず映像から何かを読み取ろうという姿勢で取り組んで下さい。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身 につ く 資 質 ・ 能 力
1回	<ガイダンス> 授業の目的や内容を理解する。 導入ビデオ（障害者と健常者が共に活動）を見る。	授業の見通しをもつ。「共生社会」の視点をもつ。
2回	<我が国における特別支援教育の歩み> 特別支援教育に関する制度と実際に各学校種（幼稚園・認定こども園・小学校通常の学級・通級等・特別支援学校）を比較し学ぶ。	「特別支援」はどこにおいても実施されていると知っていることを知る。
3回	<視覚障害児・聴覚障害児の理解> 視覚障害・聴覚障害に関する基礎知識を得る。点字触読による体験学習。聴覚口話法訓練を受ける幼児の映像視聴。	視覚障害児や聴覚障害児への支援法の基礎的な事項が説明できる。
4回	<重複障害児の理解> ヘレンケラーに関する動画を視聴し、視覚と聴覚に障害のある子どもの理解と重複障害児の指導で大切なことについて考察する。	障害児の支援者のあり方について考えることができる。
5回	<肢体不自由児・病弱児の理解> 肢体不自由児・病弱児に関する基礎知識を得る。車いす利用者の映像視聴等を通して、配慮事項を考える。	肢体不自由児・病弱児への支援法の基礎的な事項が説明できる。
6回	<知的障害児の理解> 知的障害児の特性に関する基礎知識を得る。知能検査の一部の映像を視聴し、何を測っているかを考える。	知的障害の特性の基礎知識を得る。観察の記録を書くことができる。
7回	<知的障害児の支援法> 知的障害児の支援法の基本を特別支援学校や個別療育場面での映像から読み取る。	知的障害児に対する代表的な指導技法が説明できる。
8回	<発達障害児の理解と支援法の基礎1：ASD（自閉スペクトラム症）> ASD児の特性と本人・保護者の支援法の基本を、事例を通して考える。	ASD児の特性に配慮した代表的な支援法が説明できる。
9回	<発達障害児の理解と支援法の基礎2：LD（学習障害）> LD児の特性と支援法の基本を、事例を通して考える。（ICTを利用した教材の効果も含む）	就学後学習につまずくであろう子どもを就学前に見つける方法がわかる。
10回	<発達障害児の理解と支援法の基礎3：ADHD> ADHD児の特性と本人・保護者の支援法の基本を、事例を通して考える。	ADHD児の特性に配慮した代表的な支援法が説明できる。
11回	<障害以外の様々なニーズのある子どもの理解と支援法の基礎> 日本語を母語としない子どもへの支援など、障害以外の様々なニーズのある子どもの事例を通して支援法を考える。	どのような事例に対してもニーズを把握し支援を考えることができる。
12回	<関係者間の連携と支援体制作りのあり方> 立場の異なるスタッフが集まって特別なニーズのある子どもへの支援を話し合うカンファレンスを擬似体験して支援連携を考える。	自分が将来どの立場で支援できるかを考えることができる。
13回	<特別な支援を必要とする幼児への個別の支援計画（生活面）> 実習等よく出会う発達障害や「気になる子」のトラブル事例を用いて、トラブルの原因と対応法（基礎的環境整備も含む）を考える。	ニーズ児を含むクラス全体への支援を具体的に考えることができる。
14回	<特別な支援を必要とする幼児への個別の支援計画（学習や個別の課題への取組）実習等よく出会う発達障害や「気になる子」の事例から発達支援の方法を考える。（合理的配慮も含む）。	発達障害児等に対する望ましい支援や対応法を考えることができる。
15回	<まとめ> 授業を振り返り、学習のまとめの定期試験を行う。	これまでに学んだうち重要な点がわかる。
試験	定期試験（授業内試験）	

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部2年 2部3年	保育・教職実践演習	中山 博子	
サブタイトル	自己課題の明確化と資質能力の向上	単位数	2
授業形態	演習	出席要件	4/5 以上
開講時期	後期		
到達目標			
<p>本授業は、<b>卒業学年後期に実施</b>することが定められている科目である。入学後からの学びの軌跡を整理しながら自己課題を明確にする。さらに、保育現場を想定した実践的学修を基に保育者に求められる資質・能力を高めることを目標とする。</p> <p>主に、1. 使命感や責任感や教育的愛情に関する力量、2. 保育内容の具体的指導に関する力量、3. 幼児理解や学級経営に関する力量、4. 社会性や対人関係能力に関する力量を身につけることを到達目標とする。さらに現場と直結する指導内容を意図的に取り入れる。</p> <p style="text-align: center;">ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連</p> <p>2年・3年間の学びの集大成であるこの授業を通して、主体的に学び続ける保育者の基盤をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に対する情熱・使命感・責任感を身につける。</li> <li>2. 保育に関する専門的知識・技能及び表現力を身につける。</li> <li>3. 課題探求能力をもち、理論と実践を結びつけた主体性を身につける。</li> <li>4. 社会性をもち、対人関係を構築し、協働学習を通して豊かな人間性を身につける。</li> </ol>			
授業の方法			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回到現場で求められる保育者の資質・能力を4つの視点から履修カルテとして示す。</li> <li>2. 資質・能力を高めるために、今までの学びを確認し、履修カルテに基づき、自己課題の明確にするともに「保育現場」をより身近に感じながら「保育の専門性」を磨く。</li> <li>3. 授業ごとに、力量形成と結びつけた振り返りを行うとともに、毎回授業の「確認と補足」を重視する。</li> <li>4. 保育現場を想定した実践力を高めるための演習において【<b>自分の考えを表現する</b>】ことを重視する。また、週日案や学級だよりの作成、事例問題等においては予習を重視する。</li> </ol>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『保育・教職実践演習』小田豊・神長美津子編著 光生館 2021年          参考図書：『新しい保育・幼児教育法』広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2017年          『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年          『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 平成30年          その他：DVD他映像や事例を用いる。</p>			
評価の要点		総合評価割合	
1. 履修カルテと課題レポートを通して問題解決能力が十分形成されつつあるかを評価する。なお、履修カルテは初回・14回目に作成する。		履修カルテ	20%
2. 授業シートでの振り返りや、週日案作成、ビデオワークシートや、学級だよりの作成等をミニレポートとして評価する。〔詳細は授業にて〕		課題レポート(最終回)	30%
		小テスト	20%
		ミニレポート	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通常の授業・評価形態が異なるために、初回到授業は対面で実施し、授業の進め方や自己評価を行う。必ず出席し内容を理解する。(授業計画シラバスを持参すること)</li> <li>2. テキストは予習復習に活用すること。また、必要に応じて組み替えて使用し、別資料も配付する。</li> <li>3. 文部科学省の指導書『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』他の作成協力者である。また、全国国公立幼稚園園長会 副会長として、多くの指導資料を全国に発信してきた。長年にわたる勤務経験（園長等含）を活かし、子どもとの関わり方など、保育現場を想定した授業を展開する。</li> </ol>			

科目名 保育・教職実践演習		身につく資質・能力
授業回数別教育内容		
1回	授業の到達目標や授業形態等の在り方を理解する ・履修カルテの作成と活用を理解する	保育者の専門性の理解
2回	保育者(保育職・教育職としての使命・責任感を理解する ・非認知的能力や主体的な学び・対話的深い学びの理解する	使命感・責任感の理解 主体的・対話的で深い学びの理解
3回	保育内容の具体的指導に関する力量について理解する① ・週日案の役割・書き方の基本を理解する	保育者の専門性の理解 指導計画・週日案の理解
4回	保育内容の具体的指導に関する力量について理解する② ・自己課題〔週日案〕を作成する・資料参照 ・ねらいと内容と援助の基本を理解する	指導案の立案力 10の項目の理解
5回	保育内容の具体的指導に関する力量について理解する③ ・自己課題〔週日案〕を作成する・資料参照 ・保育者の援助と環境構成について理解する	指導案の立案力 環境構成と援助の役割
6回	保育内容の具体的指導に関する力量について理解する④ ・安全な園生活を創る	環境の工夫と安全性の理解
7回	一人ひとりの子どもに寄り添う保育の構築を目指す① ・子どもの育ちと保育者の関わりを学ぶ (DVD)	子どもの発達理解 指導の視点の理解
8回	一人ひとりの子どもに寄り添う保育の構築を目指す② ・子どもの育ちをとらえる視点をもつ(DVD)	分析力 指導の視点の理解
9回	保育現場からの学び ・職場を知り、担任の仕事を知る ・保育の楽しさとともに人権教育の視点を知る	現場の保育実践の理解 人権教育の理解
10回	保育者の専門性の向上① ・行事の役割や教材研究力を高める	行事の役割と教材研究
11回	保育者の専門性の向上② ・クラス経営について学ぶ ・学級だよりの作成と作成の視点を理解する	クラス経営の基本的理解
12回	保育者の専門性の向上③ ・クラス便りの報告 ・担任としての保育・教育相談等を理解する	保護者や地域との連携の理解
13回	保育実践力を高める① ・「ともに暮らしづくりをする」保育実践から学ぶ	保育者の責務
14回	保育実践力を高める② ・「ともに暮らしづくりをする」保育実践から学ぶ ・履修カルテの整理をする	保育者の専門性の理解 自己分析力
15回	まとめと課題レポート作成をする	主体的学びの確立 保育観の確立



該当学年	授業科目名	担当教員	
1部全学年 2部全学年	専門教育演習	担当教員	
サブタイトル	探究心と協調性を高める研究活動	単位数	2
授業形態	演習	出席要件	
開講時期	(1部) 2年間 (2部) 3年間		
到達目標			
<p>専門教育演習（グループ研究）には、2つの目的がある。</p> <p>①今日の保育現場が抱えている諸問題や課題について、または幼児教育の領域に関することについて研究テーマに選ぶ。そして、指導教員の適切な指導を受け、納得のいくまで探求することである。</p> <p>②人間形成の基礎となるグループ活動を通じて、人と人との調和をはかりながら、本校が求める教育理念である「和の精神」に合致した人間性を形成していくことである。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>幼児教育や保育の諸問題をテーマとして真摯に研究する過程で「①幼児教育に対する情熱及び責任感を身につけ」、グループ活動を通し「③豊かな人間性を身につけ」る。その成果を発表し、論文にまとめることは「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけ」ることにつながる。</p>			
授業の方法			
<p>①1部1年生と2部1・2年生は「グループ研究発表会」に参加し、レポートを提出する。</p> <p>②専門教育分野の中から一つのテーマを選定し、グループ単位で研究活動を行う。</p> <p>③授業で学んだ理論や実践をもとに、担当教員の指導を受け、研究を進める。</p> <p>④その成果を発表し、論文にまとめる。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
特に指定しない。			
評価の要点		総合評価割合	
①「グループ研究発表会」への参加とレポート提出。 (1部1年生と2部1・2年生)		論文の内容	60%
②研究活動への参加態度および貢献度、グループ研究発表会の内容、論文の内容と提出状況を、指導教員が総合的に判断する。		論文発表	30%
		研究活動への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
各グループの班長・副班長へのガイダンスを適宜実施する。			

授業の内容
<p>〈1部1年生、2部1・2年生〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回オリエンテーション（12月の発表会前）             <ol style="list-style-type: none"> <li>グループ研究の意義・聴講態度等のガイダンス</li> <li>聴講希望調査</li> </ol> </li> <li>発表会の司会進行についてのオリエンテーション（2部2年生）</li> <li>グループ研究発表会の出席とレポート提出</li> <li>第2回オリエンテーション（2部1年生を除く）             <ol style="list-style-type: none"> <li>グループ研究領域説明</li> <li>研究テーマ希望調査票の提出</li> </ol> </li> </ol> <p>〈1部2年生、2部3年生〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第3回オリエンテーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>年間スケジュール指導</li> <li>グループおよび指導教員発表</li> <li>班長・副班長決定</li> <li>指導教員への挨拶と初回打ち合わせ</li> <li>グループ研究員名簿の提出</li> <li>研究調査方法とその手続きについて</li> </ol> </li> <li>第4回オリエンテーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>論文執筆要項の配付と説明</li> <li>論文の提出と装丁について</li> </ol> </li> <li>班長・副班長ガイダンス（全4回）             <ol style="list-style-type: none"> <li>研究構想報告書、題目決定報告書および、活動申請の提出について</li> <li>研究経過の途中報告</li> <li>研究結果のまとめ、レジュメ原稿提出</li> <li>リハーサルについて</li> </ol> </li> <li>発表会準備・リハーサル</li> <li>グループ研究発表会における発表</li> <li>論文提出</li> </ol>

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年	幼児教育実習（教育実習Ⅰ）	担当教員	
サブタイトル	実践を通じた幼稚園教育の基礎理解	単 位 数	5※
授業形態	演習	※幼児教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前事後指導 合計で5単位	
開講時期	通年	出席要件	
到 達 目 標			
1. 事前・事後指導において教育実習生としての参画意識の中で、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に参加できるようにする。また、実習を通して得た知識や経験を振り返り、さらに習得すべく知識や技能を理解する。 2. 実習園において補助的な役割を担うことを通して幼児理解を図りながら視点をもって観察や記録をしたり実践的な保育に参加したりして、幼児教育への理解を図ることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 幼児教育実習を通して、幼児教育者としての情熱や責任感を身につける。 2. 幼児教育実習を通して、専門職に関する知識・技能を習得する。 3. 幼児教育実習を通して、幼児教育者として豊かな人間性を身につける。			
授 業 の 方 法			
1. 幼稚園教育を理解するために、見学・観察実習を行う。 2. 幼稚園の一日の流れを把握し、幼稚園教師の役割・援助の在り方を具体的に学ぶために、グループワーク・ロールプレイを行う。 3. 部分実習指導案・実習録の記述の仕方を理解するために、見学実習内容の記録を行う。 4. 模擬保育を実践し、幼児理解と指導法を体験する。 5. 遠隔授業予定回：第1・2・3・4・5・12・13回			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『実習の手引』（幼児教育実習Ⅰ） 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2017年 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 平成30年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 事前・事後オリエンテーションすべてに出席すること。 2. 実習に際しては、決められた事項を遵守すること。 3. 提出物に関して期日を厳守すること。 4. 評価については、幼児教育実習Ⅰ・Ⅱの総合評価とする。		課題レポート 30% 実習録 30% 実習ノート 30% 授業への貢献度 10%	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. オリエンテーションの欠席・遅刻、提出課題の未提出者は、実習配属を見送る場合がある。 2. 保育を学ぶ実習生としての自覚を持ち授業、実習に臨むこと。 3. 実習オリエンテーションの服装指定時は、フォーマルスーツで参加すること。 4. 幼児教育実習Ⅰを終了後、幼児教育実習Ⅱへすすむ。 5. 幼稚園教諭として長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした指導により学びを深める。 井上 Inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp			

		科 目 名 幼児教育実習（実習Ⅰ）（1部1年）	
		授 業 回 数 別 教 育 内 容	身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・幼児教育実習とは、実習の意義や目的を理解する。	【遠隔】	理解力
2回	幼児の発達と幼稚園の生活について ・幼児の発達過程を知り、保育の流れを理解する。 ・実習前見学の事務手続きをする。	【遠隔】	理解力
3回	観察実習について ・見学の目的・方法・諸注意等、園児との関わり方、教諭の仕事について理解する。 ・観察記録の取り方について理解する。	【遠隔】	実習への意欲 自己課題の明確化
4回	見学実習のまとめと絵本シート作成 ・保育を見学し、幼児の実態・教師の役割等を理解する。 ・絵本シート作成方法を知る。	【遠隔】	理解力 観察力 表現力
5回	部分実習指導 ・部分実習とは何かを理解し、指導案作成方法を知り作成する。	【遠隔】	理解力 構想力
6回	保育実践<模擬保育>① ・作成した指導案に基づき、模擬保育をする。		理解力 表現力 実践力
7回	保育実践の評価・反省① ・模擬保育の指導法を評価・反省し、次回の模擬保育に反映する方法を理解する。 ・保育でのピアノ活用方法を理解する。		理解力 省察力
8回	保育実践<模擬保育>② ・作成した指導案に基づき、模擬保育を実践する。		理解力 表現力 実践力
9回	保育実践の評価・反省② ・模擬保育の指導法を評価・反省し、次回の模擬保育に反映する方法を理解する。		理解力 省察力
10回	園長講話 ・附属幼稚園の沿革、幼稚園教諭とは、幼稚園教諭に必要な資質、附属幼稚園の幼児の姿を理解する。		理解力 使命感 期待感
11回	幼稚園オリエンテーション ・配属クラス、附属幼稚園の一日について、実習に向けての心構え、実習に準備について理解する。		理解力 考察力 使命感
12回	直前オリエンテーション① ・実習録の書き方、実習に向けての心構えを確立する。	【遠隔】	理解力 記述力
13回	直前オリエンテーション② ・実習録の書き方、実習に向けての自己課題を明確にする。	【遠隔】	理解力 記述力 自己分析力
14回	実習後指導① 幼児の発達、幼稚園教諭の役割、保育の方法と援助技術についてまとめる		考察力 表現力 自己分析力
15回	実習後指導② 成績発表		理解力 自己分析力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2部1年	幼児教育実習（教育実習Ⅰ）	担当教員	
サブタイトル	実践を通じた幼稚園教育の基礎理解	単 位 数	5※
授業形態	演習	※幼児教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前事後指導 合計で5単位	
開講時期	通年	出席要件	
到 達 目 標			
1. 事前・事後指導において教育実習生としての参画意識の中で、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に参加できるようにする。また、実習を通して得た知識や経験を振り返り、さらに習得すべく知識や技能を理解する。 2. 実習園において補助的な役割を担うことを通して幼児理解を図りながら視点をもって観察や記録をしたり実践的な保育に参加したりして、幼児教育への理解を図ることができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 幼児教育実習を通して、幼児教育者としての情熱や責任感を身につける。 2. 幼児教育実習を通して、専門職に関する知識・技能を習得する。 3. 幼児教育実習を通して、幼児教育者として豊かな人間性を身につける。			
授 業 の 方 法			
1. 幼稚園教育を理解するために、見学・観察実習を行う。 2. 幼稚園の一日の流れを把握し、幼稚園教師の役割・援助の在り方を具体的に学ぶために、グループワーク・ロールプレイを行う。 3. 部分実習指導案・実習録の記述の仕方を理解するために、見学実習内容の記録を行う。 4. 模擬保育を実践し、幼児理解と指導法を体験する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『実習の手引』（幼児教育実習Ⅰ） 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2017年 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 平成30年			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
1. 事前・事後オリエンテーションすべてに出席すること。 2. 実習に際しては、決められた事項を遵守すること。 3. 提出物に関して期日を厳守すること。 4. 評価については、幼児教育実習Ⅰ・Ⅱの総合評価とする。		課題レポート	30%
		実習録	30%
		実習ノート	30%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. オリエンテーションの欠席・遅刻、提出課題の未提出者は、実習配属を見送る場合がある。 2. 保育を学ぶ実習生としての自覚を持ち授業、実習に臨むこと。 3. 実習オリエンテーションの服装指定時は、フォーマルスーツで参加すること。 4. 幼児教育実習Ⅰを終了後、幼児教育実習Ⅱへすすむ。 5. 幼稚園教諭として長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした指導により学びを深める。			
井上 Inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 幼児教育実習とは、実習の意義や目的を理解する	理解力
2回	幼児の発達と幼稚園の生活について ・幼児の発達過程を知り、保育の流れを理解する。 ・実習前見学の事務手続きをする。	理解力
3回	観察実習について ・見学の目的・方法・諸注意等、園児との関わり方、教諭の仕事について理解する。 ・観察記録の取り方について理解する。	実習への意欲 自己課題の明確化
4回	見学実習のまとめと絵本シート作成 ・保育を見学し、幼児の実態・教師の役割等を理解する。 ・絵本シート作成方法を知る。	理解力 観察力 表現力
5回	部分実習指導 ・部分実習とは何かを理解し、指導案作成方法を知り作成する。	理解力 構想力
6回	保育実践<模擬保育>① ・作成した指導案に基づき、模擬保育をする。	理解力 表現力 実践力
7回	保育実践の評価・反省① ・模擬保育の指導法を評価・反省し、次回の模擬保育に反映する方法を理解する。 ・保育でのピアノ活用方法を理解する。	理解力 省察力
8回	保育実践<模擬保育>② ・作成した指導案に基づき、模擬保育を実践する。	理解力 表現力 実践力
9回	保育実践の評価・反省② ・模擬保育の指導法を評価・反省し、次回の模擬保育に反映する方法を理解する。	観察力 記述力 表現力
10回	園長講話 ・附属幼稚園の沿革、幼稚園教諭とは、幼稚園教諭に必要な資質、附属幼稚園の幼児の姿を理解する	理解力 使命感 期待感
11回	幼稚園オリエンテーション ・配属クラス、附属幼稚園の一日について、実習に向けての心構え、実習に準備について理解する。	理解力 考察力 使命感
12回	直前オリエンテーション① ・実習録の書き方、実習に向けての心構えを確立する。	理解力 記述力
13回	直前オリエンテーション② ・実習録の書き方、実習に向けての自己課題を明確にする。	理解力 記述力 自己分析力
14回	実習後指導① 幼児の発達、幼稚園教諭の役割、保育の方法と援助技術についてまとめる	考察力 表現力 自己分析力
15回	実習後指導② 成績発表	理解力 自己分析力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部2年	幼児教育実習（教育実習Ⅱ）	担当教員	
サブタイトル	幼稚園教育を理解し実践力を高める	単 位 数	5※
授業形態	演習	※幼児教育実習Ⅰ・Ⅱ、 事前事後指導 合計で5単位	
開講時期	6月下旬～11月上旬（実習時期10月）	出席要件	
到 達 目 標			
外部の幼稚園実習に向けて自己課題を明確にし、主体的に実習に取り組む態度を養う。			
1. 幼稚園教育実習の意義を理解し、実践的な学びを深める。			
2. 幼稚園教師の役割、実習に必要な資質能力を理解し、自己課題と向き合い、やり遂げる。			
3. 3・4・5歳児の発達を理解し、ねらいと内容に応じた援助等を踏まえた指導力・実践力を身につける。			
4. 指導案の立案や実習録の記述の仕方を理解する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 幼児教育者としての情熱や責任感を身につけると同時に、保育者への夢の実現に向けて意識の高揚を図る。			
2. 専門職に関する知識・技能を習得し、臨機応変に対応する力を身につける。			
3. 様々な幼稚園教師とのかかわりを通して豊かな人間性を育む。			
授 業 の 方 法			
1. 幼稚園教育を理解するために、各授業での学びを実習に関連付け具体的に実習をイメージする。			
2. 幼稚園一日の流れを把握し、幼稚園教師の役割・援助のあり方を具体的に学ぶための模擬保育を行う。			
3. 指導案、実習録の記述の仕方を理解し、繰り返し指導案等を書く。			
4. 実習での部分実習・責任実習を想定し、3・4・5歳児の発達に応じた活動等教材研究を主体的に取り組む。			
5. 『幼稚園教育要領解説』を熟読し、復習して実習に臨む。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『実習の手引』（幼児教育実習Ⅱ）			
参考図書：『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2017年 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 平成30年			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
1. 事前・事後のオリエンテーションすべてに出席する。		課題レポート	30%
2. 幼実Ⅱの評価は、事前・事後のオリエンテーションでの貢献度や提出物の期限厳守と、実習園からの評価を基に総合的に行う。		実習録	30%
		実習ファイル	30%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. 10月上旬～下旬、2週間の外部幼稚園の実習に向けての心構え(体調管理含む)と十分な準備をする			
2. オリエンテーションの欠席・遅刻、提出課題の未提出者は、実習配属を見送る場合がある。			
3. 実習オリエンテーションの指導時の服装は、フォーマルスーツで参加すること。			
4. 幼稚園教諭としての長年にわたる勤務経験、園長・教頭経験を活かした指導により学びを深める。			
井上 inoue.yuriko@wa.seitoku.ac.jp			

科 目 名 幼児教育実習（実習Ⅱ）

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ・幼稚園教育実習Ⅱに向けての授業計画を理解する。 実習意義、授業に臨む姿勢、自己課題抽出	理解力 分析力 計画力
2回	教材研究の重要性 ・発達を考慮し、ねらいに即した教材の活用について理解する。 ・ピアノ及び歌の指導の実際理解する。	理解力 表現力
3回	指導案作成 ・指導計画とねらいに即した指導案作成の手順を理解する	理解力 構築力 表現力
4回	年齢や発達に応じた指導教材の選択（夏季休業中の課題） ・3・4・5歳児の発達や技能を理解し、実習ファイルを作成する	理解力 選択力 計画力
5回	実習園オリエンテーション指導 ・実習園訪問に際しての確認事項と準備内容について理解する。	理解力 計画力
6回	実習録の適切な記載方法① ・各項目別に具体的な記載内容について理解する。	理解力 記述力
7回	指導法の実践<模擬保育>① ・指導案に基づき保育を実践する。	実践力 表現力
8回	模擬保育の評価・反省 ・実践した保育指導の課題を次の指導案作成と指導に活かす方法を理解する。	洞察力 記述力
9回	指導法の実践<模擬保育>② ・指導案に基づき保育を実践する	実践力 表現力
10回	模擬保育の評価・反省 ・実践した保育指導の課題を次の指導案作成と指導に活かす方法を理解する。	洞察力 記述力
11回	実習録の適切な記載方法② ・指導場面における具体的な表記について理解する	理解力 記述力
12回	実習前準備事項の確認 ・必要書類や物品の準備状況を確認する	自己課題への自覚 志気の高揚
13回	実習前指導① ・個人面談による教材等の準備状況や心構えを確認する	自己課題への自覚 志気の高揚
14回	実習前指導② ・個人面談による教材等の準備状況や心構えを確認する	自己課題への自覚 志気の高揚
15回	実習後指導 ・実習を振り返り、学びを整理する	自己分析力 整理力

科目名 保育実習指導Ⅰ（保育所）

該当学年	授業科目名	担当教員	
1部1年 2部2年	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員	
サブタイトル	実践を通じた保育所保育の基礎理解	単位数	2※
授業形態	演習	※保育所と施設 合計で2単位	
開講時期	通年	出席要件	
到達目標			
保育士資格を取得するための基本実習である「保育所実習（第1回）」を充実した内容とするために実施する。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、「①幼児教育に対する情熱や責任感を身につけている」、「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」、「③多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている。」ことを目指す。			
授業の方法			
1. 学内オリエンテーションおよび学外オリエンテーション、実習終了後の報告会等を行う。 2. 原則として、重要事項の説明等に関しては講義形式で行う。 3. 各自の考察や作業に関しては、ペアワークやグループワークを通して意見交換や発表を行う。 4. 必要に応じて、ロールプレイを実施する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『実習の手引き』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2017年 教材：『実習録』、VTR等の視聴覚教材等 参考図書：授業で使用のテキスト等			
評価の要点		総合評価割合	
1. 実習前後のレポート課題の内容		レポート	30%
2. 保育実習ノート（保育所）の記録内容		実習ノート	30%
3. 実習録の内容		実習録	30%
4. 授業（実習指導・実習後指導）への貢献度		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. オリエンテーションの欠席・遅刻、提出課題の未提出者は、実習配属を見送る場合がある。 2. 保育を学ぶ実習生としての自覚を持ち授業、実習に臨むこと。 3. 実習オリエンテーションの指導時の服装は、フォーマルスーツで参加すること。			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	実習総合オリエンテーション	保育所実習Ⅰの基礎知識
2回	学内オリエンテーション（1） ①保育所の基礎知識 ②保育所保育の特性 ③保育所と幼稚園	保育所の基礎知識
3回	④保育所実習の意義と目的	実習全般の理解
4回	学内オリエンテーション（2） ①ビデオ視聴（保育所の1日の生活など）	保育所の理解
5回	②個人票の書き方、実習園への連絡の取り方など	保育所の理解
6回	学内オリエンテーション（3） ①配属発表 ②書類配付および事務手続き ③細菌検査の説明	実習全般の理解
7回	学内オリエンテーション（4） OG懇談会（本校卒業の現役保育士を招いて、保育所および実習について話を聞き、意見交換を行う。）	実習全般の理解
8回	学内オリエンテーション（5） ①実習録の記入方法	記録の方法
9回	②部分実習指導案	記録の方法
10回	③ペーパーサート製作と発表	教材の技術 発表力
11回	学外オリエンテーション 実習先の保育所（園）において、実習方法、持ち物、留意事項などについて指導を受ける	実習全般の理解
12回	学内オリエンテーション（6） 実習の心得と諸注意	実習の心構え
13回	実習中の巡回訪問とスーパービジョン	学習成果の確認
14回	実習報告会 ①報告書の作成 ②グループ・ディスカッション	記録の方法 分析力
15回	全体報告会 まとめ	まとめる力

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年後期 2部3年前期	保育実習指導 I (施設)	担当教員	
サブタイトル	施設支援を理解し実践力を高める	単 位 数	2
授業形態	演習・講義形式	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	1部1年後期 2部3年前期		
到 達 目 標			
1. 施設実習の意義と目的を理解する。 2. 施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童や利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習、事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
ディプロマ・ポリシー (専門士授与の方針) との関連			
1. 保育の専門知識を習得し、実践に役立つ基礎を作る。 2. 児童や利用者の個々の特性を多面的に捉え、ニーズにあった支援方法を構築することができる。 3. 児童福祉、障害者福祉についての理解を深めることができる。			
授 業 の 方 法			
施設実習に向けて、実習に際しての諸手続きの遂行と、これまで学んできた乳幼児・児童の養護、福祉、発達、障害等についての授業内容を基本として、実習に向けてそれらが実際の現場で統合実践出来るように学習を進める。 現地施設見学、乳児院、児童養護施設、知的障害児施設、肢体不自由児施設、在宅介護の視聴覚教材を活用し、入所型施設のイメージを構築しながら 施設保育士の役割について理解する。 実習後には実習の内容と自分自身を振り返り、今後の課題や学習目標を明確にできるようにする。			
テキスト・教材・参考図書			
保育実習の手引き・施設実習ノートは必ず毎回、学内施設実習オリエンテーション時には持参すること。			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
学内施設実習オリエンテーション15回の授業に対する、意欲、姿勢、態度、理解度、目標到達度を総合的に判断する。		レポート	30%
		実習事前・事後課題	30%
		実習録の提出	40%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
学内オリエンテーションに必ず全て出席すること。 やむを得ぬ理由により、欠席、遅刻する場合は事前に担当者まで申し出る。 担当者と補講日を相談の上、補講届けを3日以内に提出すること。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 授業の目的、施設実習の意義と目的、概要 ノート作成	施設実習への心構え 授業の目的理解
2回	施設種別理解 (1) 知的障害児者施設 レポート①	知的障害児者への基本 理解・支援の理解
3回	施設種別理解 (2) 児童養護施設 レポート②	児童養護施設の一日の 生活の流れ 支援のイメージ化
4回	施設種別理解 (3) 肢体不自由 在宅ケアと入所型・通所型ケア 施設見学オリエンテーション レポート③	肢体不自由児への入所・通所 型ケアのイメージ化 見学会前の準備、心構え
5回	施設見学会 (1) 入所型施設、支援の概要について	入所型施設の理解、支援 の概要
6回	施設見学会 (2) 支援の様子を見学する 見学レポート④	入所型施設の入所児者 の生活、支援の理解
7回	施設種別理解 (4) 乳児院・母子生活支援施設 レポート⑤	乳児院における保育者 の役割のイメージ化
8回	障害児者の基本的理解 レポート⑥	支援とは QOL 障害児 者理解
9回	配属事前面談・個人表・事前レポート (施設の概要と目標) ⑦	施設の概要、心構え、自己の 課題
10回	実習録 (1) 日誌 (考察・感想・反省)、実習目標の設定 個別支援の必要性理解。配属前事前面談	観察、考察、目標設定、 個人と集団への支援
11回	実習録 (2) 個人の行動記録・部分実習・研究課題について	個人情報保護について、 個人の行動記録、環境、生 活空間の理解
12回	施設配属別指導 種別レポート⑧	事例に学ぶ種別理解、ス キルの獲得、要点理解
13回	実習直前指導 記録の閲覧、緊急連絡手順、諸注意事項	健康管理、緊急連絡手順 実習のイメージ化
14回	巡回訪問とスーパービジョン 支援の現場における自己課題と向き 合い目標達成に向けて再構築を行う	自己課題の遂行 目標の再構築
15回	反省会 実習の振り返りとまとめ、体験共有、気持ちの整理、新たな 発見のためのグループシェアリング 実習後レポート⑨	体験レポート発表、自己 理解と新たな課題設定

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	保育実習指導Ⅲ	担当教員	
サブタイトル	施設支援を理解し実践力を高める	単位数	1
授業形態	演習		
開講時期	通年	出席要件	
到達目標			
保育士としての専門性を高め、施設等で勤務する保育士としての役割を理解することができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、「①幼児教育に対する情熱や責任感を身につけている」、「②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」、「③多様な協働学習を通して、豊かな人間性を身につけている。」ことを目指す。			
授 業 の 方 法			
1. 学内オリエンテーションおよび学外オリエンテーション、実習終了後の報告会等を行う。 2. 原則として、重要事項の説明等に関しては講義形式で行う。 3. 各自の考察や作業に関しては、ペアワークやグループワークを通して意見交換や発表を行う。 4. 必要に応じて、ロールプレイを実施する。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『実習の手引き』、『保育所保育指針』平成30年 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 2017年 教材：『実習録』、VTR等の視聴覚教材等 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年 授業で使用するテキスト等			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
1. 実習オリエンテーションでのレポート		レポート	30%
2. 事前・事後レポート課題		実習ノート	30%
3. 実習録の内容		実習録	30%
4. 実習前指導・実習後指導への参加度		授業への貢献度	10%
以上のことを総合的に判断する。			
履修上の注意事項や学習上の助言など			
保育士資格取得のための選択必修科目である。 学内オリエンテーションへの欠席者、実習前レポートの未提出者に対しては、実習中止の措置をとる場合がある。			

科 目 名 保育実習指導Ⅲ

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス 本授業の目的、内容、進め方を理解する。保育実習Ⅲ（施設）の目的、概要、心構えを学ぶ。	学習目標の設定
2回	保育実習Ⅰ（施設）の振り返り①（施設の目的と役割・機能） 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りを通し、各種施設の目的と役割・機能について理解を深める。	各種施設の目的、役割・機能の理解
3回	保育実習Ⅰ（施設）の振り返り②（保育士・生活支援員の業務内容・役割） 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りを通し、各施設における保育士や生活支援員の業務内容や役割について理解を深める。	保育士・生活支援員の業務内容の理解
4回	支援実践のための事例研究①（受容と共感） かかわりにおける受容的、共感的態度の意義について検討する。	受容と共感の意義に関する理解
5回	支援実践のための事例研究②（ニーズの把握とひとり一人の理解） 個人差や生活環境に由来するニーズの把握、そして、ひとり一人を理解することの意義について検討する。	ニーズ把握と個別理解の意義に関する理解
6回	支援実践のための事例研究③（個別支援計画の作成と支援） 個別支援計画の意義を理解し、計画の作成とそれに基づく支援について具体的に学ぶ。	個別支援計画の策定力の習得
7回	支援実践のための事例研究④（家庭支援） 保護者、きょうだい等家庭支援の事例をもとに、家庭の状況把握とそれに基づく支援を具体的に検討する。	家庭支援に関する理解
8回	実習関係書類の作成等について 実習に際し、施設や大学等に提出する書類の作成について学ぶ。	公文書作成における基礎的能力
9回	支援実践のための事例研究⑤（他職との連携） 児童や利用者に対する各種専門職の役割・機能を理解し、連携のあり方を具体的に検討する。	各種専門職の役割や連携に関する理解
10回	支援実践のための事例研究⑥（地域社会との連携） 児童や利用者を取り巻く社会資源の現状について確認したうえで、その有効的活用のある方を検討する。	社会資源の活用に関する理解
11回	職業倫理の理解とそれに基づく実践 支援等業務を行う際に遵守すべきことについて、各種施設の職業倫理規定等を拠り所に理解し、実践に備える。	職業倫理に関する理解
12回	実習に際しての健康管理、諸検査について 実習前、実習中の健康管理と、実習前に行う諸検査、及び、施設に提出する検査報告書等について学ぶ。	健康管理や諸検査等の意味と実行、証明に関する理解
13回	直前学習 実習における各自の課題を達成するためにこれまでの学習内容を振り返り、準備事項の確認と必要に応じて知識等の補充を行う。	事前確認能力の獲得
14回	実習の総括と自己評価 養育、及び、支援の場の現状を振り返り、あわせて、現在の自分自身について考える。	実践の場の現状把握と自己覚知
15回	今後の学習課題 実習を振り返り、今後の学習課題について各自検討、考察する。	新たな学習課題の設定



SEITOKU UNIVERSITY